

19) とても悲しい気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が74.9%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が19.7%となっている。

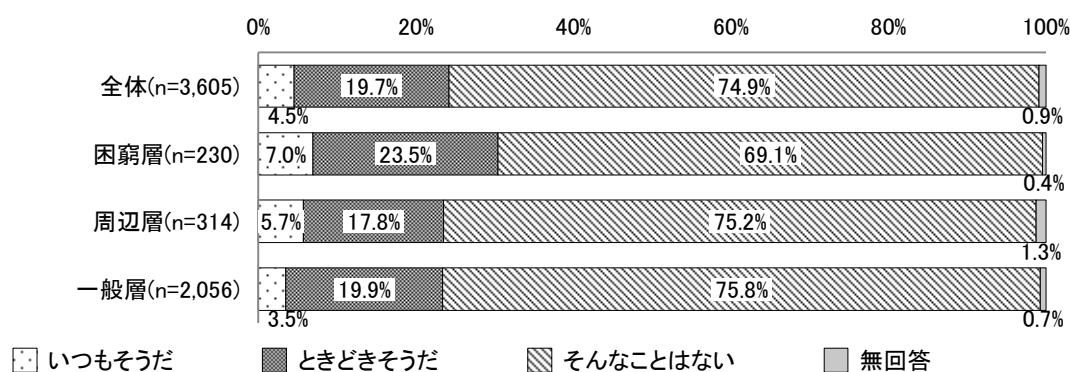
「困窮層」では、「そんなことはない」が69.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が75.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が75.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が65.0%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が26.5%となっている。

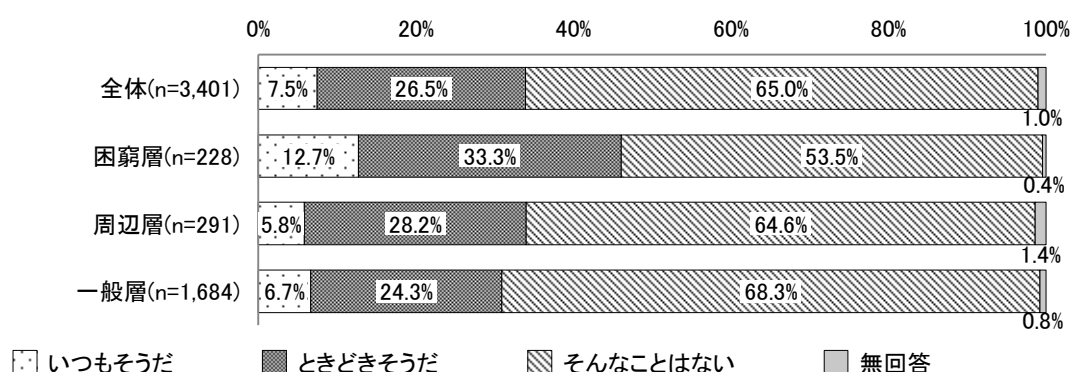
「困窮層」では、「そんなことはない」が53.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が64.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が68.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 353 とても悲しい気がする：単数回答（Q32Q）（生活困難度別）

<小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.01)



20) とても退屈な気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 58.8%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 32.5%となっている。

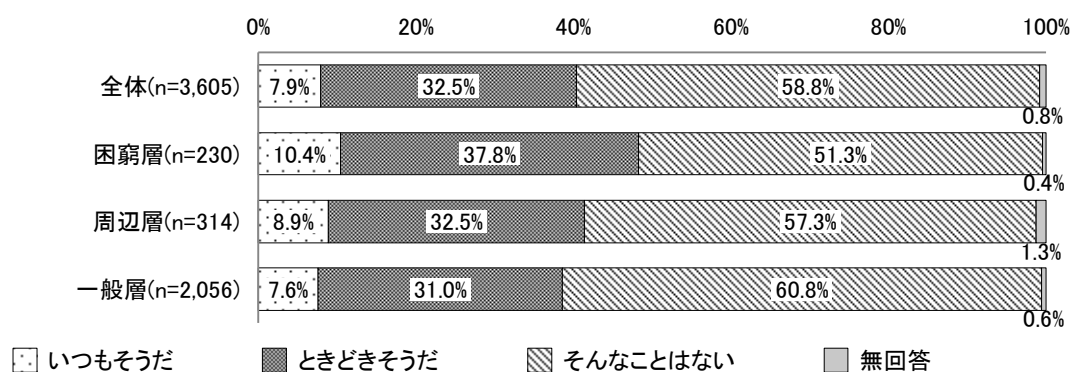
「困窮層」では、「そんなことはない」が 51.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 57.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 60.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 34.1%となっている。

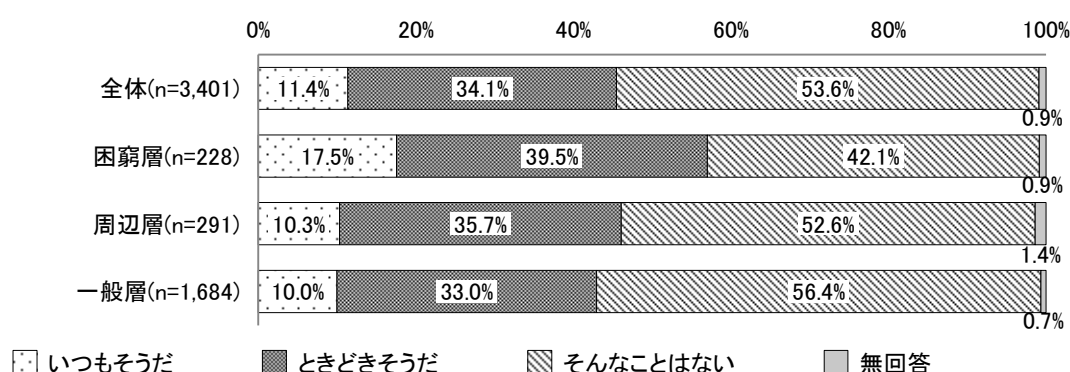
「困窮層」では、「そんなことはない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 354 とても退屈な気がする：単数回答（Q32R）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（ $p<.01$ ）



(9) 自己肯定感について

1) がんばれば、むくわれる

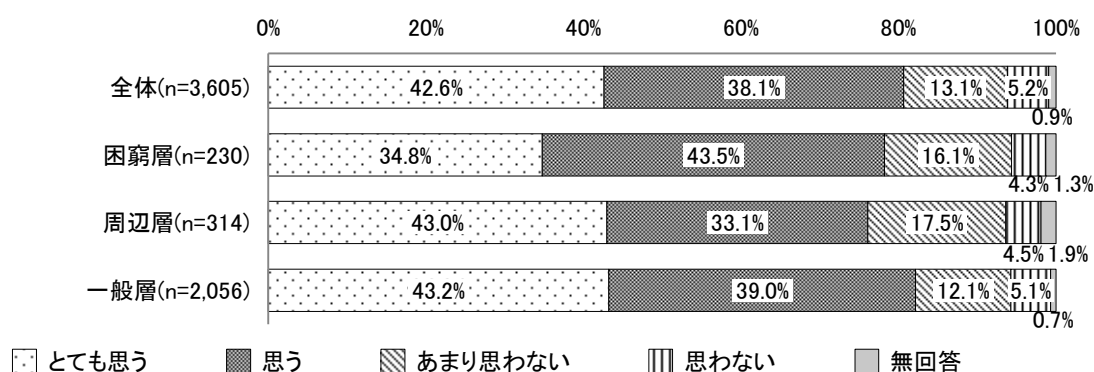
小学生の「全体」では、「とても思う」が 42.6%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 38.1%となっている。

「困窮層」では、「思う」が 43.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 43.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 43.2%でもっとも割合が高くなっている。

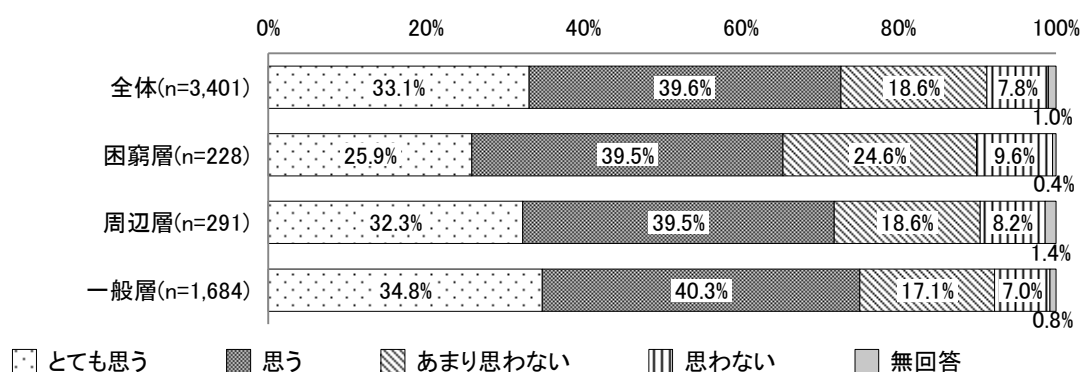
中学生の「全体」では、「思う」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 33.1%となっている。

「困窮層」では、「思う」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 40.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 355 がんばれば、むくわれる：単数回答（Q33A）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.05$ ）

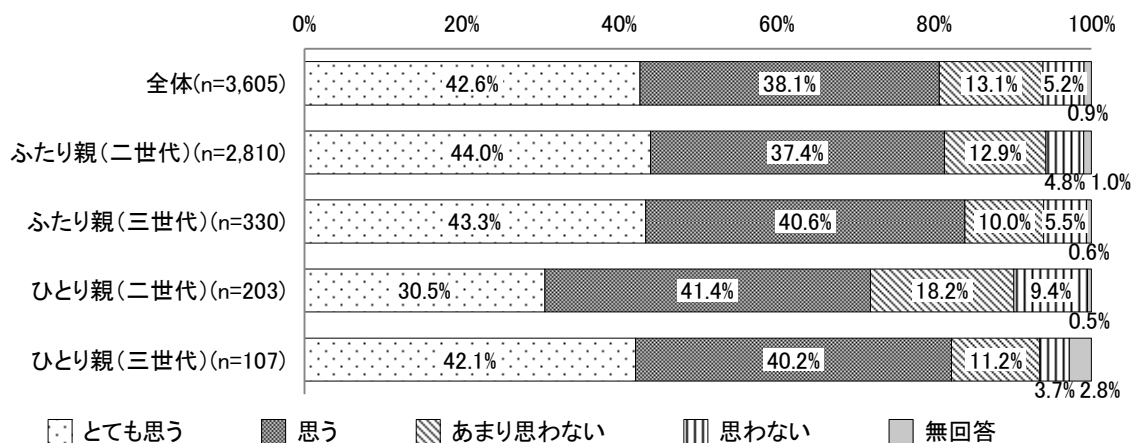


＜中学生＞（ $p<.05$ ）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「とても思う」とする割合が低くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 356 がんばれば、むくわれる：単数回答（Q33A）（世帯タイプ別）
 <小学生>（ $p<.01$ ）



2) 自分は価値のある人間だ

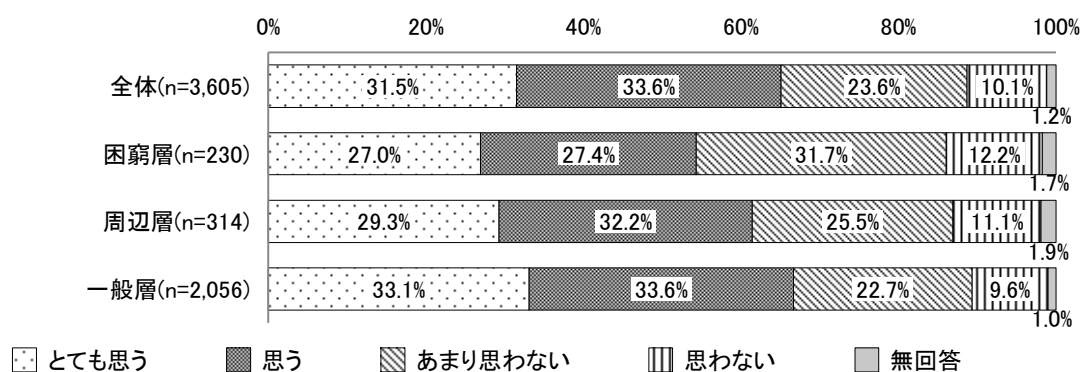
小学生の「全体」では、「思う」が 33.6%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 31.5%となっている。

「困窮層」では、「あまり思わない」が 31.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 32.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 33.6%でもっとも割合が高くなっている。

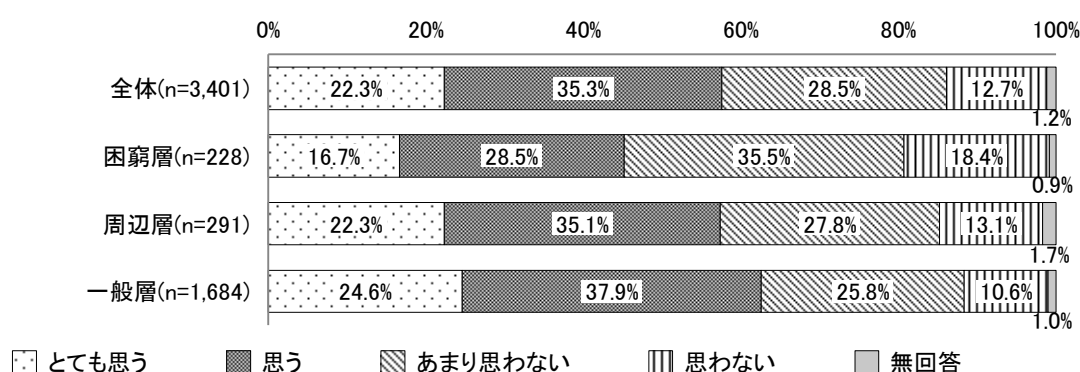
中学生の「全体」では、「思う」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 28.5%となっている。

「困窮層」では、「あまり思わない」が 35.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 37.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 357 自分は価値のある人間だ：単数回答（Q33B）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.05$ ）

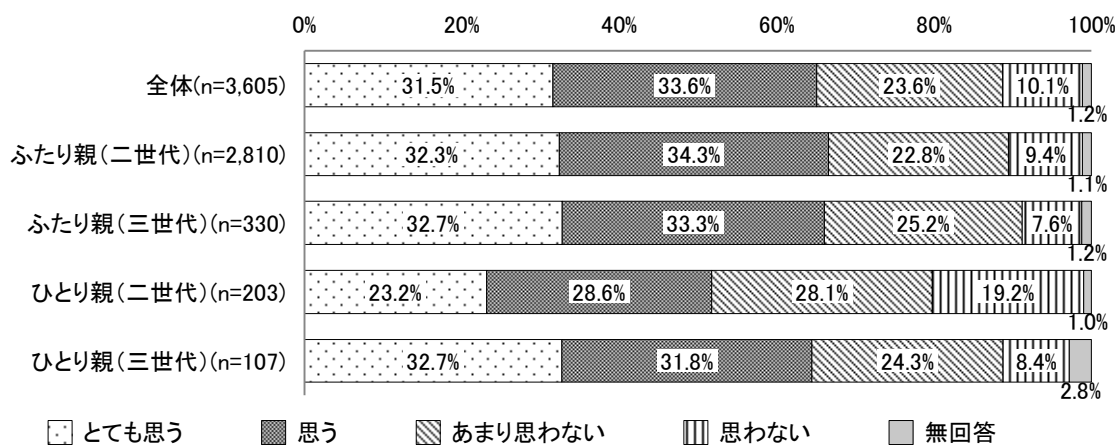


＜中学生＞（ $p<.01$ ）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において「とても思う」とする割合が低くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 358 自分は価値のある人間だ：単数回答（Q33B）（世帯タイプ別）
 ＜小学生＞（ $p<.01$ ）



3) 自分は家族に大事にされている

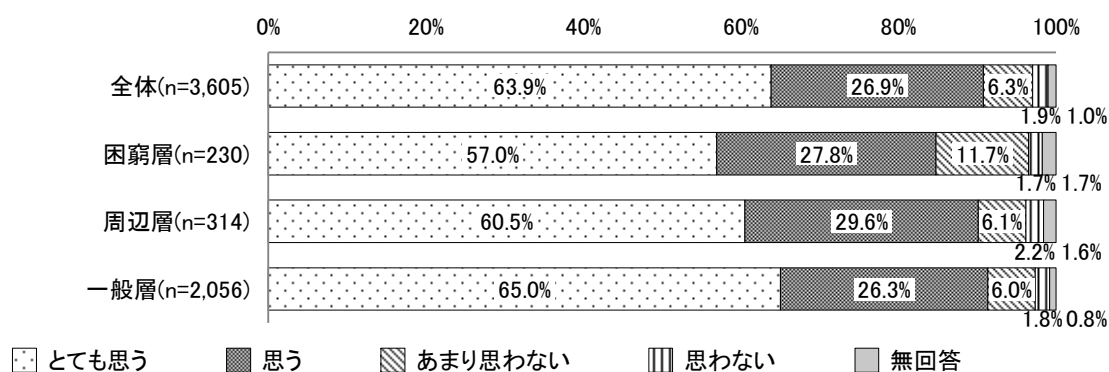
小学生の「全体」では、「とても思う」が 63.9%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 26.9%となっている。

「困窮層」では、「とても思う」が 57.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 60.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 65.0%でもっとも割合が高くなっている。

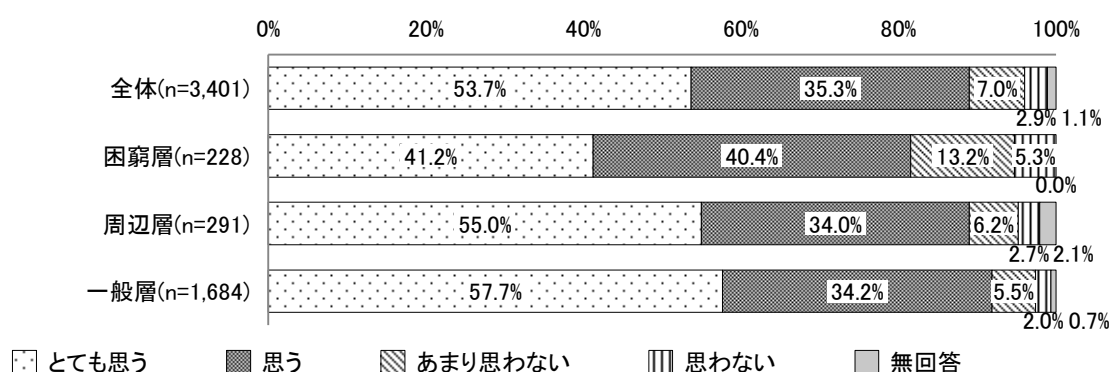
中学生の「全体」では、「とても思う」が 53.7%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 35.3%となっている。

「困窮層」では、「とても思う」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 55.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 359 自分は家族に大事にされている：単数回答（Q33C）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.05$ ）

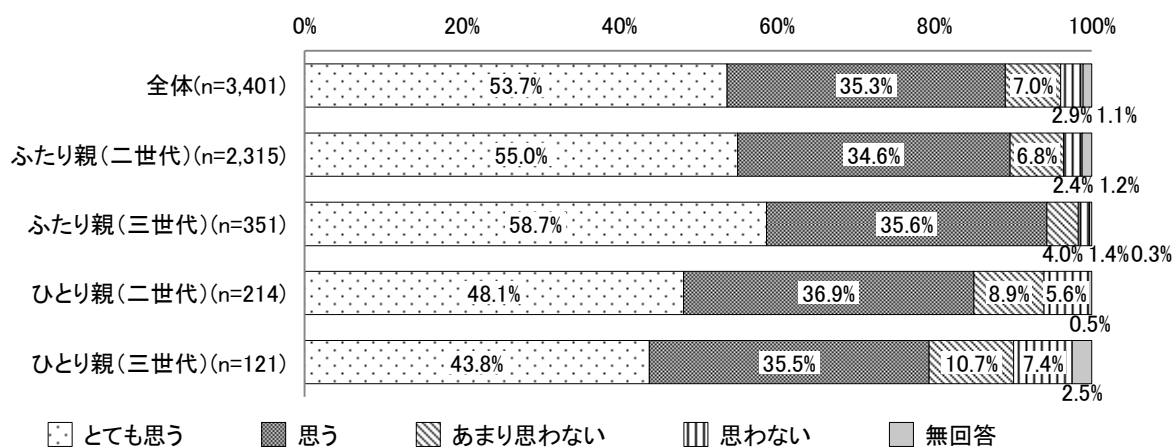


＜中学生＞（ $p<.01$ ）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「とても思う」とする割合が低くなっている。

図表 360 自分は家族に大事にされている：単数回答（Q33C）（世帯タイプ別）
 <中学生>（ $p<.01$ ）



4) 不安に感じることもある

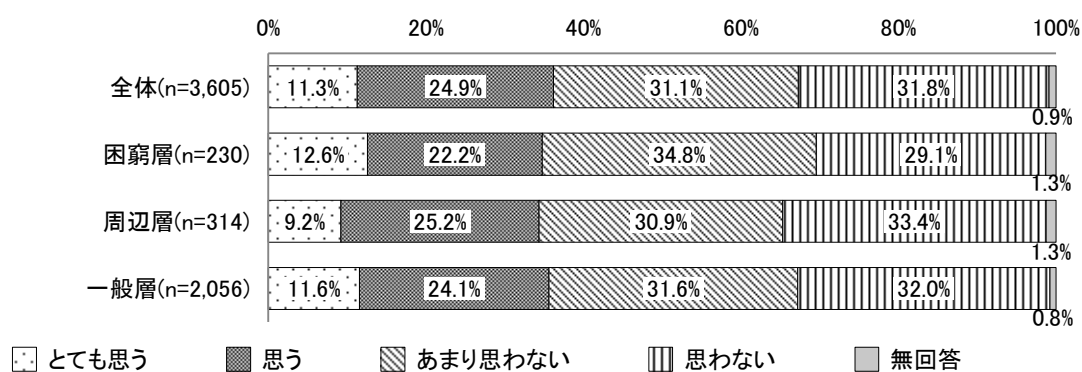
小学生の「全体」では、「思わない」が 31.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 31.1%となっている。

「困窮層」では、「あまり思わない」が 34.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思わない」が 33.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思わない」が 32.0%でもっとも割合が高くなっている。

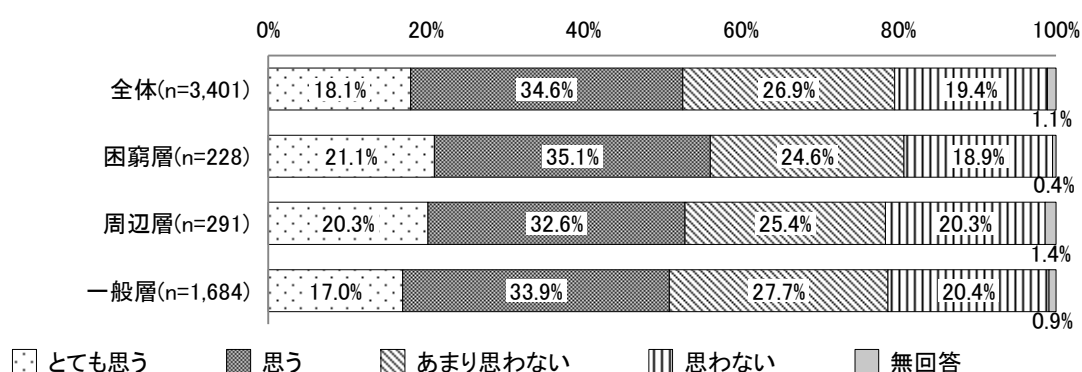
中学生の「全体」では、「思う」が 34.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 26.9%となっている。

「困窮層」では、「思う」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 32.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 33.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 361 不安に感じることもある：単数回答（Q33D）（生活困難度別）
＜小学生＞（有意差なし）

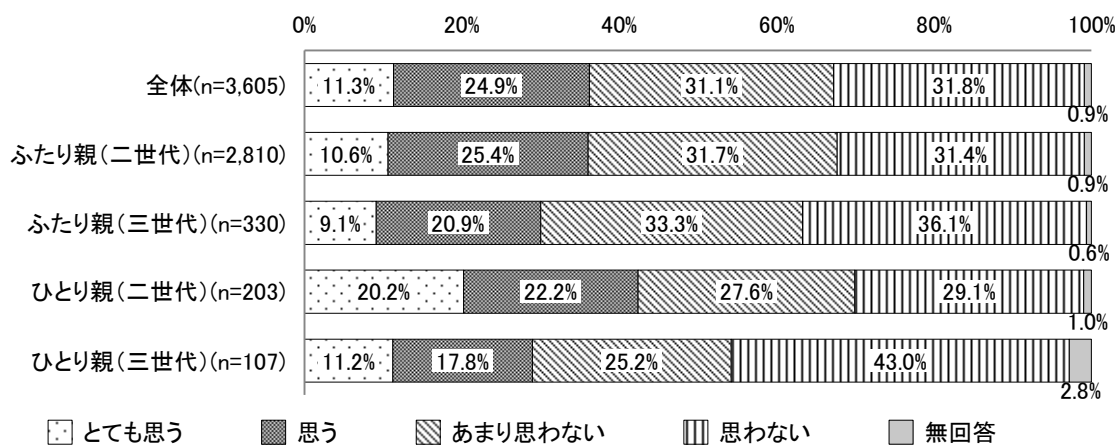


＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において「とても思う」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 362 不安に感じることもある：単数回答（Q33D）（世帯タイプ別）
 <小学生>（ $p<.01$ ）



5) 孤独を感じることもある

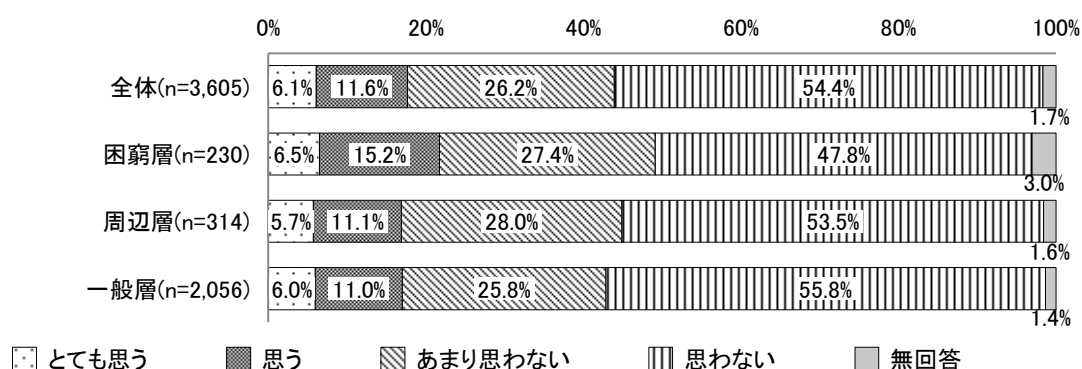
小学生の「全体」では、「思わない」が 54.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 26.2%となっている。

「困窮層」では、「思わない」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思わない」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思わない」が 55.8%でもっとも割合が高くなっている。

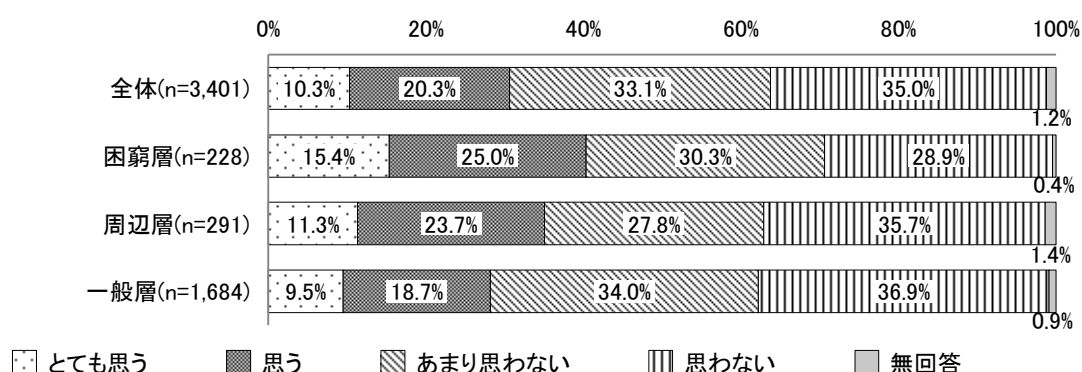
中学生の「全体」では、「思わない」が 35.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 33.1%となっている。

「困窮層」では、「あまり思わない」が 30.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思わない」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思わない」が 36.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 363 孤独を感じることもある：単数回答（Q33E）（生活困難度別）
＜小学生＞（有意差なし）

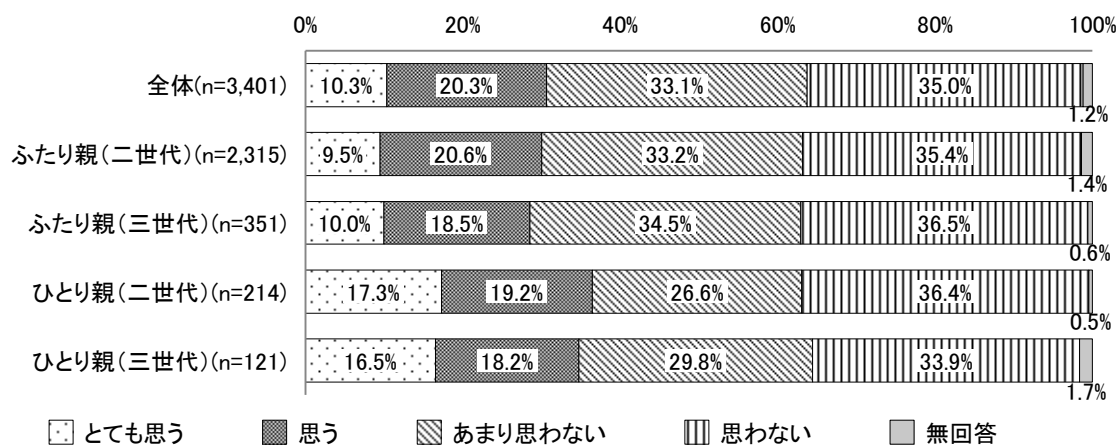


＜中学生＞（ $p<.01$ ）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「とても思う」とする割合が高くなっている。

図表 364 孤独を感じることもある：単数回答（Q33E）（世帯タイプ別）
 <中学生>（ $p<.05$ ）



6) 自分は友達に好かれている

小学生の「全体」では、「思う」が 45.0%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 26.6%となっている。

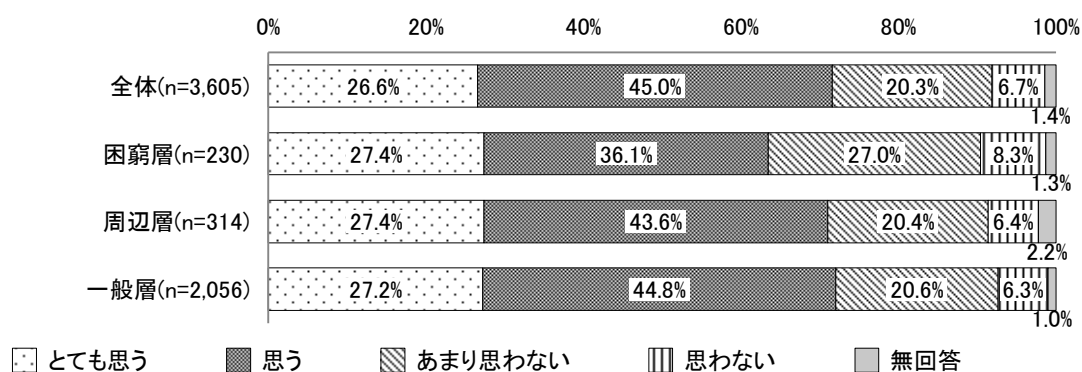
「困窮層」では、「思う」が 36.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 44.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 52.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 20.8%となっている。

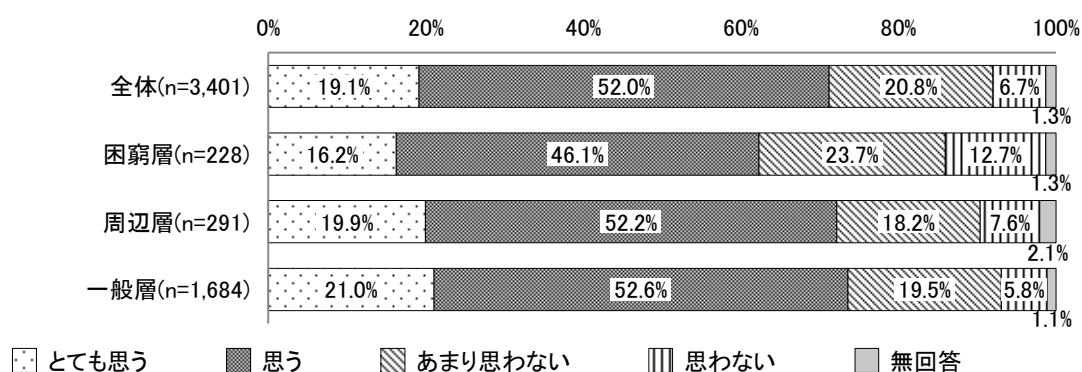
「困窮層」では、「思う」が 46.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 365 自分は友達に好かれている：単数回答（Q33F）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）

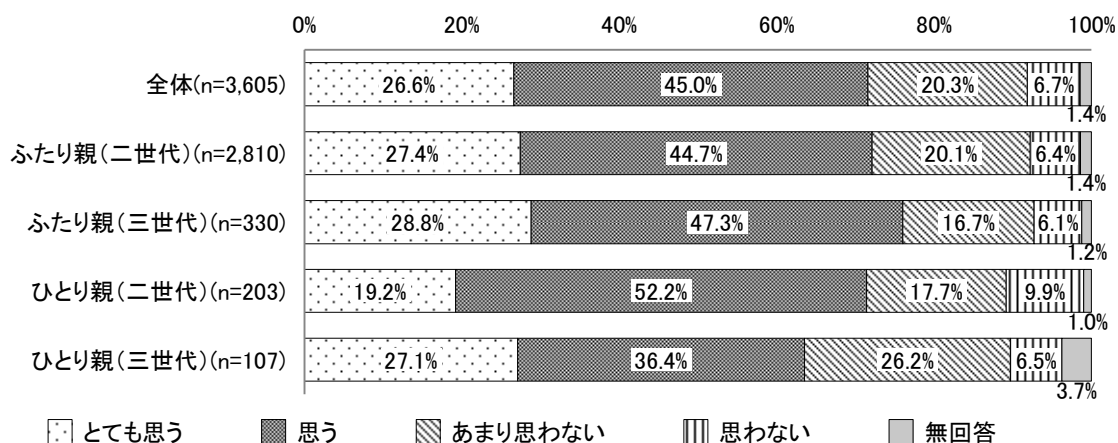


<中学生>（ $p < .01$ ）

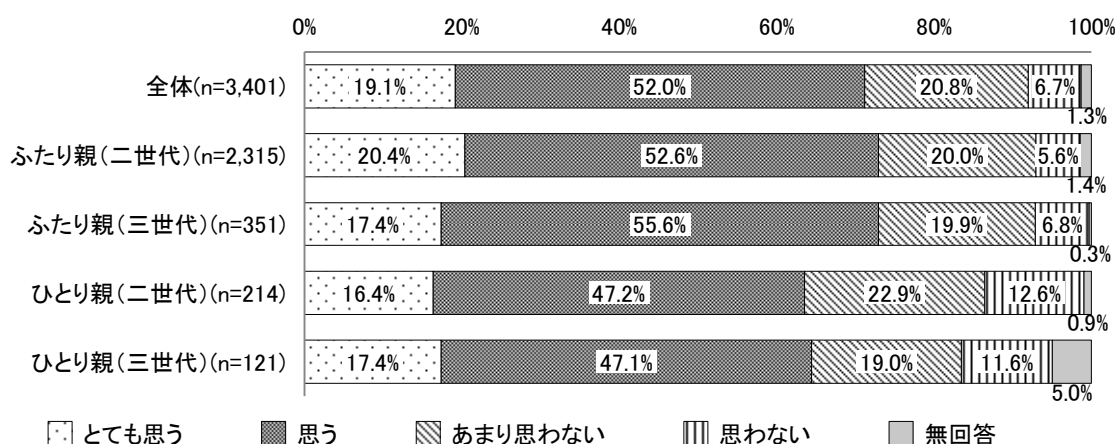


世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において「とても思う」とする割合が低くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」「ひとり親（三世帯）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 366 自分は友達に好かれている：単数回答（Q33F）（世帯タイプ別）
 ＜小学生＞（ $p<.05$ ）



＜中学生＞（ $p<.01$ ）



7) 積極的に色々な人と話したい

小学生の「全体」では、「とても思う」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 29.2%となっている。

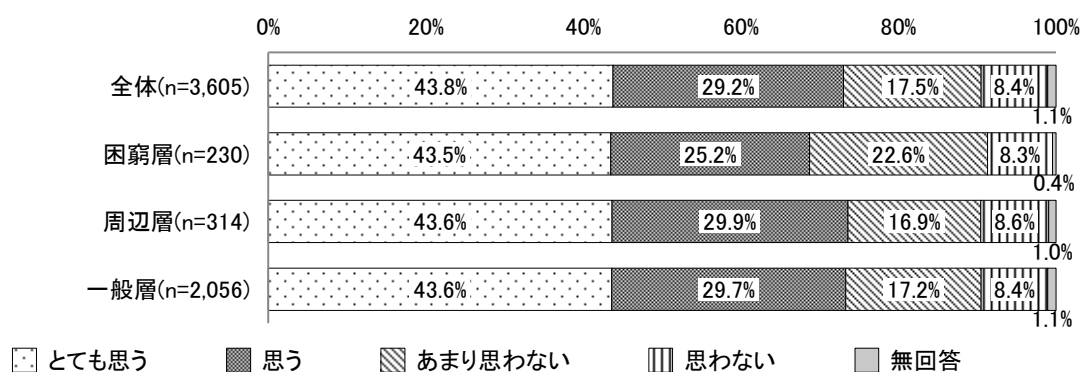
「困窮層」では、「とても思う」が 43.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても思う」が 38.7%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 31.3%となっている。

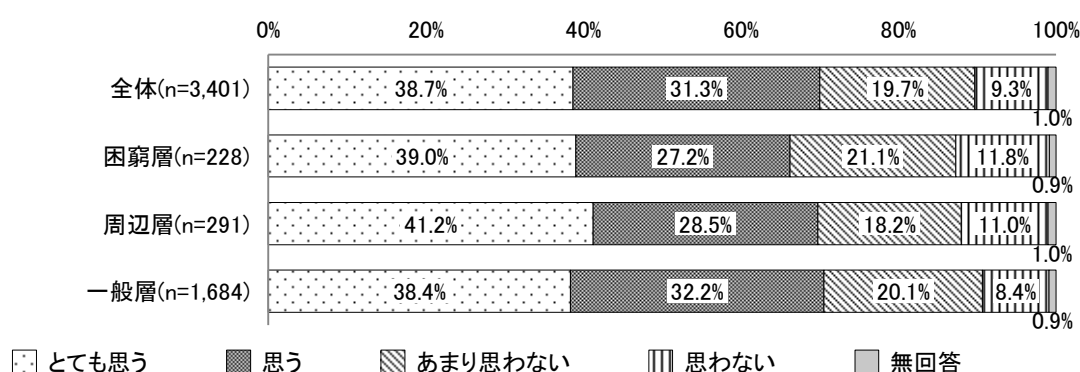
「困窮層」では、「とても思う」が 39.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 38.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 367 積極的に色々な人と話したい：単数回答（Q33G）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）

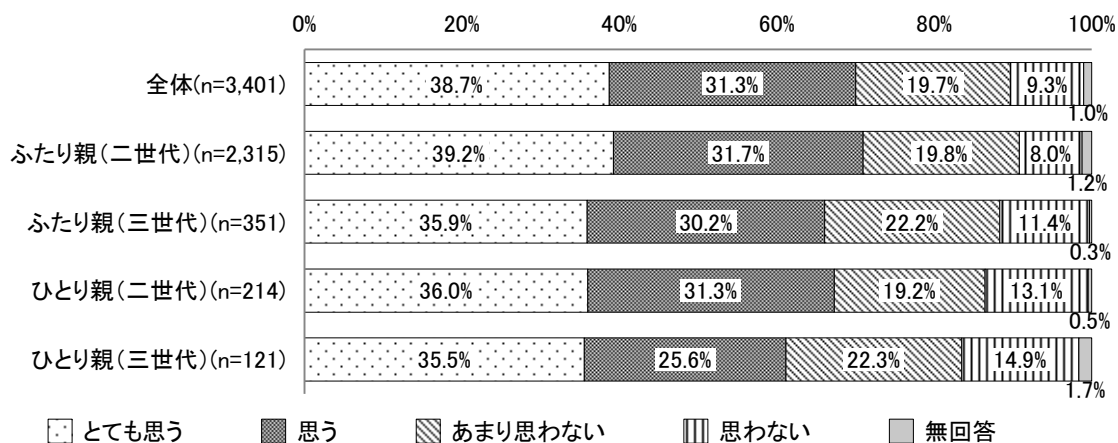


<中学生>（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 368 積極的に色々な人と話したい：単数回答（Q33G）（世帯タイプ別）
 ＜中学生＞（ $p<.05$ ）



8) 自分の将来が楽しみだ

小学生の「全体」では、「とても思う」が 52.8%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 24.9%となっている。

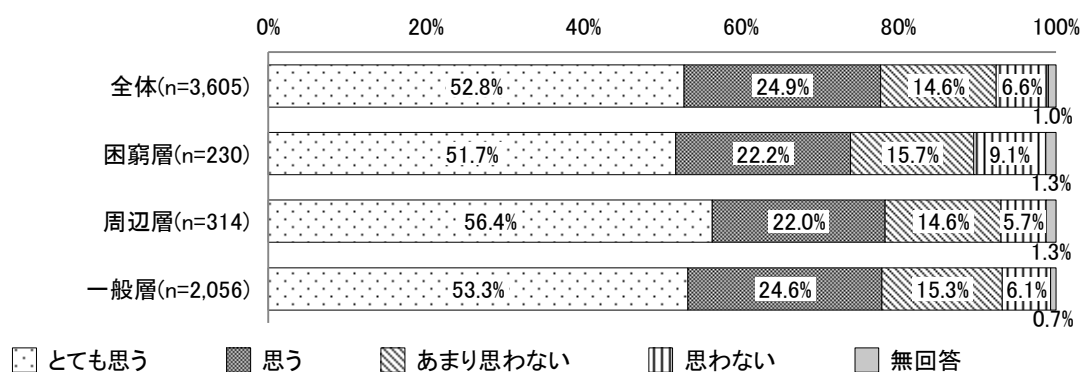
「困窮層」では、「とても思う」が 51.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 53.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 31.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 29.0%となっている。

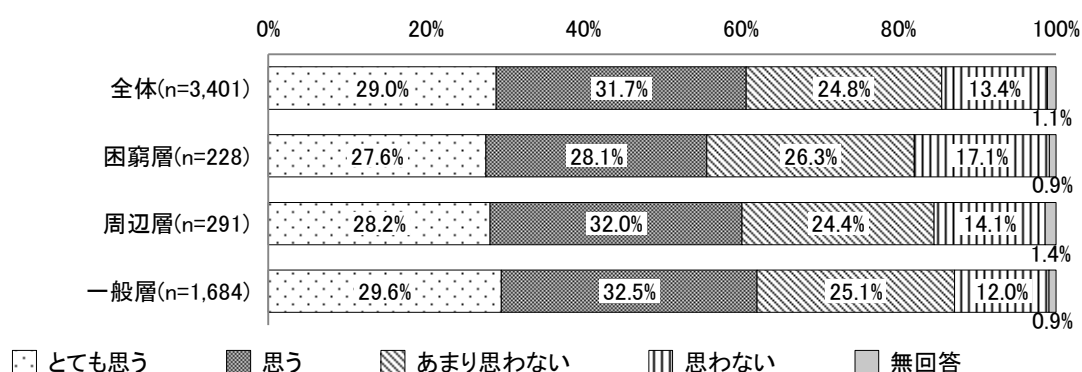
「困窮層」では、「思う」が 28.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 32.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 32.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 369 自分の将来が楽しみだ：単数回答（Q33H）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）

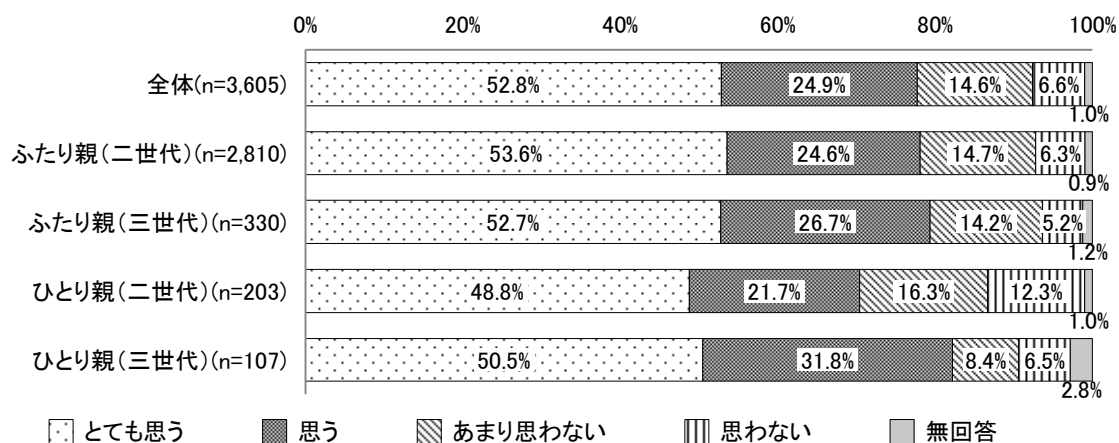


<中学生>（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 370 自分の将来が楽しみだ：単数回答（Q33H）（世帯タイプ別）
 ＜小学生＞（ $p<.05$ ）



9) 自分のことが好きだ

小学生の「全体」では、「とても思う」が 36.1%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 30.9%となっている。

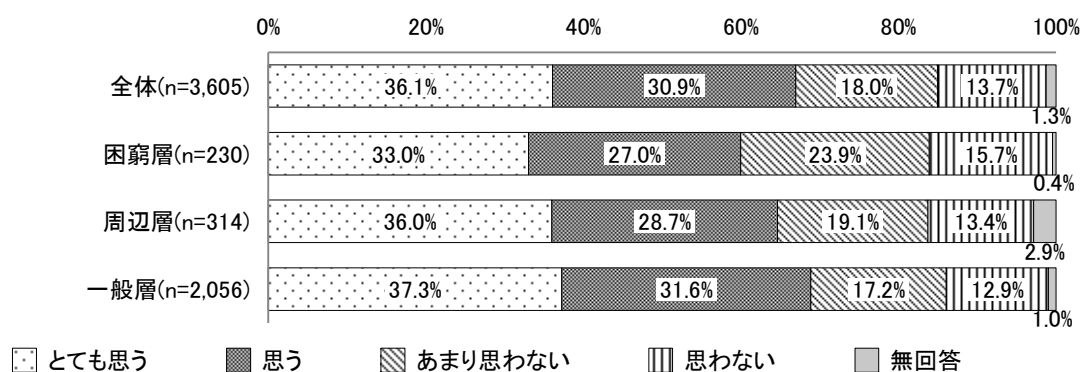
「困窮層」では、「とても思う」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 37.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 31.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 24.8%となっている。

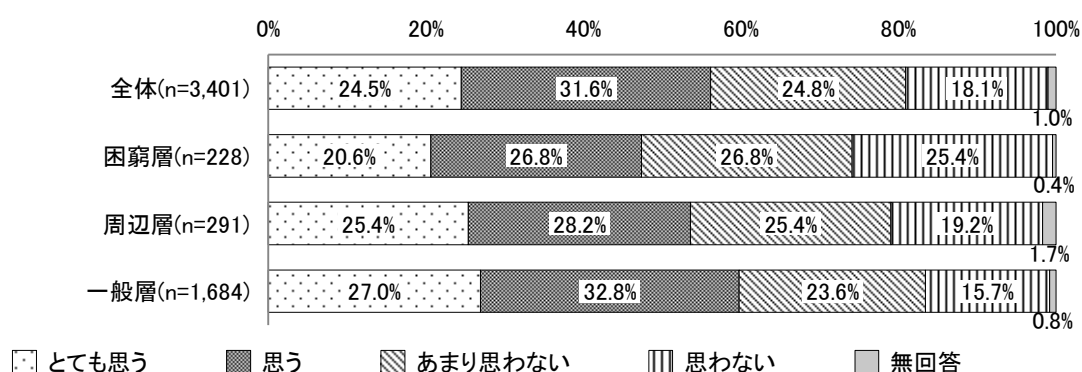
「困窮層」では、「思う」「あまり思わない」が 26.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 28.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 32.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 371 自分のことが好きだ：単数回答（Q33I）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



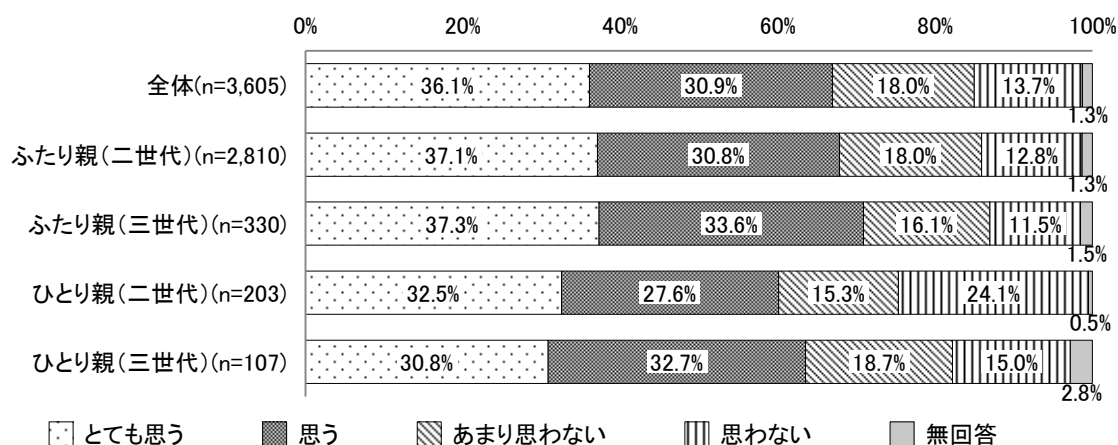
<中学生>（ $p<.01$ ）



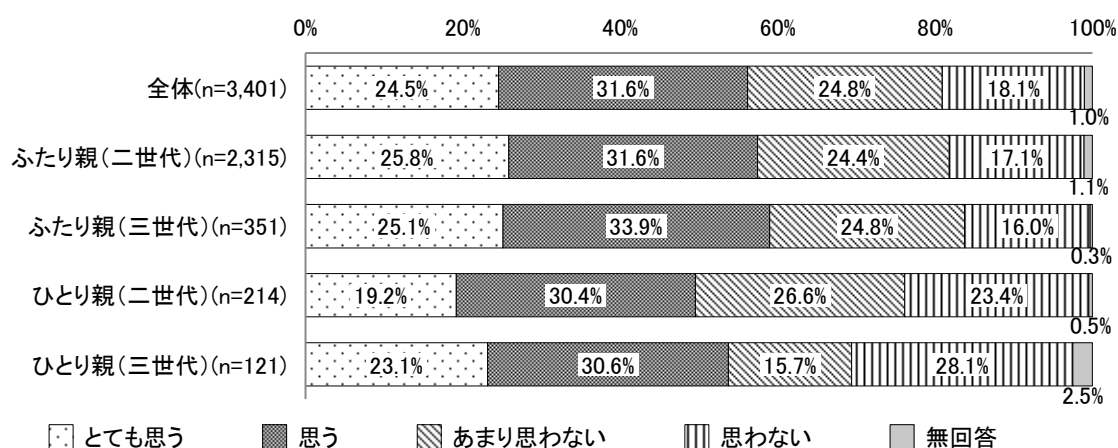
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 372 自分のことが好きだ：単数回答（Q33I）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



(10) 支援場所の利用意向

1) 平日の放課後に夜までいることができる場所

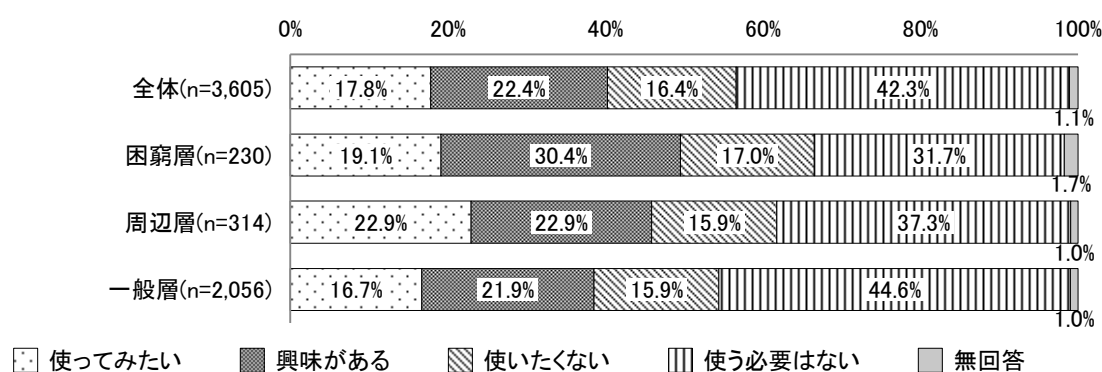
小学生の「全体」では、「使う必要はない」が42.3%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が22.4%となっている。

「困窮層」では、「使う必要はない」が31.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が37.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が44.6%でもっとも割合が高くなっている。

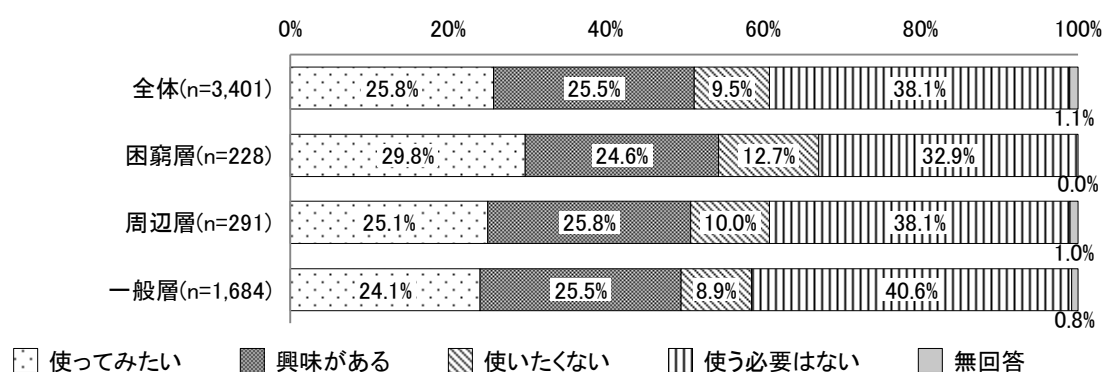
中学生の「全体」では、「使う必要はない」が38.1%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が25.8%となっている。

「困窮層」では、「使う必要はない」が32.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が38.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が40.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 373 平日の放課後に夜までいることができる場所：単数回答（Q34A）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.01$ ）

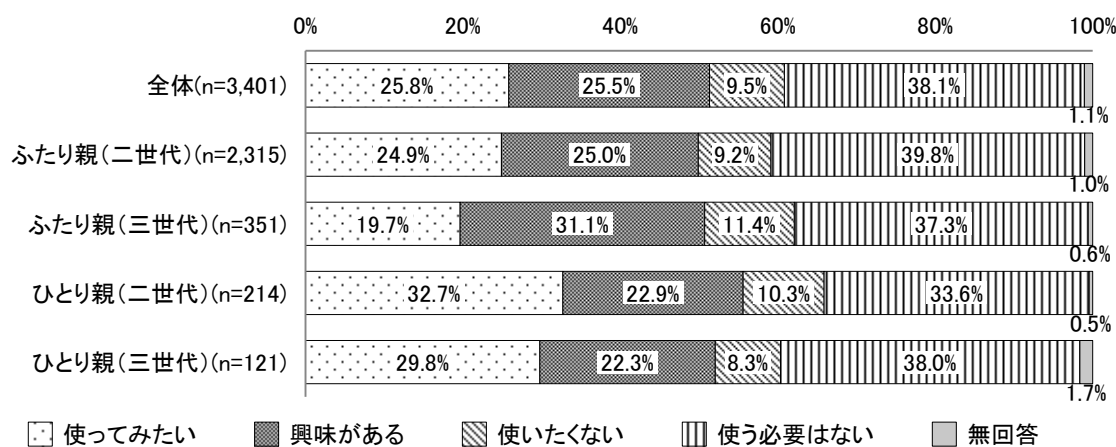


＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において「使ってみたい」とする割合が高くなっている。

図表 374 平日の放課後に夜までいることができる場所：単数回答（Q34A）（世帯タイプ別）
 <中学生>（ $p<.05$ ）



2) 休日にいることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 33.6%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 28.2%となっている。

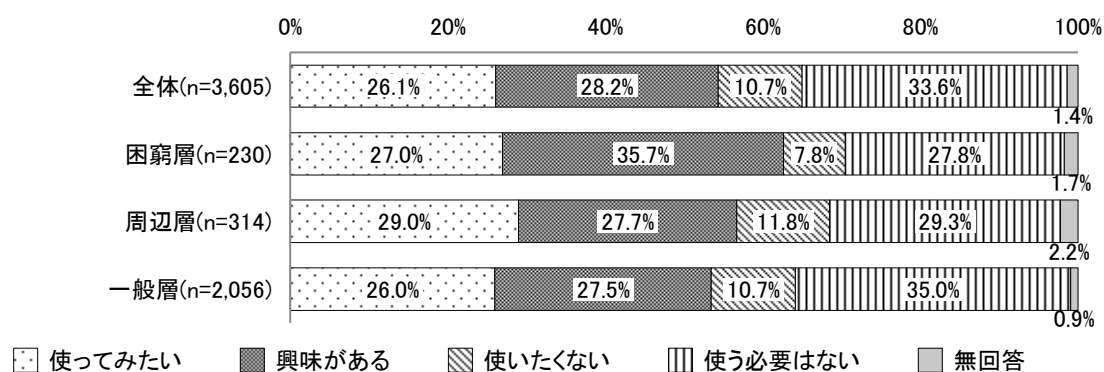
「困窮層」では、「興味がある」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 29.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 35.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 29.6%となっている。

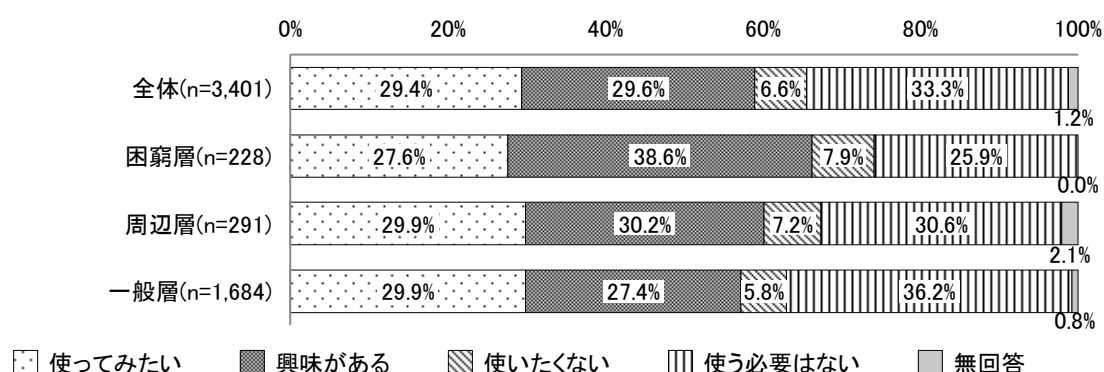
「困窮層」では、「興味がある」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 30.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 36.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 375 休日にいることができる場所：単数回答（Q34B）（生活困難度別）

<小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.01)



3) 家の人がいらない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が36.3%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が27.2%となっている。

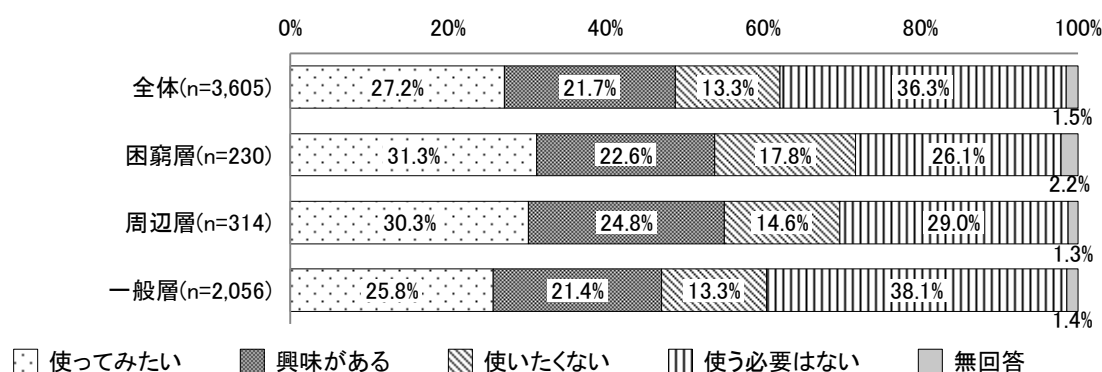
「困窮層」では、「使ってみたい」が31.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使ってみたい」が30.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が38.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が45.8%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が22.1%となっている。

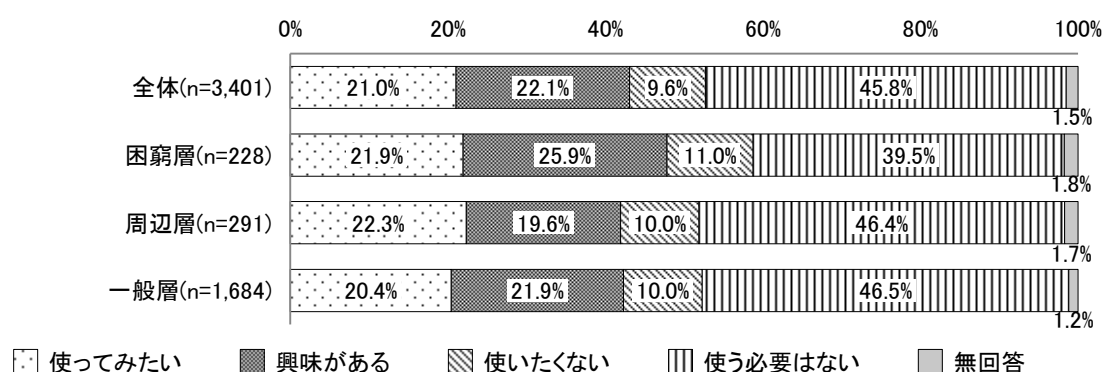
「困窮層」では、「使う必要はない」が39.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が46.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が46.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 376 家の人がいらない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所：単数回答
(Q34C) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



4) 家で勉強できない時、静かに勉強できる場所

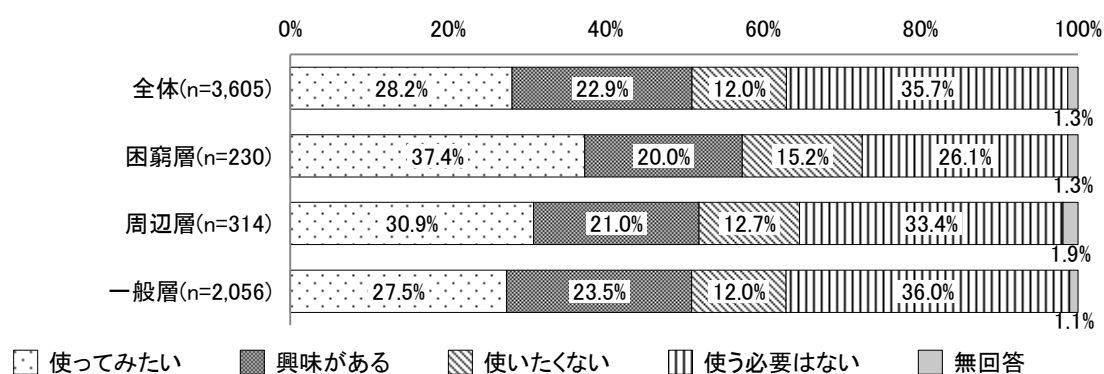
小学生の「全体」では、「使う必要はない」が35.7%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が28.2%となっている。

「困窮層」では、「使ってみたい」が37.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が33.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が36.0%でもっとも割合が高くなっている。

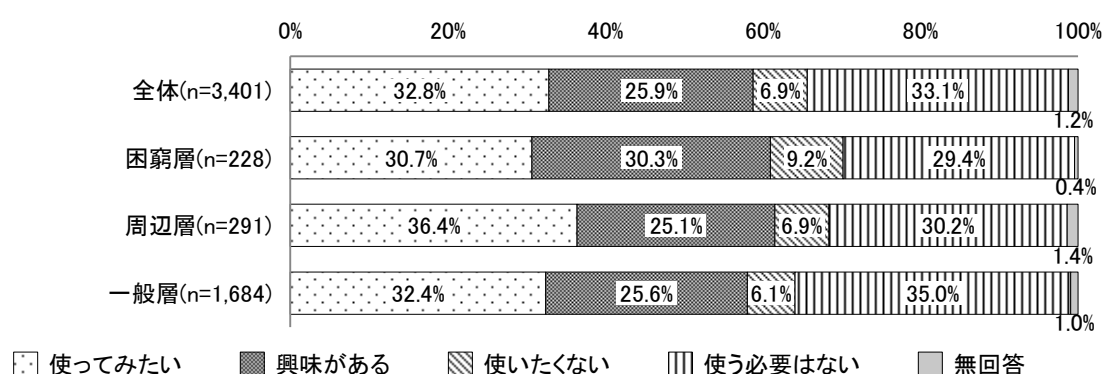
中学生の「全体」では、「使う必要はない」が33.1%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が32.8%となっている。

「困窮層」では、「使ってみたい」が30.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使ってみたい」が36.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が35.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 377 家で勉強できない時、静かに勉強できる場所：単数回答（Q34D）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.01$ ）



＜中学生＞（有意差なし）



5) 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 42.7%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 21.4%となっている。

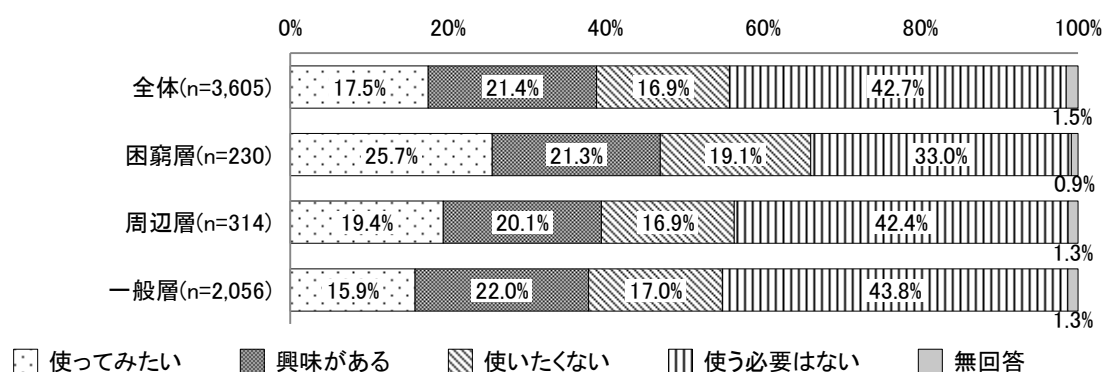
「困窮層」では、「使う必要はない」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 42.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 43.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 43.1%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 23.3%となっている。

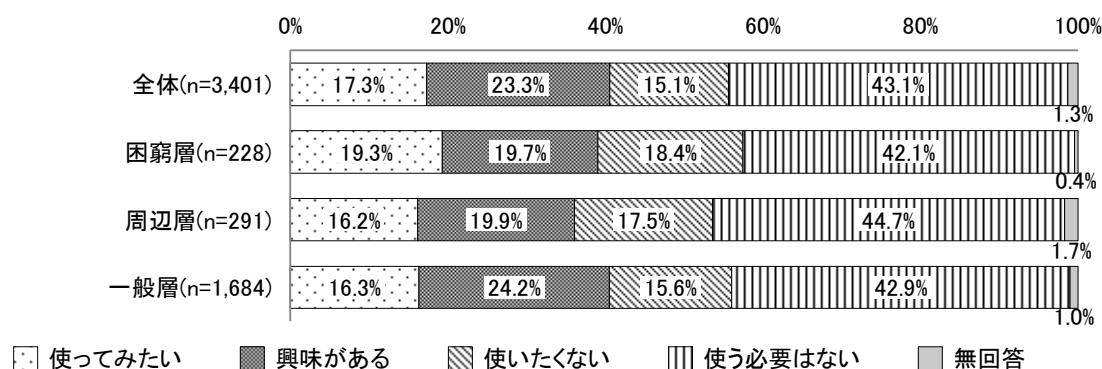
「困窮層」では、「使う必要はない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 42.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 378 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてる場所：単数回答（Q34E）
（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



6) なんでも相談できる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が44.5%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が23.0%となっている。

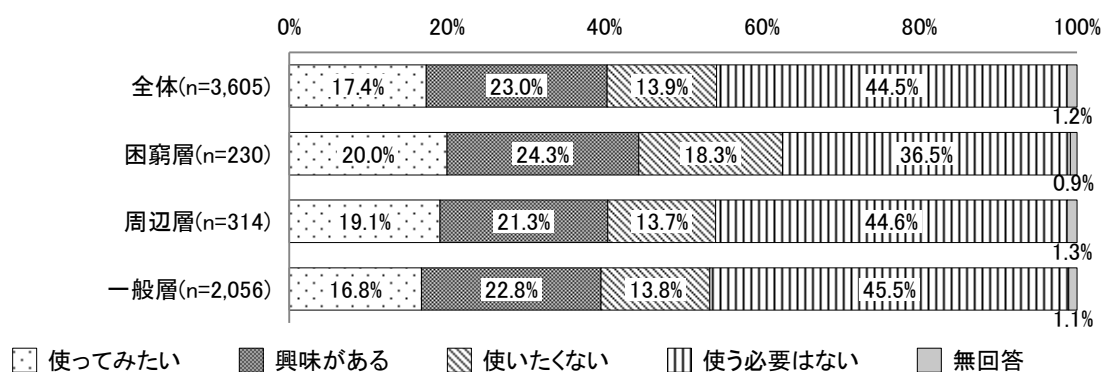
「困窮層」では、「使う必要はない」が36.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が44.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が45.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が51.9%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が22.3%となっている。

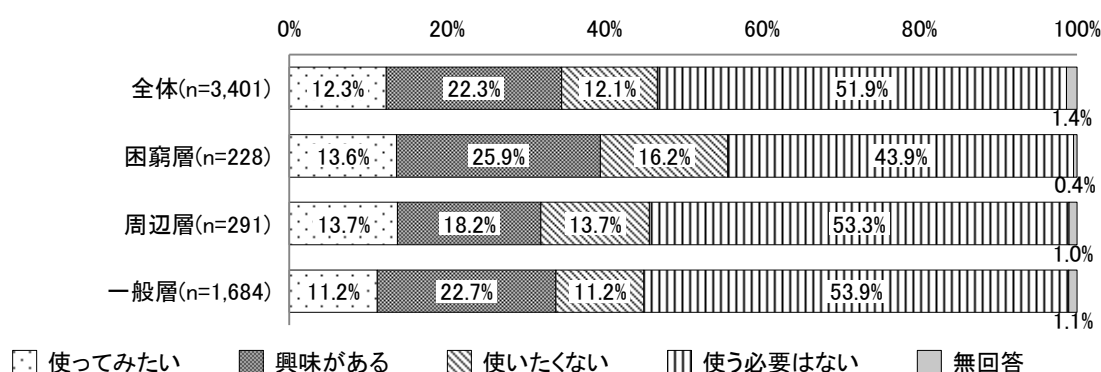
「困窮層」では、「使う必要はない」が43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が53.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が53.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 379 なんでも相談できる場所：単数回答（Q34F）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（ $p<.05$ ）



7) 困ったときに自分のところまで来て相談にのってくれる人

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が41.1%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が23.8%となっている。

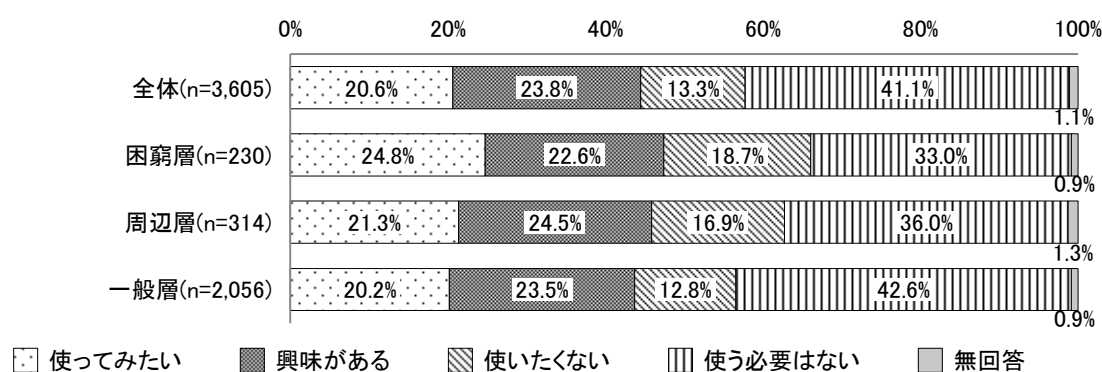
「困窮層」では、「使う必要はない」が33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が42.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が21.7%となっている。

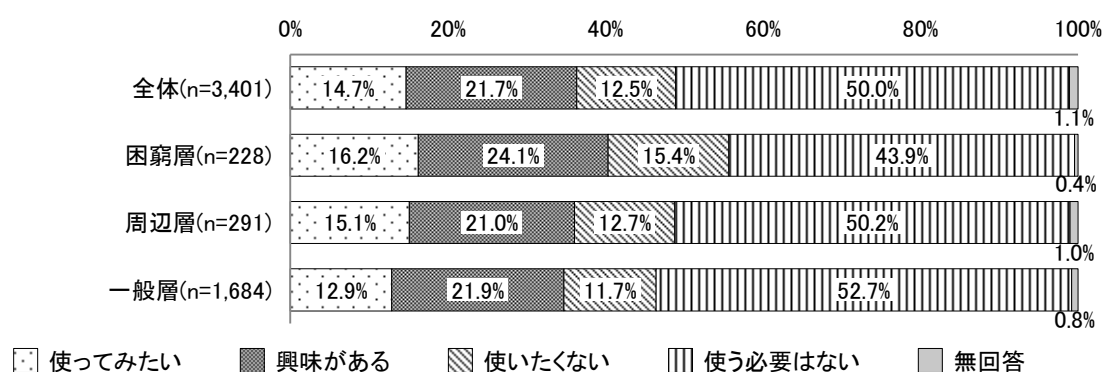
「困窮層」では、「使う必要はない」が43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が50.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が52.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 380 困ったときに自分のところまで来て相談にのってくれる人：単数回答（Q34G）（生活困難度別）

<小学生> (p<.05)



<中学生> (有意差なし)



(1 1) 新型コロナウイルス感染症の影響

1) コロナ流行頃の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間

小学生の「全体」では、「変わらない」が 49.3%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 29.2%となっている。

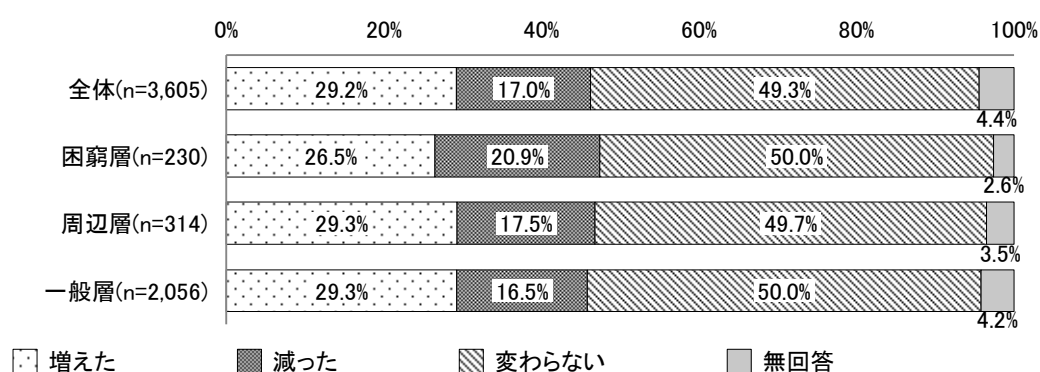
「困窮層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 49.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 28.2%となっている。

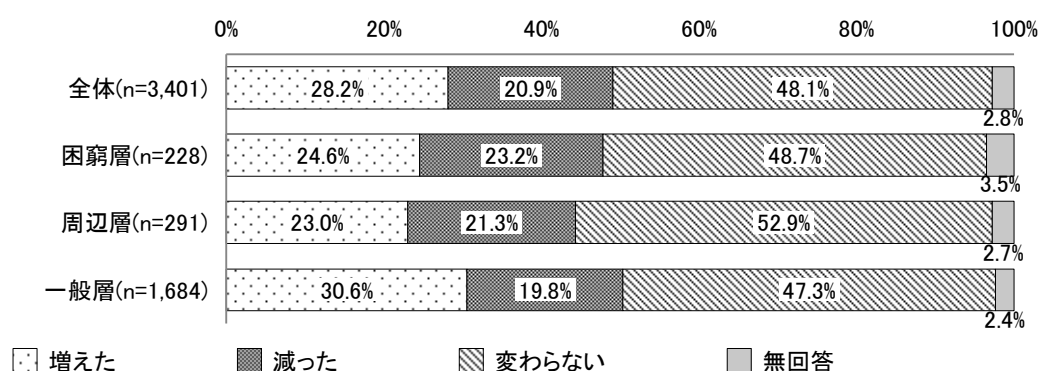
「困窮層」では、「変わらない」が 48.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 47.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 381 コロナ流行頃の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間：単数回答（Q35A）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（ $p<.05$ ）



2) コロナ流行頃の生活状況_学校の授業がわからないと感じること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 56.1%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 21.4%となっている。

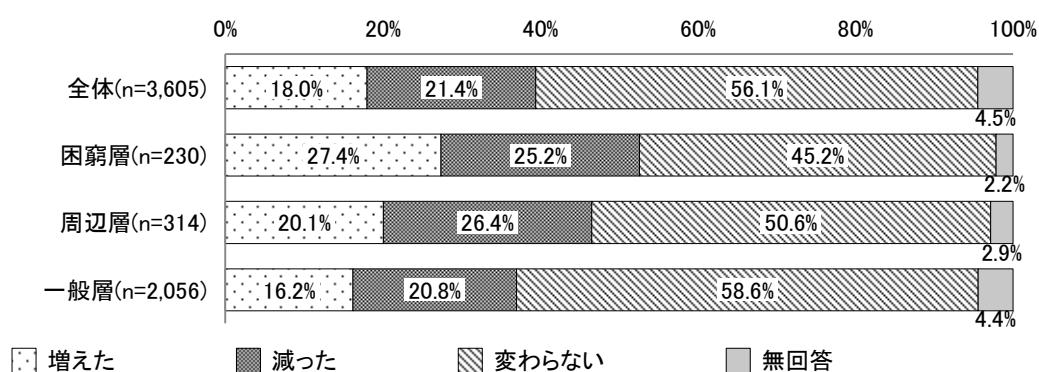
「困窮層」では、「変わらない」が 45.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 50.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 58.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 60.4%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 27.8%となっている。

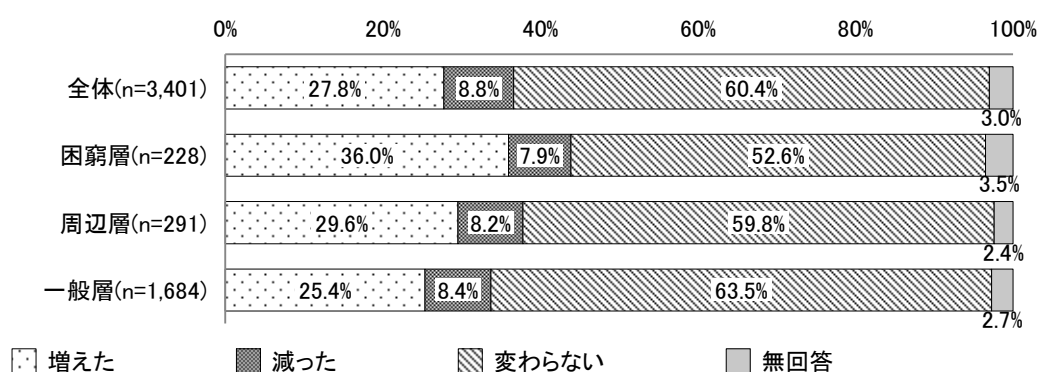
「困窮層」では、「変わらない」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 59.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 63.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 382 コロナ流行頃の生活状況_学校の授業がわからないと感じること：単数回答
(Q35B) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



3) コロナ流行頃の生活状況_食事を抜く回数

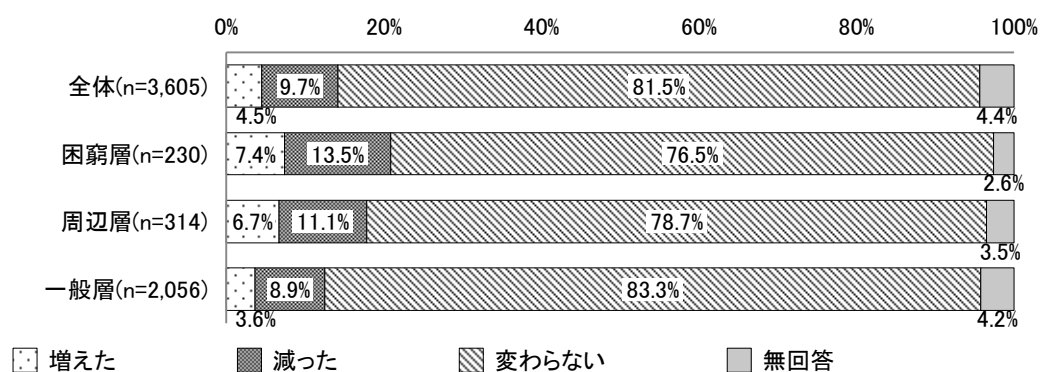
小学生の「全体」では、「変わらない」が81.5%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が9.7%となっている。

「困窮層」では、「変わらない」が76.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が78.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が83.3%でもっとも割合が高くなっている。

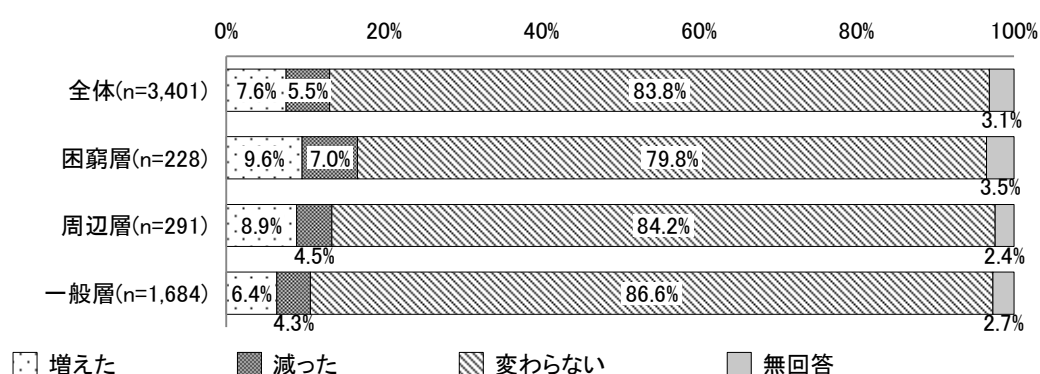
中学生の「全体」では、「変わらない」が83.8%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が7.6%となっている。

「困窮層」では、「変わらない」が79.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が84.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が86.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 383 コロナ流行頃の生活状況_食事を抜く回数：単数回答（Q35C）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.01$ ）



＜中学生＞（有意差なし）



4) コロナ流行頃の生活状況_夜遅くまで起きている回数

小学生の「全体」では、「変わらない」が 61.3%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 20.7%となっている。

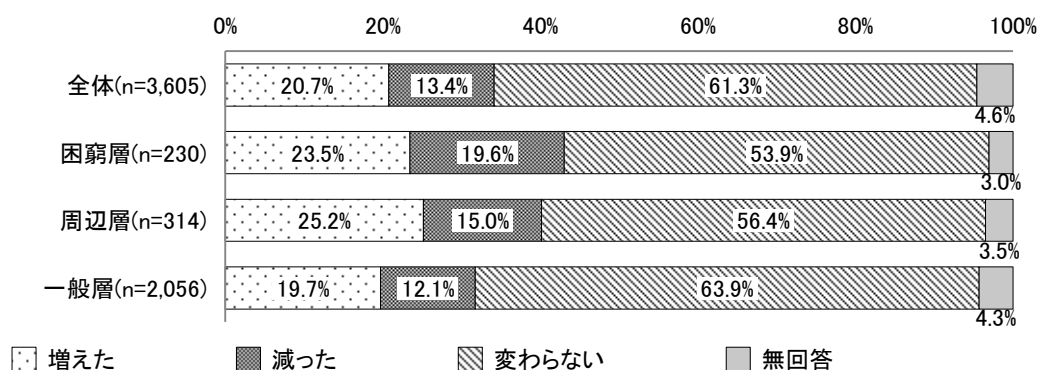
「困窮層」では、「変わらない」が 53.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 63.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 56.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 34.7%となっている。

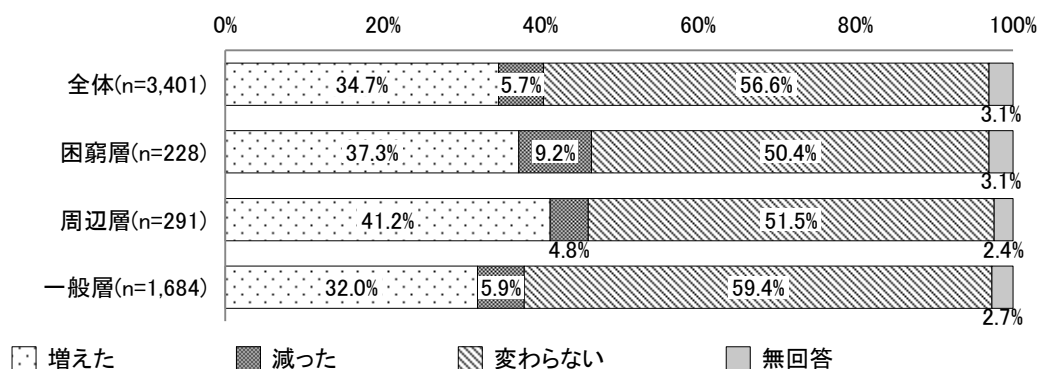
「困窮層」では、「変わらない」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 51.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 59.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 384 コロナ流行頃の生活状況_夜遅くまで起きている回数：単数回答（Q35D）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



5) コロナ流行頃の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 32.6%となっている。

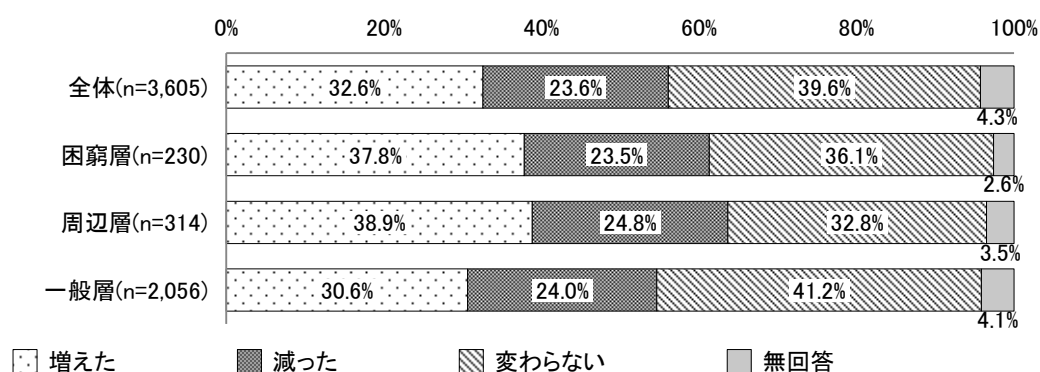
「困窮層」では、「増えた」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 38.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 27.7%となっている。

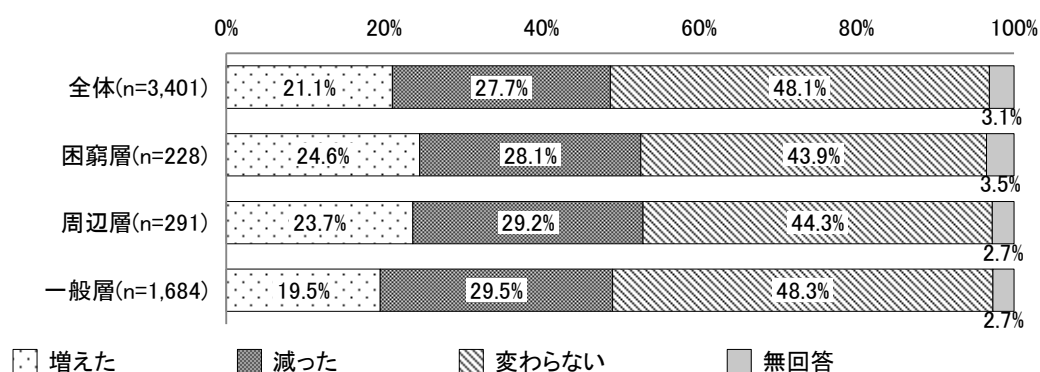
「困窮層」では、「変わらない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 48.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 385 コロナ流行頃の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること：単数回答（Q35E）
（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



6) コロナ流行頃の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 24.7%となっている。

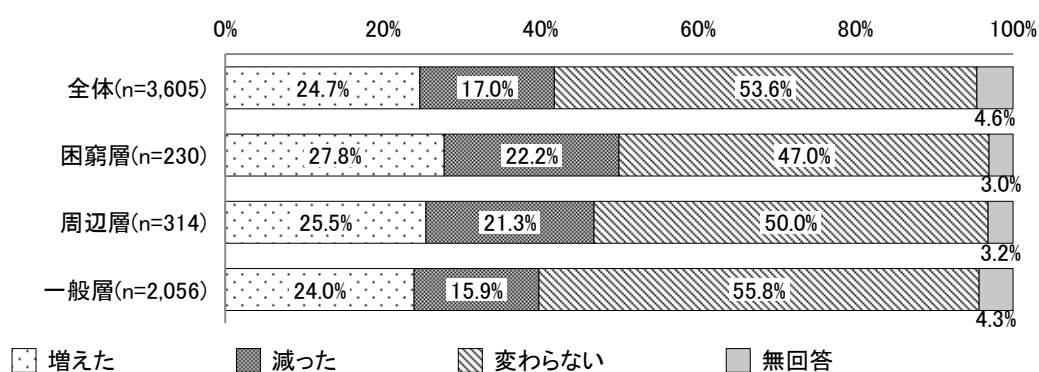
「困窮層」では、「変わらない」が 47.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 55.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 59.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 27.9%となっている。

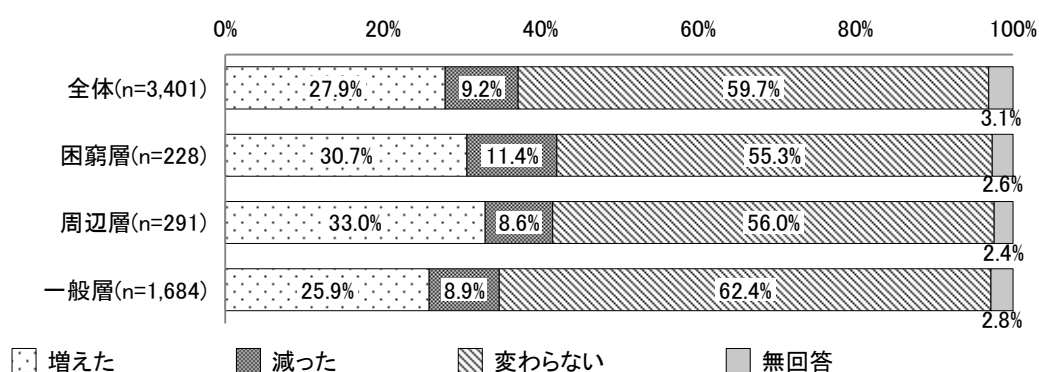
「困窮層」では、「変わらない」が 55.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 56.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 62.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 386 コロナ流行頃の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと：単数回答
(Q35F) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



7) 現在の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間

小学生の「全体」では、「変わらない」が 44.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 40.4%となっている。

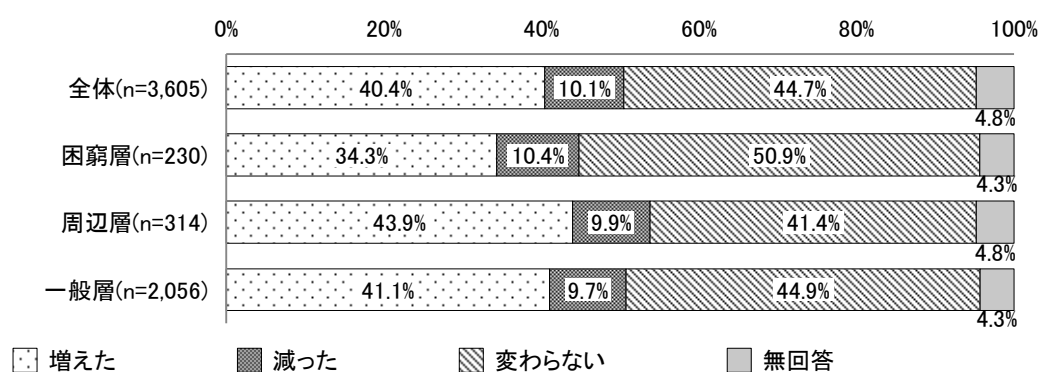
「困窮層」では、「変わらない」が 50.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 44.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 40.8%となっている。

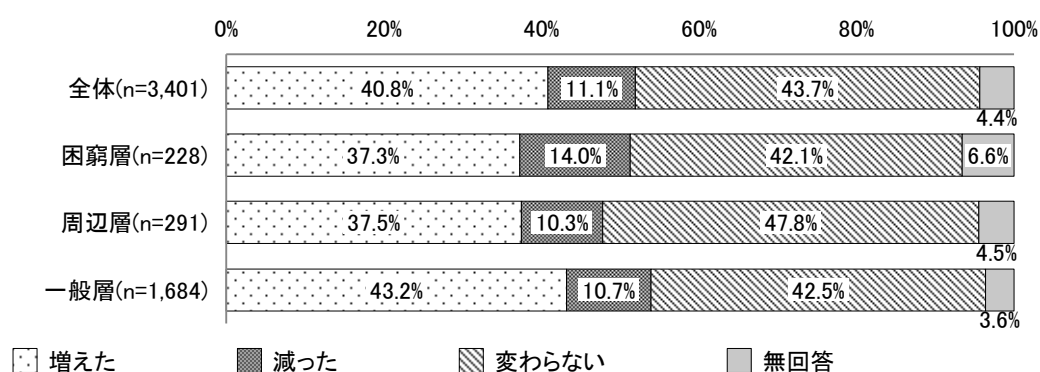
「困窮層」では、「変わらない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「増えた」が 43.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 387 現在の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間：単数回答（Q36A）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



8) 現在の生活状況_学校の授業がわからないと感じること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 28.3%となっている。

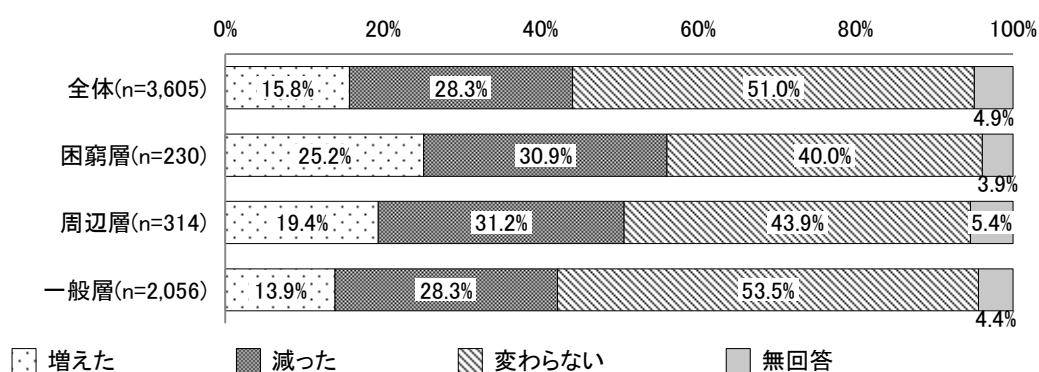
「困窮層」では、「変わらない」が 40.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 54.5%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 21.2%となっている。

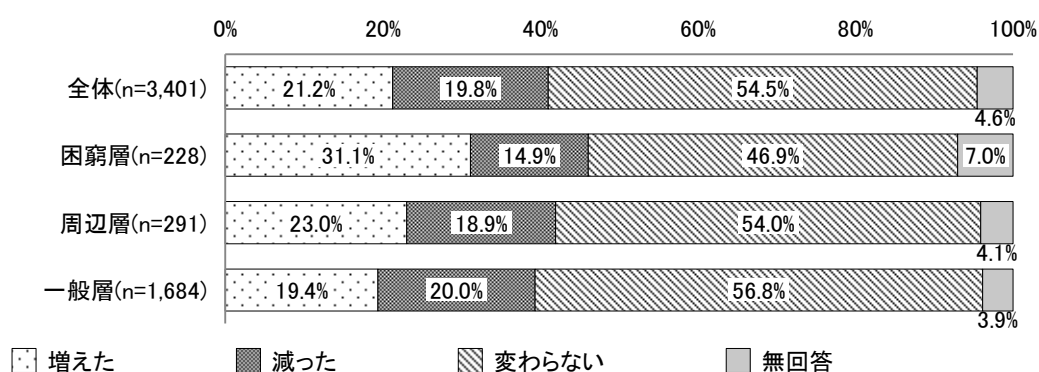
「困窮層」では、「変わらない」が 46.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 54.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 56.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 388 現在の生活状況_学校の授業がわからないと感じること：単数回答（Q36B）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



9) 現在の生活状況_食事を抜く回数

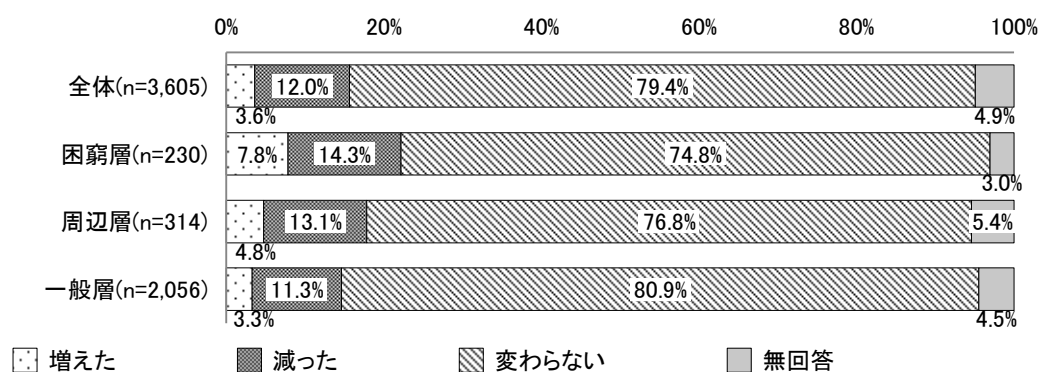
小学生の「全体」では、「変わらない」が 79.4%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 12.0%となっている。

「困窮層」では、「変わらない」が 74.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 76.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 80.9%でもっとも割合が高くなっている。

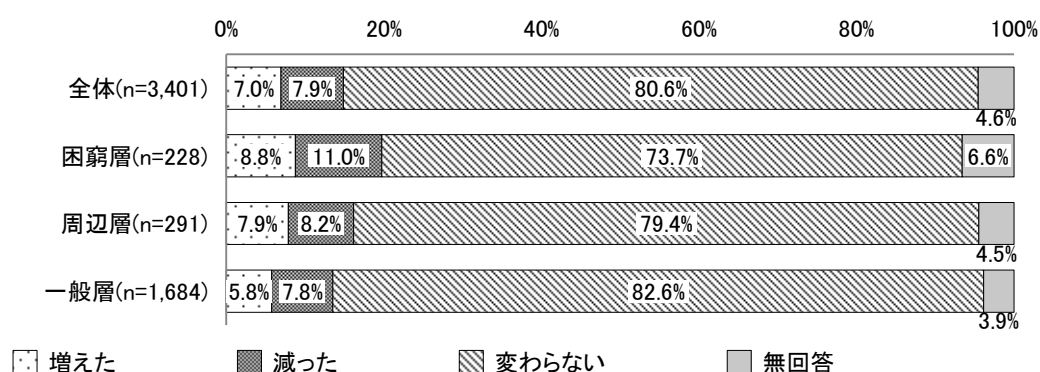
中学生の「全体」では、「変わらない」が 80.6%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 7.9%となっている。

「困窮層」では、「変わらない」が 73.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 79.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 82.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 389 現在の生活状況_食事を抜く回数：単数回答（Q36C）（生活困難度別）
＜小学生＞（ $p<.01$ ）



＜中学生＞（有意差なし）



10) 現在の生活状況_夜遅くまで起きている回数

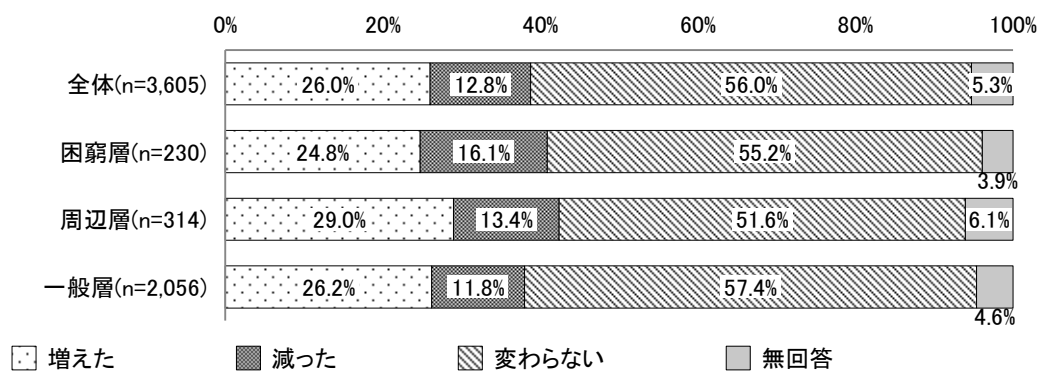
小学生の「全体」では、「変わらない」が 56.0%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 26.0%となっている。

「困窮層」では、「変わらない」が 55.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 51.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。

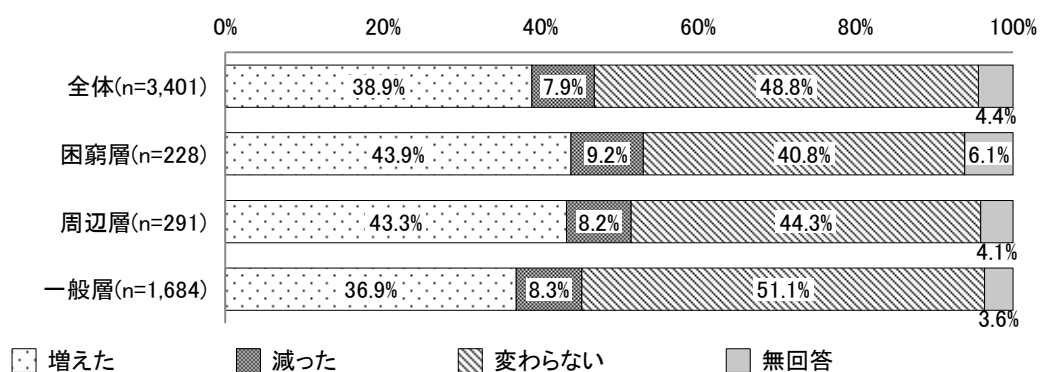
中学生の「全体」では、「変わらない」が 48.8%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 38.9%となっている。

「困窮層」では、「増えた」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 390 現在の生活状況_夜遅くまで起きている回数：単数回答（Q36D）（生活困難度別）
＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（ $p<.05$ ）



11) 現在の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること

小学生の「全体」では、「増えた」が 49.5%でもっとも割合が高く、次いで「変わらない」が 39.4%となっている。

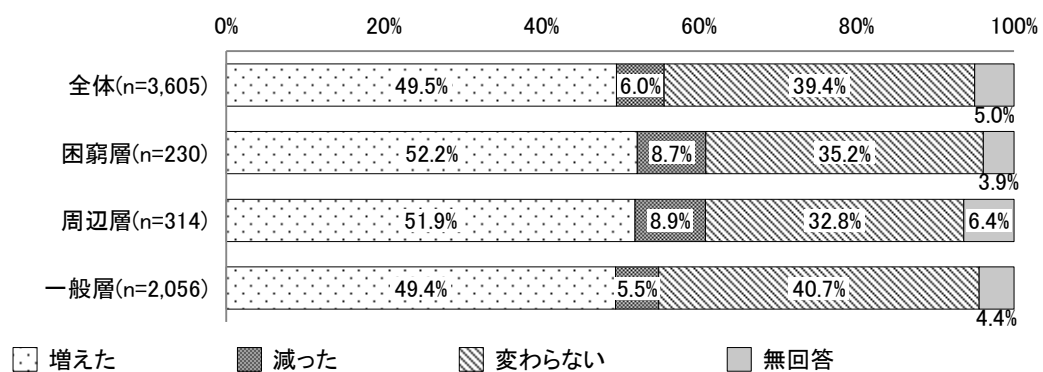
「困窮層」では、「増えた」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「増えた」が 49.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 47.4%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 41.5%となっている。

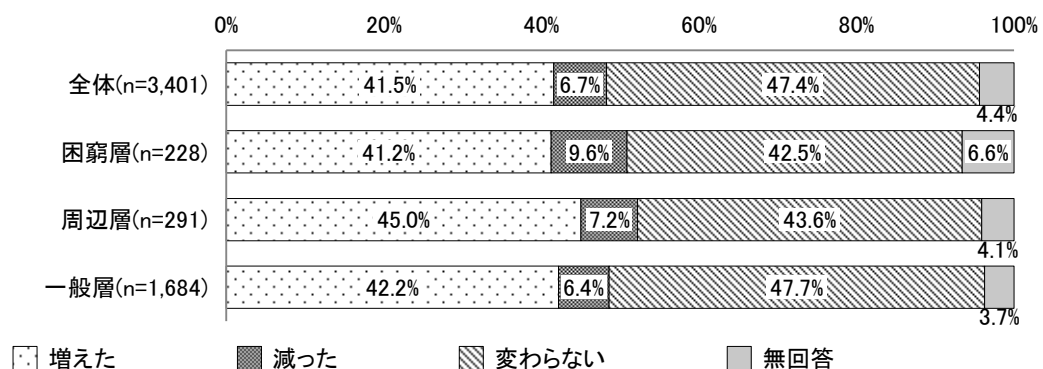
「困窮層」では、「変わらない」が 42.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 45.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 47.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 391 現在の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること：単数回答（Q36E）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



12) 現在の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 20.6%となっている。

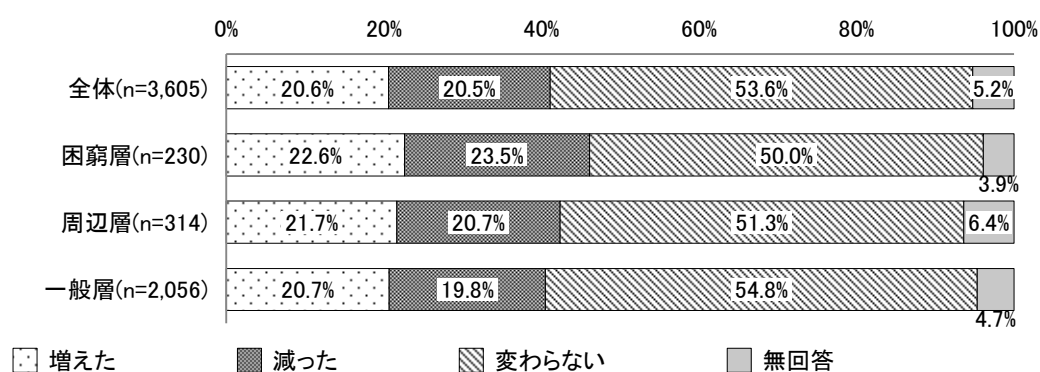
「困窮層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 51.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 58.4%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 26.1%となっている。

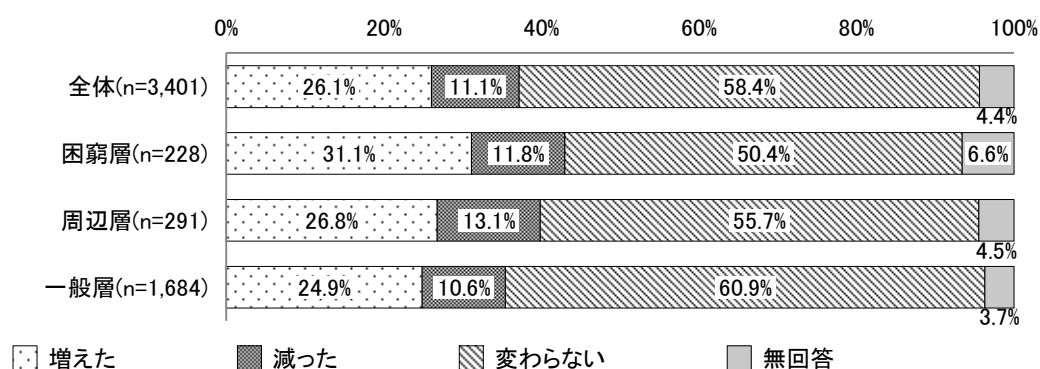
「困窮層」では、「変わらない」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 60.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 392 現在の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと：単数回答（Q36F）
（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



IV. テーマ別集計

1. 経年比較

本節では、今回実施した調査（以下、R6 調査）と、令和元年度「千葉県子どもの生活実態調査」（以下、R1 調査）の結果を比較し、特に差がみられた項目についてその内容を掲載する。

（1）分析結果

1) 生活困難度の分布状況の変化

生活困難度の分布状況（全体）の変化をみると、R1 調査に比べて R6 調査では、「困窮層」の割合が 6.9%から 9.7%に増加し、「一般層」の割合が 80.8%から 77.5%に低下している。

図表 393 【R6 調査】困窮層・周辺層・一般層の割合の状況（保護者票ベース）（再掲）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
① 困窮層	522	9.7%	264	9.0%	257	10.4%
② 周辺層	694	12.8%	360	12.3%	333	13.4%
小計（①+②）	1216	22.5%	624	21.4%	590	23.8%
③ 一般層	4190	77.5%	2297	78.6%	1890	76.2%
合計（①+②+③）	5406	100.0%	2921	100.0%	2480	100.0%

図表 394 【R1 調査】困窮層・周辺層・一般層の割合の状況（保護者票ベース）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
① 困窮層	337	6.9%	183	6.1%	154	8.2%
② 周辺層	600	12.3%	342	11.4%	258	13.8%
小計（①+②）	937	19.2%	525	17.5%	412	22.0%
③ 一般層	3932	80.8%	2473	82.5%	1459	78.0%
合計（①+②+③）	4869	100.0%	2998	100.0%	1871	100.0%

また、生活困難に係る3要素の構成割合（全体）をみると、「低所得」に該当する割合が 4.1%から 5.4%へ、「家計の逼迫」に該当する割合が 12.4%から 14.1%へ、「こどもの体験や所有物の欠如」に該当する割合が 10.6%から 14.6%へそれぞれ増加している。なお、R1 調査では税・社会保障料引き前の所得に各種給付を加えた世帯所得を用いて「低所得」を算出したが、R6 調査では各種給付額を把握していないため、「低所得」に該当する世帯の割合がやや高めに出ている可能性があることに留意が必要である。

図表 395 【R6 調査】生活困難に係る3要素の構成割合（保護者票ベース）（再掲）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
①低所得	294	5.4%	141	4.8%	151	6.1%
②家計の逼迫	763	14.1%	407	13.9%	356	14.4%
③こどもの体験や所有物の欠如	790	14.6%	394	13.5%	395	15.9%

図表 396 【R1 調査】生活困難に係る 3 要素の構成割合（保護者票ベース）

	全体		小学 5 年生		中学 2 年生	
	n	割合	n	割合	n	割合
①低所得	201	4.1%	113	3.8%	88	4.7%
②家計の逼迫	606	12.4%	340	11.3%	266	14.2%
③こどもの体験や所有物の欠如	516	10.6%	282	9.4%	234	12.5%

困窮層・周辺層の割合の詳細をみると、「①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如」の 3 つの該当する者、「②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如」の 2 つに該当する者、「③こどもの体験や所有物欠如」のみ該当する者の割合がそれぞれ約 1 ポイントずつ増加している。

図表 397 【R6 調査】困窮層・周辺層の割合（全体・保護者票ベース）（再掲）

			人	%	人	%
困窮層	3つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	109	2.0%	522	9.7%
	2つに該当	② 低所得＋②家計の逼迫	28	0.5%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	50	0.9%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	335	6.2%		
周辺層	1つに該当	① 低所得	107	2.0%	694	12.8%
		② 家計の逼迫	291	5.4%		
		③ こどもの体験や所有物欠如	296	5.5%		
困窮層と周辺層の計					1216	22.5%

図表 398 【R1 調査】困窮層・周辺層の割合（全体・保護者票ベース）

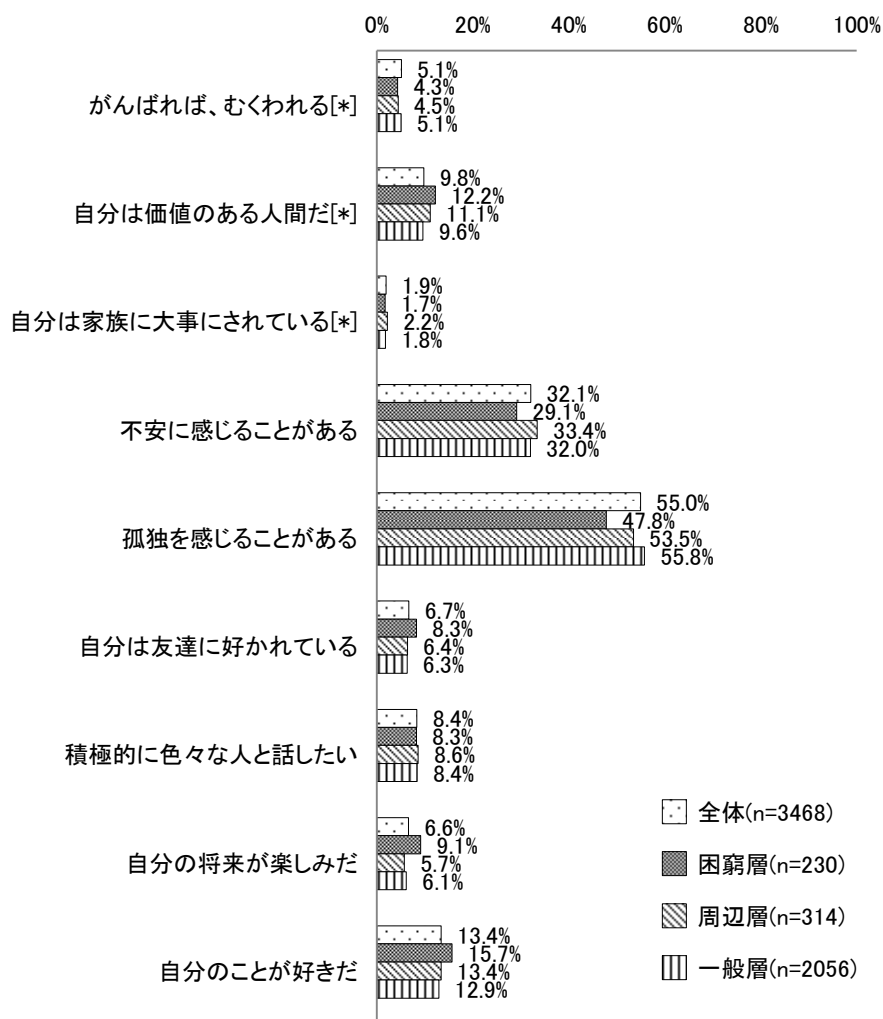
			人	%	人	%
困窮層	3つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	49	1.0%	337	6.9%
	2つに該当	③ 低所得＋②家計の逼迫	28	0.6%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	26	0.5%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	234	4.8%		
周辺層	1つに該当	① 低所得	98	2.0%	600	12.3%
		② 家計の逼迫	295	6.1%		
		③ こどもの体験や所有物欠如	207	4.3%		
困窮層と周辺層の計					937	19.2%

2) こどもの自己肯定感の変化

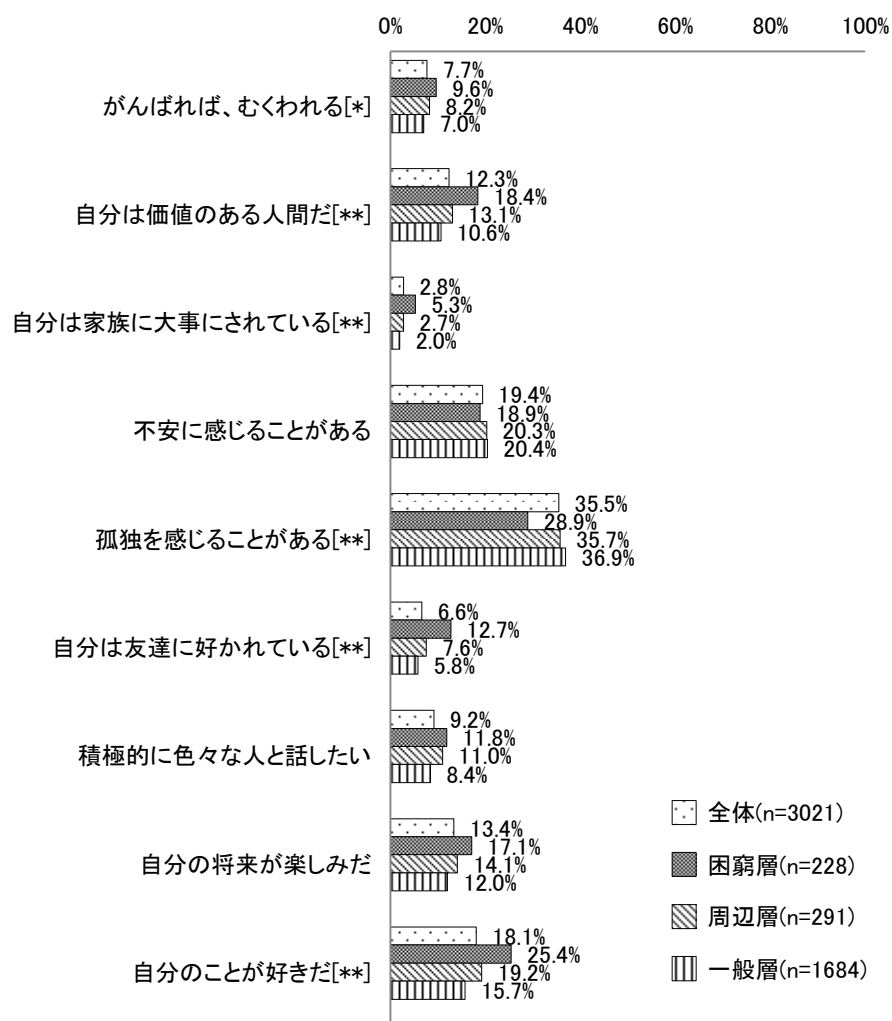
こどもの自己肯定感に関する項目について、「思わない」と回答した割合をみると、R1 調査に比べて R6 調査では、小中学生いずれも、多くの項目で困窮層と周辺層・一般層の差が縮小している傾向がみられる。特に小学生においては、R1 調査ではすべての項目で生活困難度別に有意な差がみられたが、R6 調査では「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「自分は家族に大事にされている」の3項目のみとなっている。

図表 399 【R6 調査】生活困難度別 こどもの自己肯定感（「思わない」の割合）
：単数回答（こども Q33A~I）

<小学生>

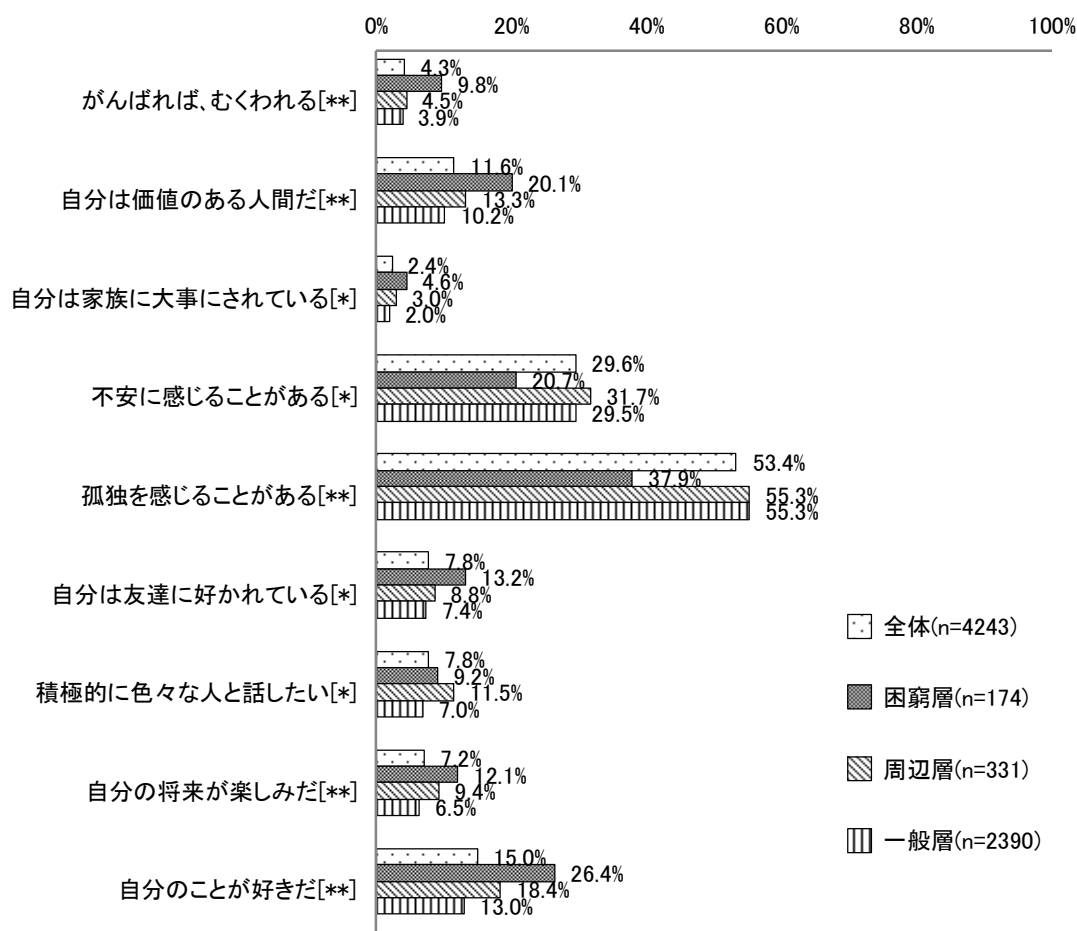


< 中学生 >

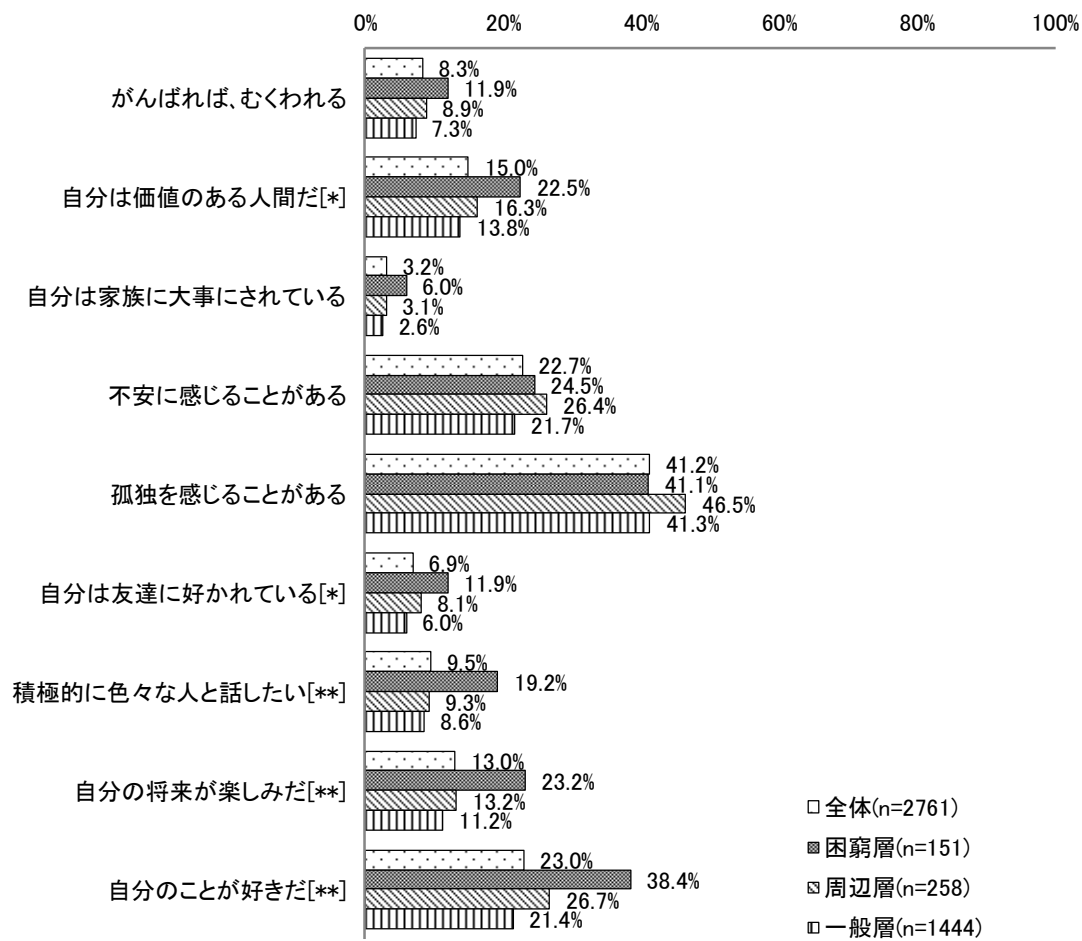


図表 400 【R1 調査】生活困難度別 こどもの自己肯定感（「思わない」の割合）
：単数回答（こども Q38A~I）

<小学生>



< 中学生 >

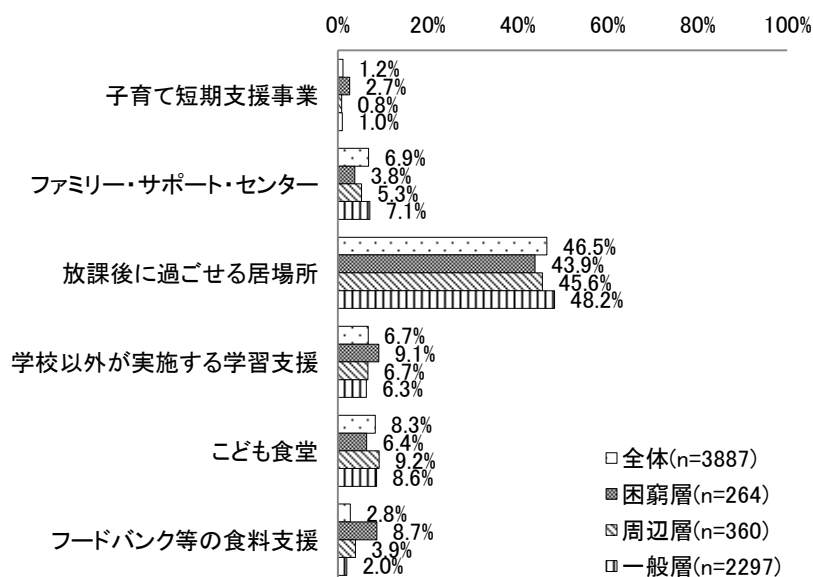


3) 利用したことがある子育て支援サービスの変化

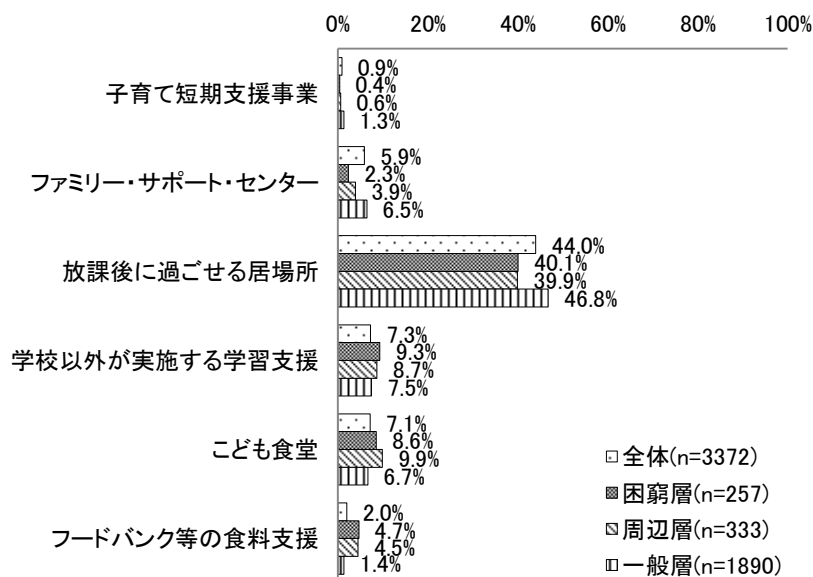
子育て支援サービスについて「利用したことがある」と回答した割合をみると、R1 調査に比べて、R6 調査では多くの項目について割合が高まっており、全体の割合をみると、特に「放課後に過ごせる居場所」（小学生：35.8%から 46.5%、中学生：35.8%から 44.0%）、「こども食堂」（小学生：3.5%から 8.3%、中学生：1.8%から 7.1%）については 5～10 ポイント程度の増加がみられる。

図表 401 【R6 調査】生活困難度別 子育て支援サービスの利用状況
（「利用したことがある」の割合）：単数回答（保護者 Q46）

<小学生>

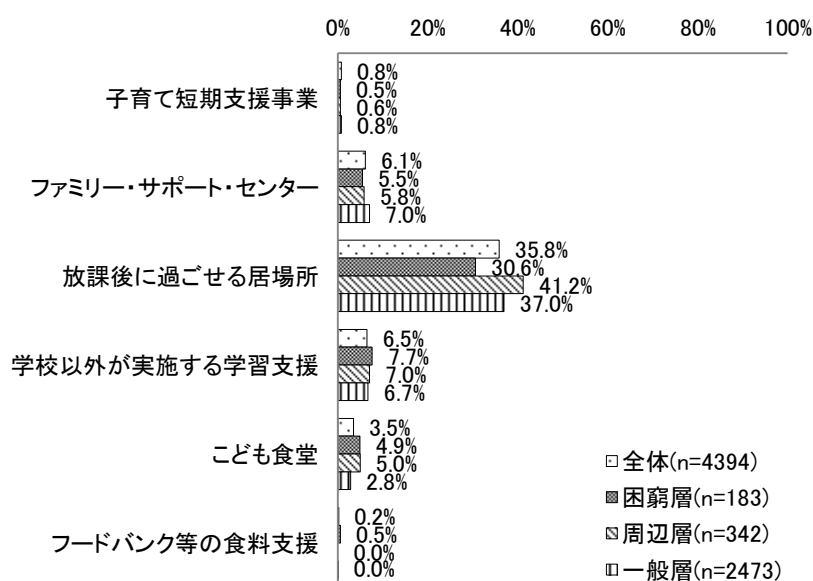


<中学生>

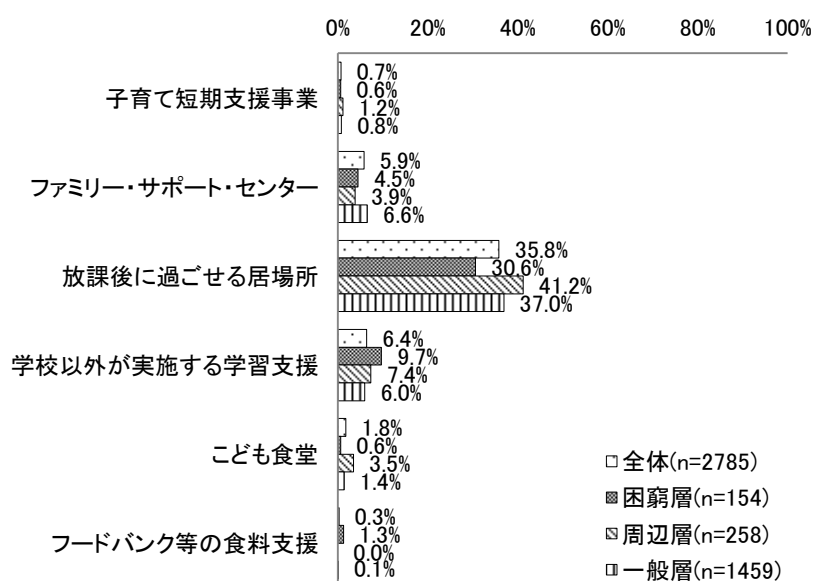


図表 402 【R1 調査】生活困難度別 子育て支援サービスの利用状況
 (「利用したことがある」の割合)：単数回答(保護者 Q55)

<小学生>



<中学生>



(2) 考察

- 以下では、R1 調査と R6 調査の変化について整理する。
- 生活困難度については、R1 調査に比べて R6 調査では、困窮層がやや増加し、一般層がやや減少していた。生活困難の構成要素別にみると、「低所得」に該当する割合が 4.1%から 5.4%へ、「家計の逼迫」に該当する割合が 12.4%から 14.1%へ、「こどもの体験や所有物の欠如」に該当する割合が 10.6%から 14.6%へそれぞれ増加していた。
- このことから、コロナ禍を経て、直接的な収入の格差自体はそれほど広がっていないものの、家計への影響やこどもの体験・所有物といった間接的な格差が拡大しているという可能性が示唆された。
- 次に、こどもの自己肯定感の変化をみると、特に小学生において、生活困難度による差が縮小している傾向がうかがえた。こうした改善の背景についての推察は難しいものの、R1 調査以降に「こどもの貧困」へのまなざしが高まり、学校現場等での支援が充実してきた成果とみられるかもしれない。
- また、子育て支援サービスの利用状況の変化をみると、小中学生いずれも、生活困難度にかかわらず、特に「放課後に過ごせる居場所」と「こども食堂」の利用率が上昇していた。積極的な設置とアウトリーチの成果がみられ、今後もより取組が広がっていくことが期待される。

2. 貧困の継続状況別分析

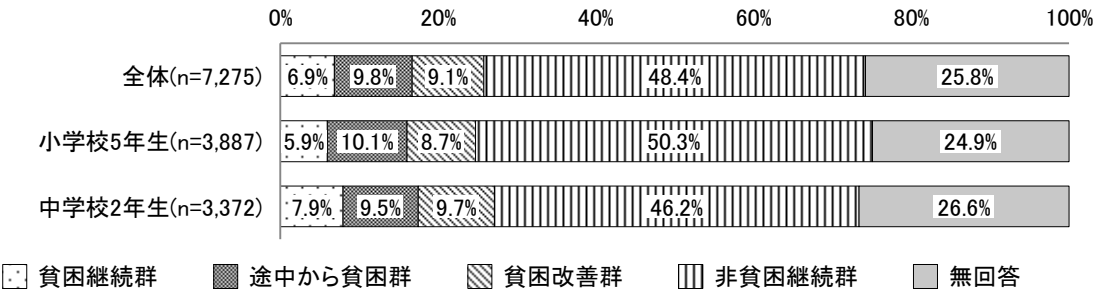
本節では、貧困の継続状況によって、保護者や子どもたちが置かれた状況や課題が異なるかどうかを分析した。

分析にあたっては、生活困難度および保護者票問 42「10 年前の暮らし向き」をもとに、以下のとおり①貧困継続群／②途中から貧困群／③貧困改善群／④非貧困継続群の4区分を作成した。

		保護者問 42 10 年前の暮らし向き	
		やや苦しかった・大変 苦しかった	大変ゆとりがあった・ ややゆとりがあった・ 普通
生活困難度	困窮層・周辺層	①貧困継続群	②途中から貧困群
	一般層	③貧困改善群	④非貧困継続群

学年別の貧困継続状況は下記のとおりである。

図表 403 貧困継続状況：単数回答（学年別）

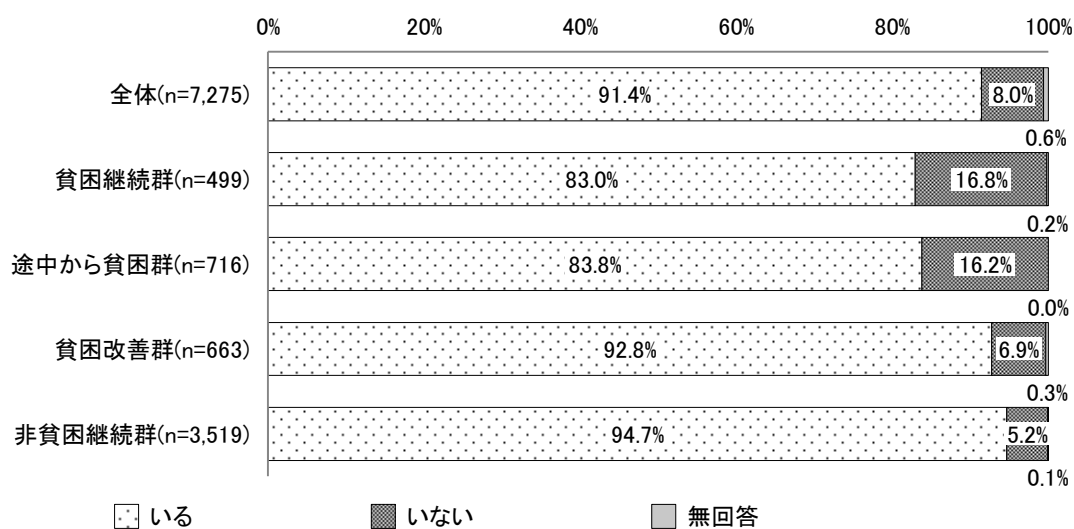


(1) 分析結果

1) 【保護者】相談相手、知人等の有無

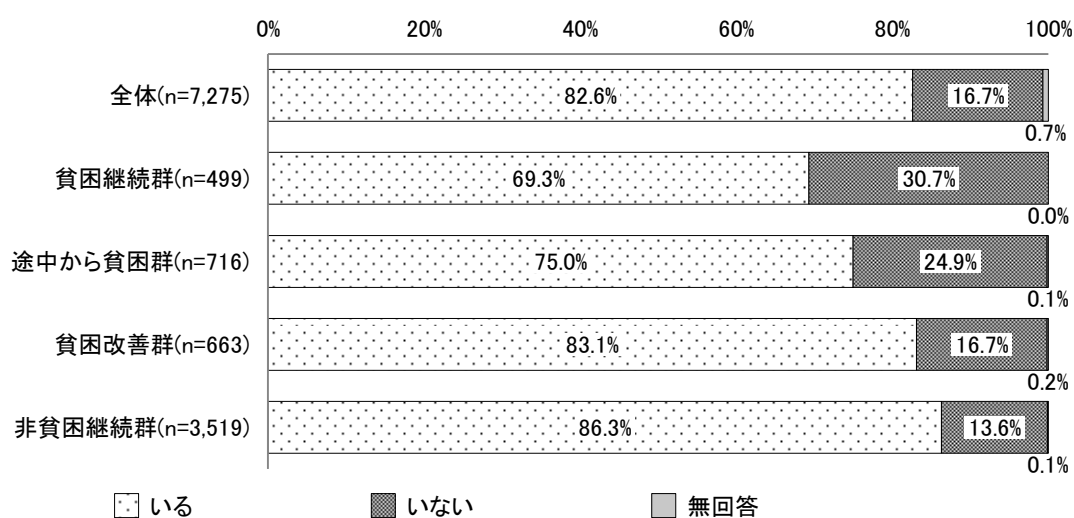
貧困継続状況別に相談相手、知人等の有無をみると、「困ったとき等、相談できる人」「近隣の、挨拶や日常会話をする知人等」「近隣の、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等」のいずれについても、「貧困継続群」であるほど「いない」とする割合が高くなっている。

図表 404 貧困継続状況別 困ったとき等、相談できる人の有無：単数回答（保護者 Q36）
($p<.01$)



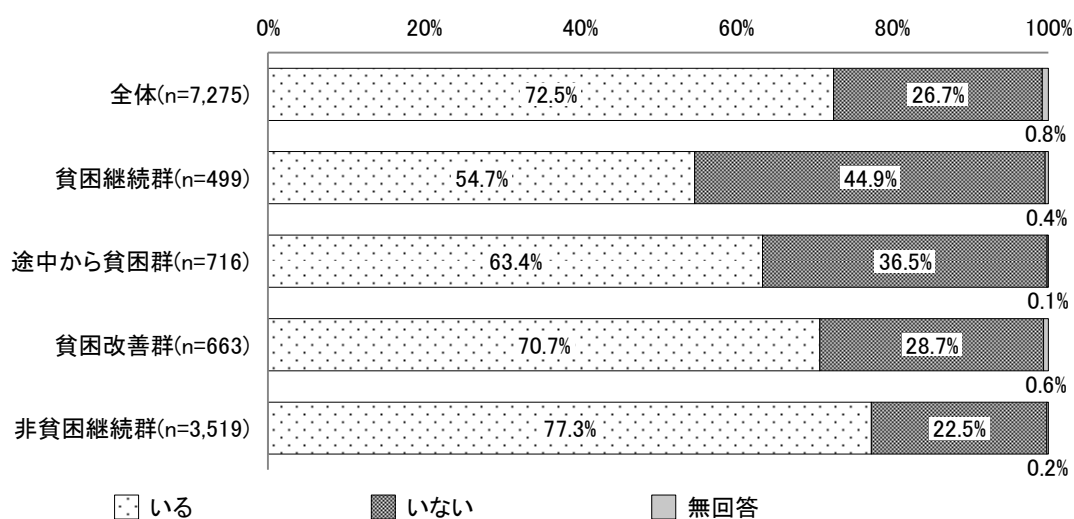
図表 405 貧困継続状況別 近隣の、挨拶や日常会話をする知人等の有無：単数回答
(保護者 Q37)

($p<.01$)



図表 406 貧困継続状況別 近隣の、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の有無：単数回答（保護者 Q38）

($p<.01$)

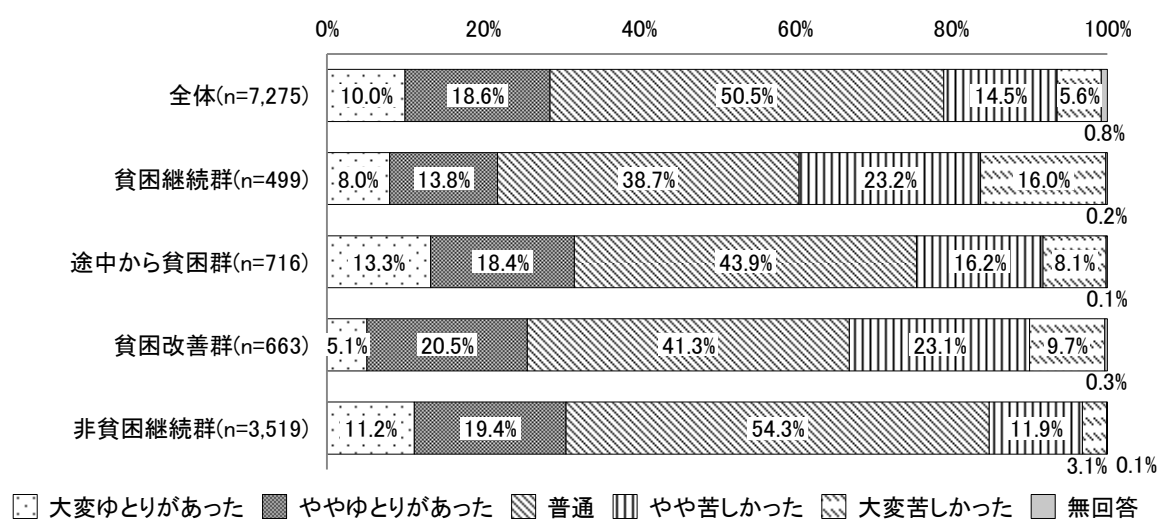


2) 【保護者】15歳の頃の家庭の暮らし向き

貧困継続状況別に15歳の頃の家庭の暮らし向きをみると、15歳の頃の家庭の暮らし向きが「大変苦しかった」とする割合は、「貧困継続群」で16.0%ともっとも高くなっている。

図表 407 貧困継続状況別 15歳の頃の家庭の暮らし向き：単数回答（保護者 Q41）

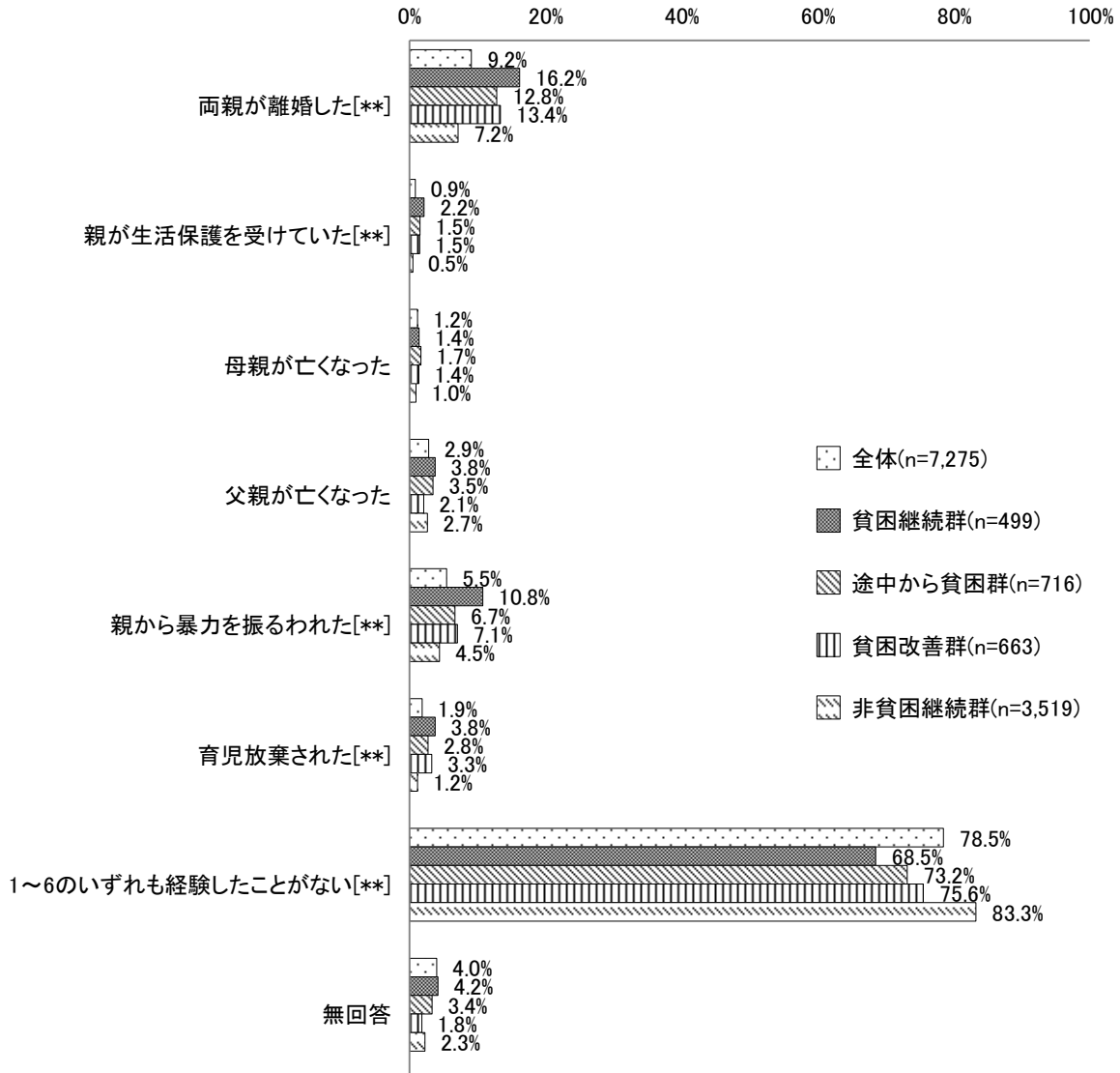
($p<.01$)



3) 【保護者】成人する前に体験したこと

貧困継続状況別に成人する前に体験したことをみると、「両親が離婚した」、「親が生活保護を受けていた」、「親から暴力を振るわれた」、「育児放棄された」とする割合は「貧困継続群」で高くなっており、いわゆる逆境経験をした割合が高くなっている。

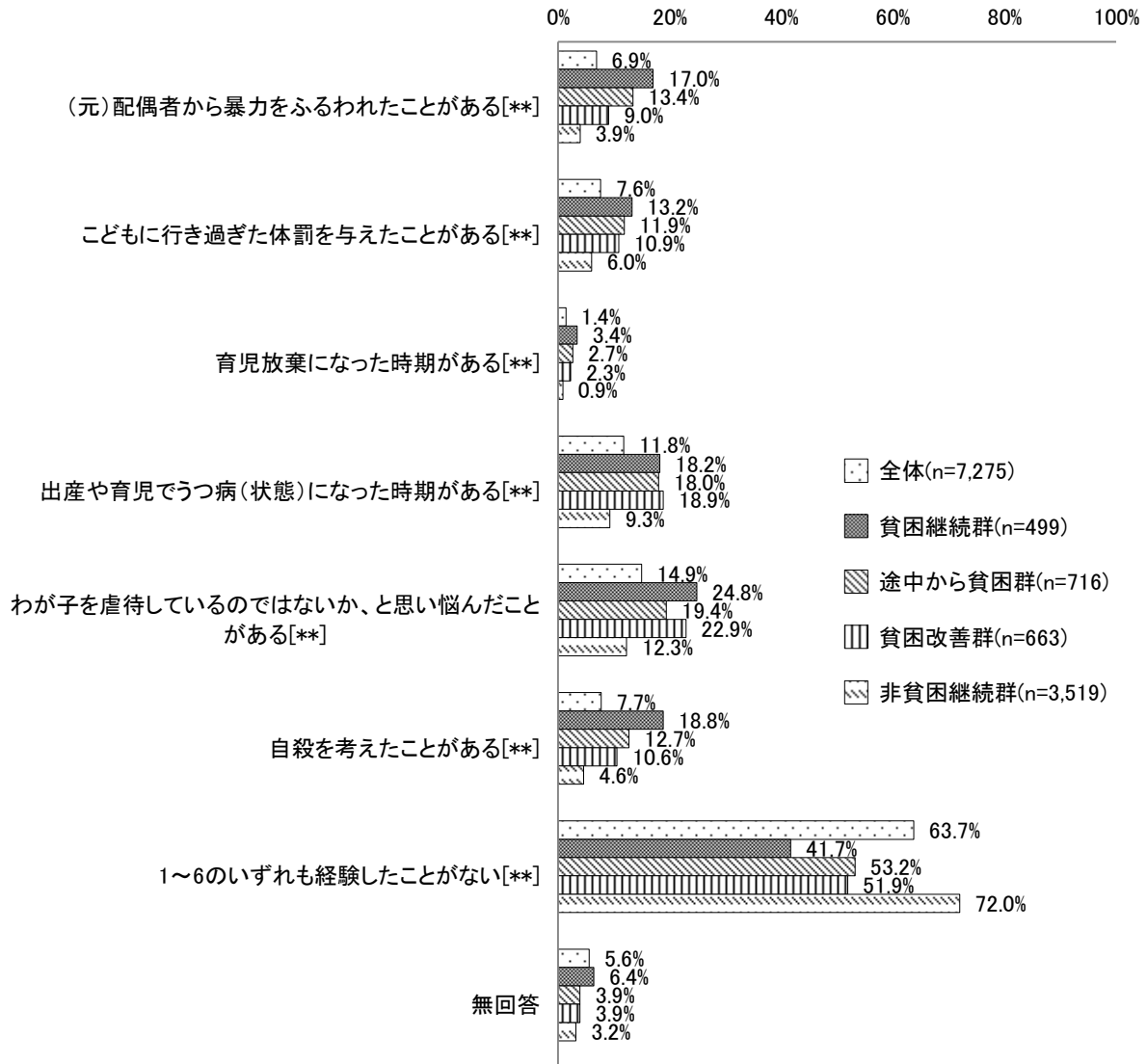
図表 408 貧困継続状況別 成人する前に体験したこと：複数回答（保護者 Q43）



4) 【保護者】お子さんをもってから経験したこと

貧困継続状況別にお子さんをもってから経験したことみると、いずれの項目も統計的に有意な差がみられる。多くの項目は「貧困継続群」であるほど高い割合となっている。一方、「出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある」「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」については、「途中から貧困群」や「貧困改善群」においても、「貧困継続群」と同程度の割合となっている。

図表 409 貧困継続状況別 お子さんをもってから経験したこと：複数回答（保護者 Q44）

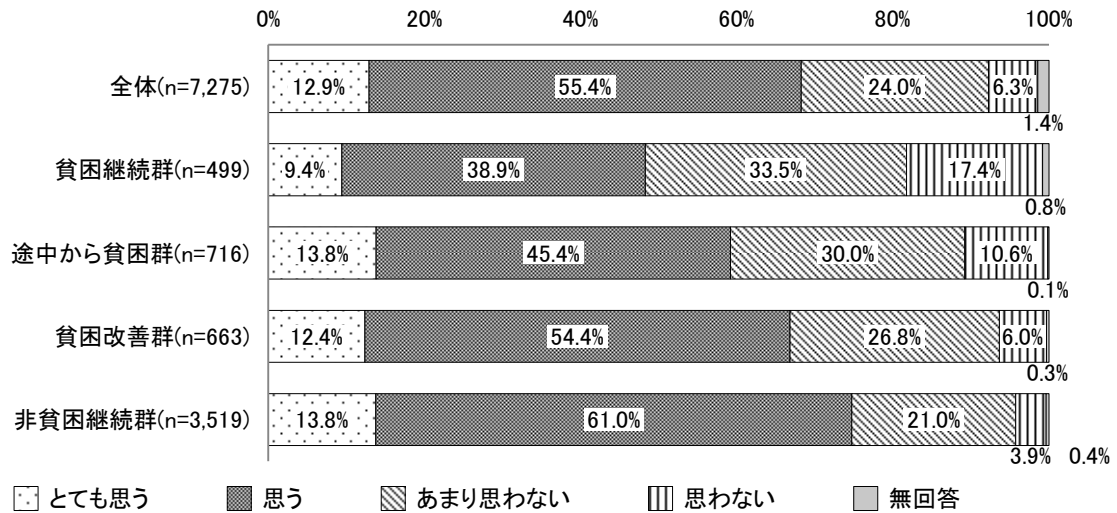


5) 【保護者】自己肯定感

貧困継続状況別に自己肯定感をみると、いずれの項目も統計的に有意な差がみられ、「不安に感じることがある」を除いたすべての項目について、「貧困継続群」であるほど「思わない」とする割合が高くなっている。

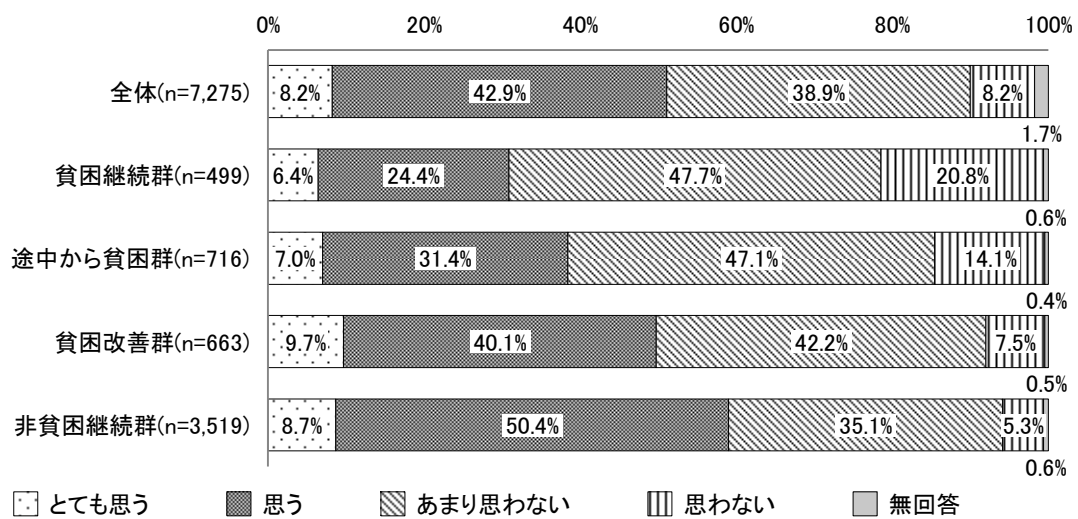
図表 410 貧困継続状況別 思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：
単数回答（保護者 Q45A）

($p<.01$)



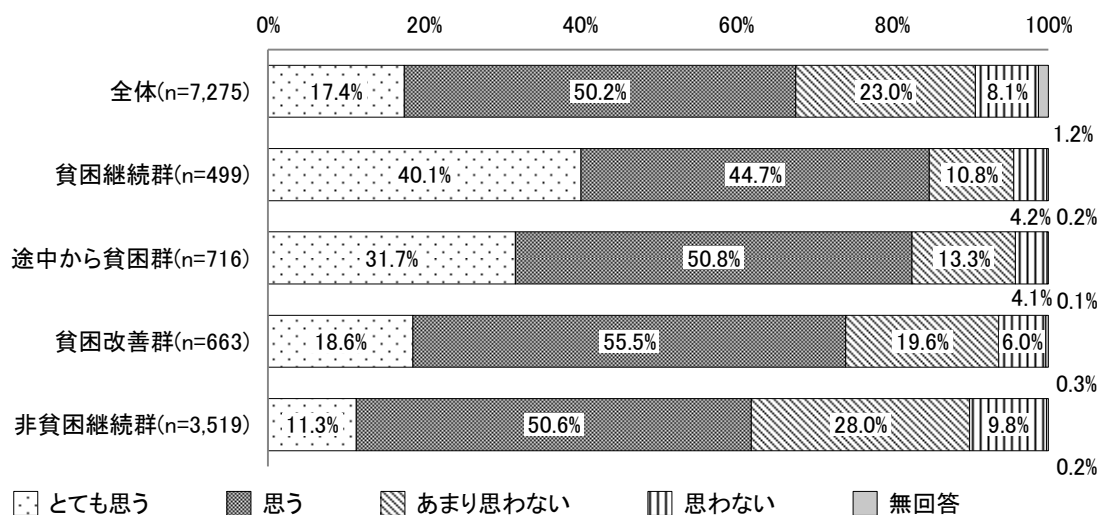
図表 411 貧困継続状況別 思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：
単数回答（保護者 Q45B）

($p<.01$)



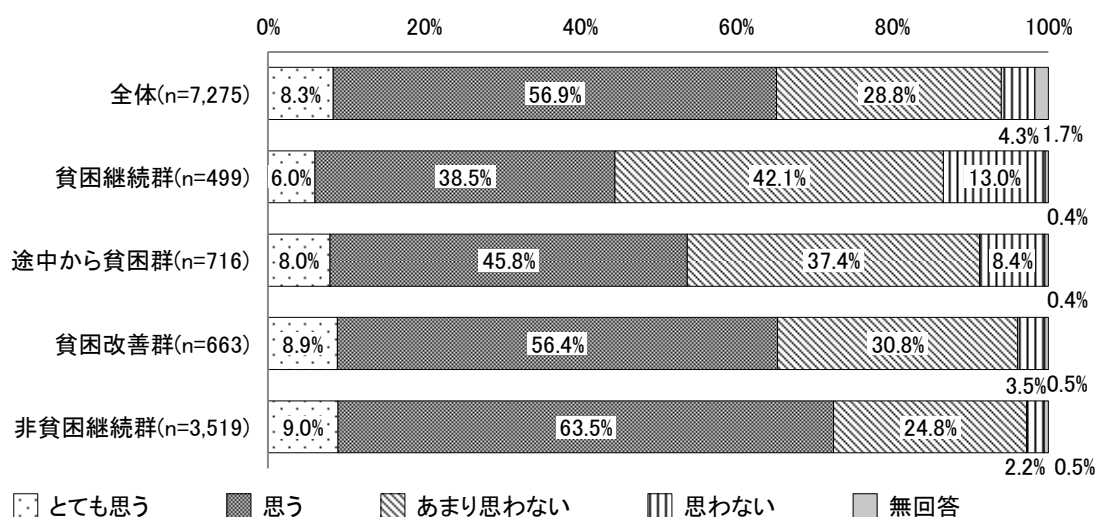
図表 412 貧困継続状況別 思いや気持ち_不安に感じることがある：
単数回答（保護者 Q45C）

($p<.01$)



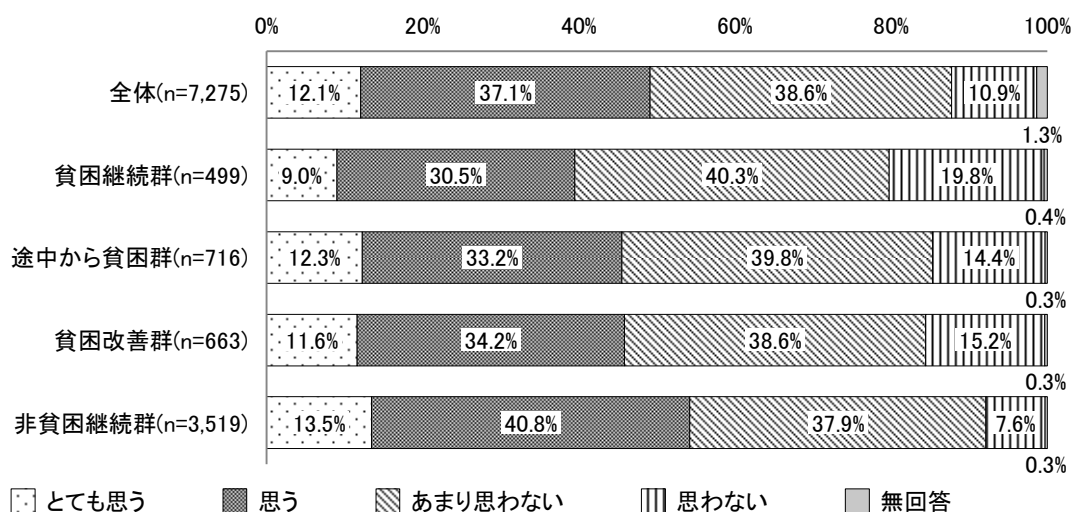
図表 413 貧困継続状況別 思いや気持ち_目標や計画は達成できる：
単数回答（保護者 Q45E）

($p<.01$)



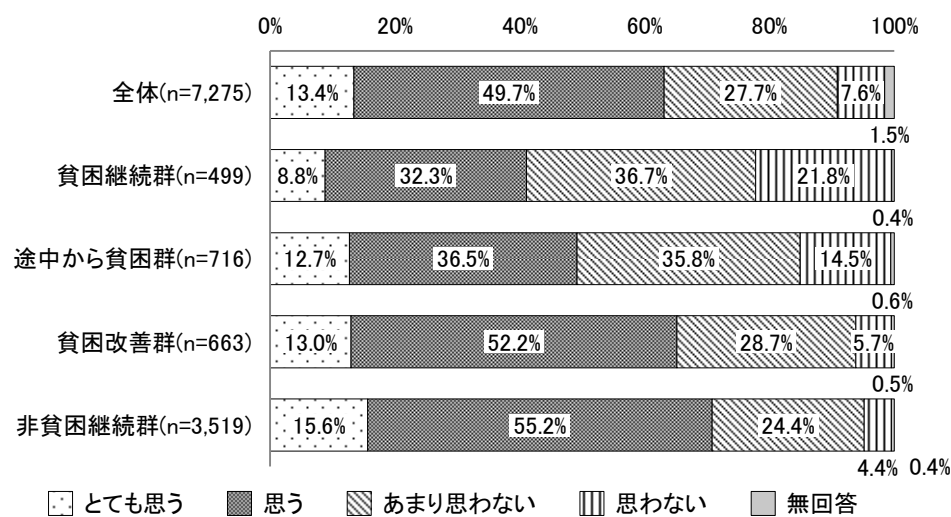
図表 414 貧困継続状況別 思いや気持ち_積極的に色々な人と話したい：
単数回答（保護者 Q45F）

($p<.01$)

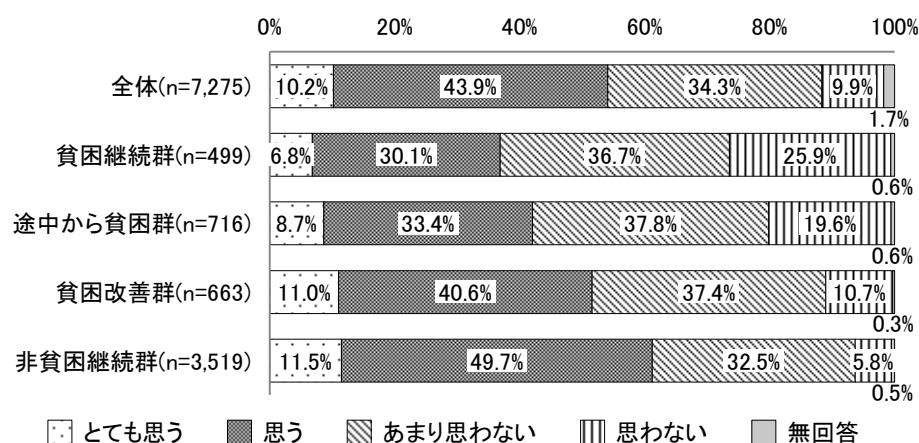


図表 415 貧困継続状況別 思いや気持ち_今後の人生が楽しみだ：単数回答（保護者 Q45G）

($p<.01$)



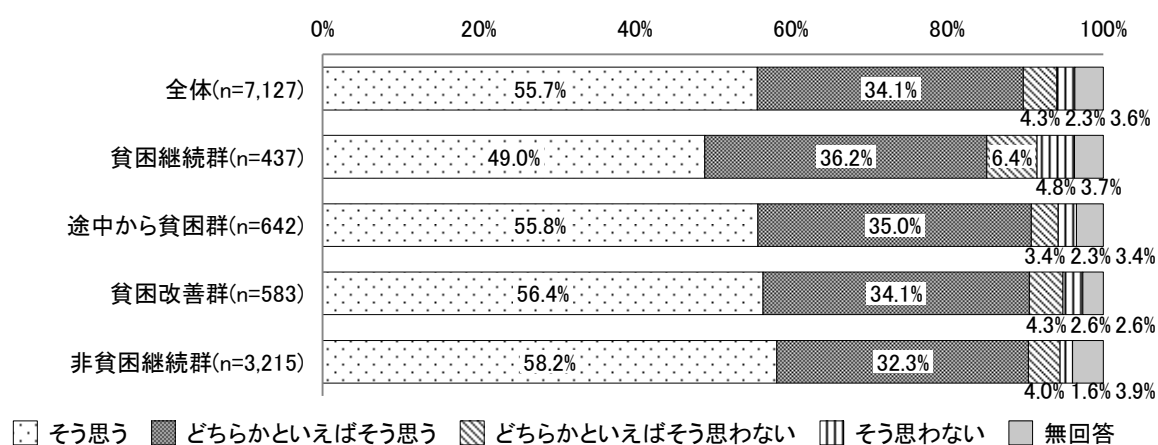
図表 416 貧困継続状況別 思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（保護者 Q45H）
($p<.01$)



6) 【こども】将来のために、今頑張りたいと思うか

貧困継続状況別に将来のために、今頑張りたいと思うかをみると、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」とする割合は、「貧困継続群」であるほど高くなっている。

図表 417 貧困継続状況別 将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）
($p<.01$)

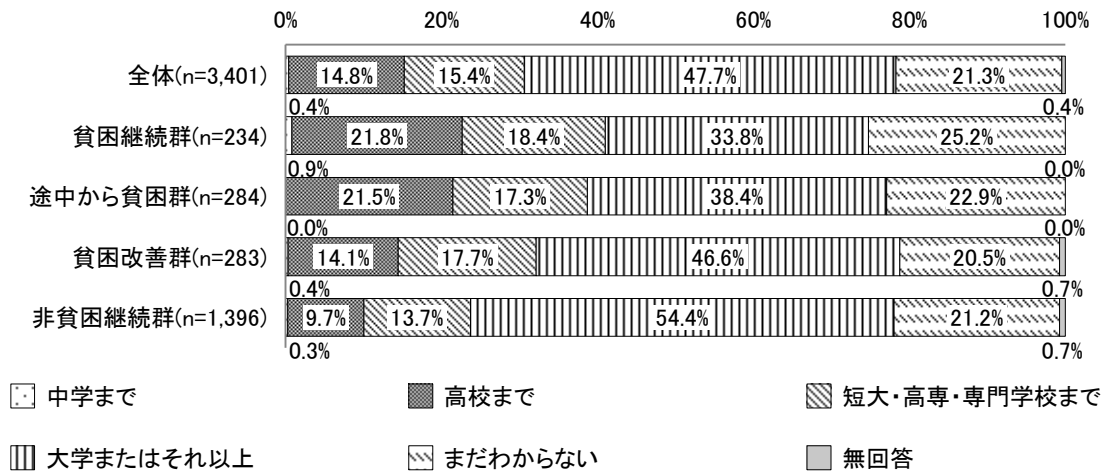


7) 【こども】進学したい段階

貧困継続状況別に進学したい段階みると、「高校まで」とする割合は「貧困継続群」「途中から貧困群」で高く、「大学またはそれ以上」とする割合は「非貧困継続群」ほど高くなっている。

図表 418 貧困継続状況別 進学したい段階：単数回答（こども Q10）

($p<.01$)

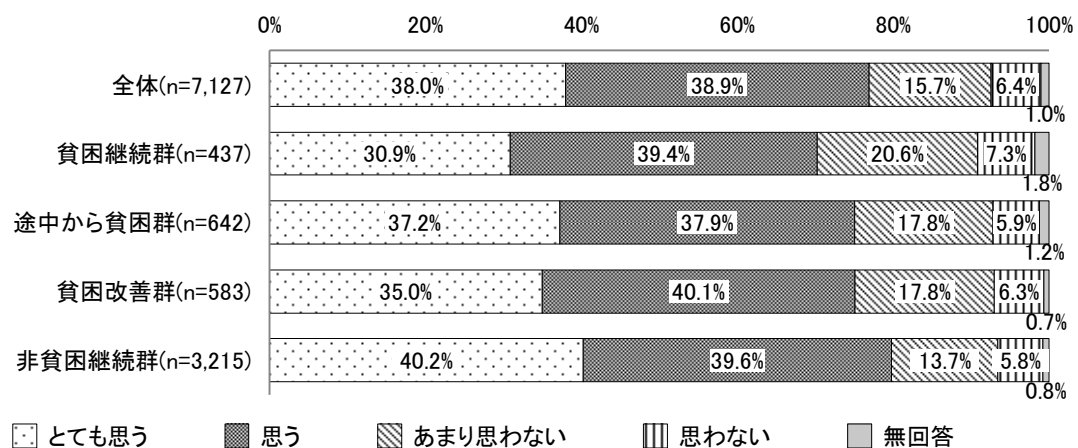


8) 【こども】自己肯定感

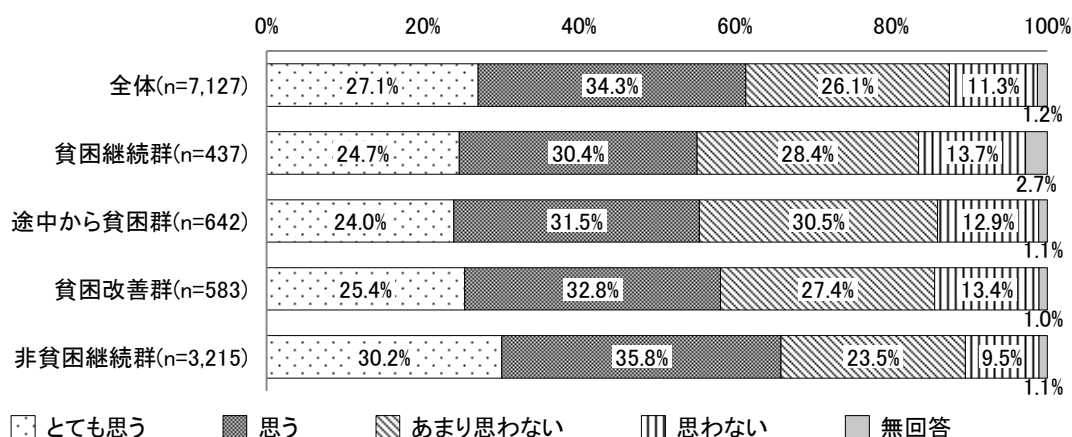
貧困継続状況別に自己肯定感をみると、多くの項目で有意な差がみられるが、特に「自分の将来が楽しみだ」「自分のことが好きだ」については、「思わない」と回答した割合が、「非貧困継続群」に比べて「貧困継続群」で5ポイント以上高くなっている。

図表 419 貧困継続状況別 がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）

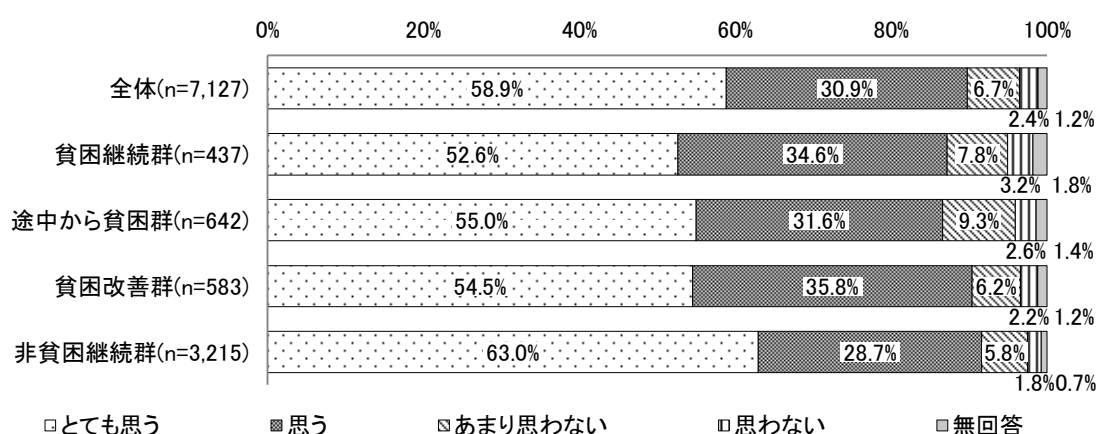
($p<.01$)



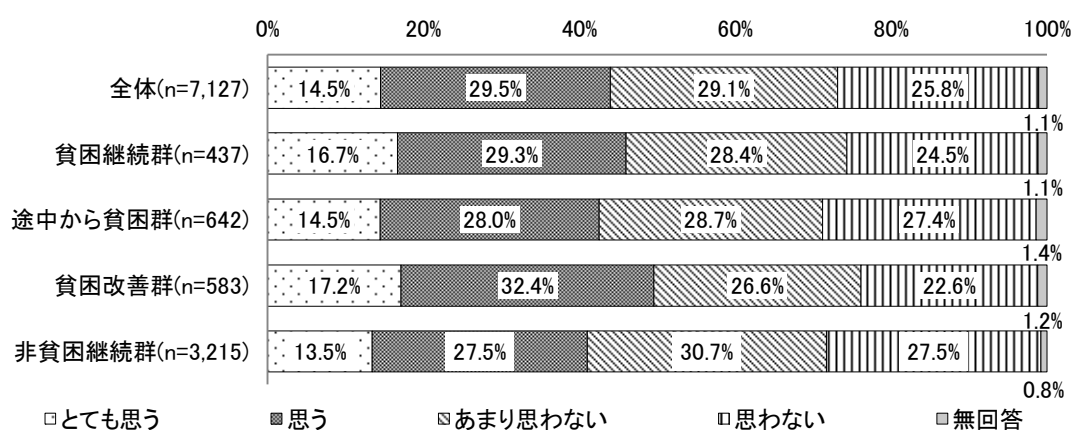
図表 420 貧困継続状況別 自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）
($p<.01$)



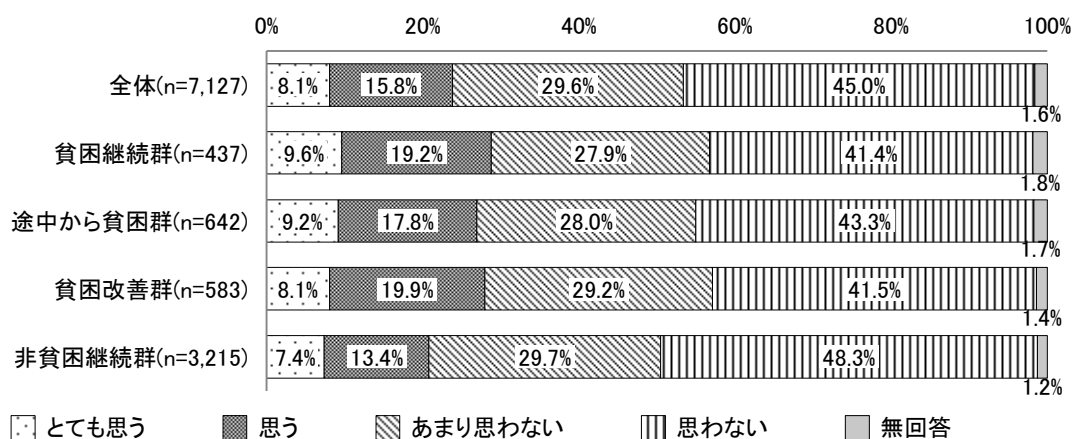
図表 421 貧困継続状況別 自分は家族に大事にされている：単数回答（こども Q33C）
($p<.01$)



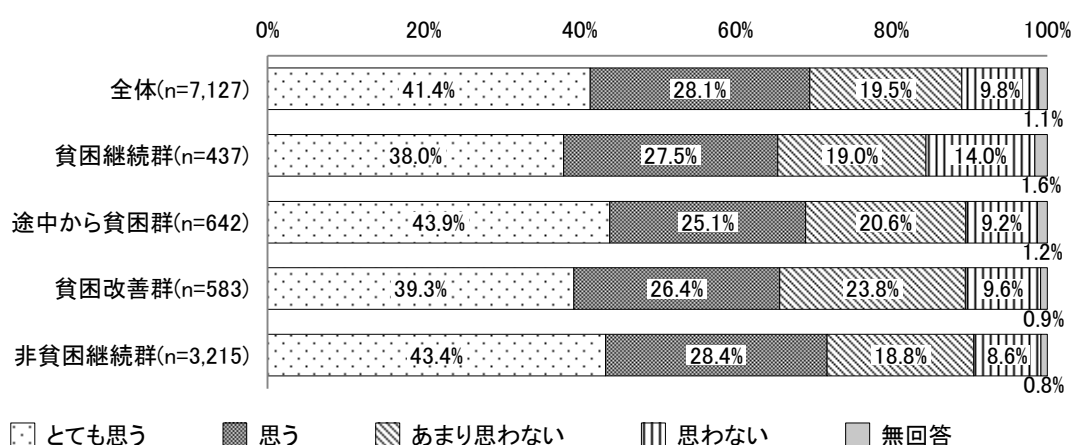
図表 422 貧困継続状況別 不安に感じることもある：単数回答（こども Q33D）
($p<.05$)



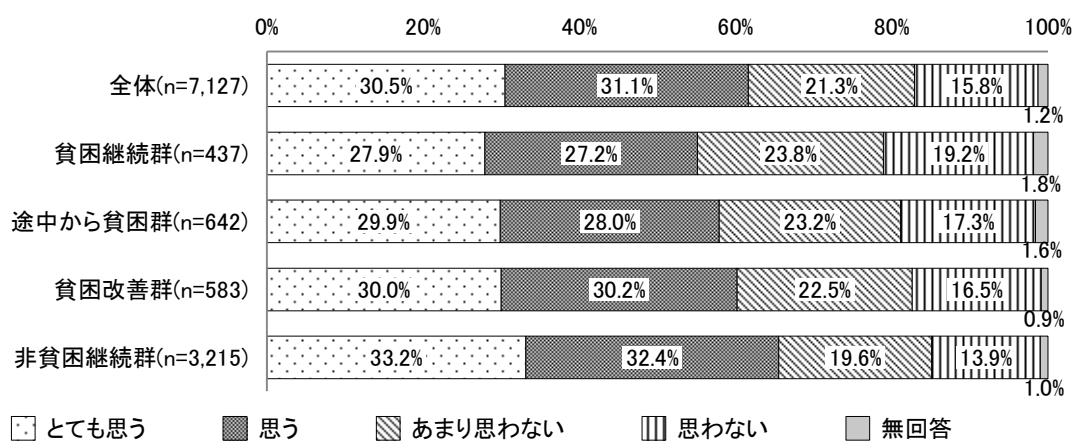
図表 423 貧困継続状況別 孤独を感じることもある：単数回答（こども Q33E）
($p<.01$)



図表 424 貧困継続状況別 自分の将来が楽しみだ：単数回答（こども Q33H）
($p<.01$)



図表 425 貧困継続状況別 自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）
($p<.01$)



(2) 考察

- 以下では、貧困継続状況別にみた保護者・こどもの状況について整理する。
- 保護者についてみると、貧困継続群においては、困ったとき等に相談できる人や、近隣で交流のある知人等がいなとする割合が高い傾向がみられた。
- また、貧困継続群においては、15歳の頃の家庭の暮らし向きが大変苦しかったとする割合や、成人前には逆境経験（両親の離婚、親からの暴力等）がある割合、こどもを持ってからは配偶者からの暴力や自殺を考えた割合等も高くなっていた。自己肯定感についても、ほとんどの項目で貧困継続群であるほど低い傾向がみられた。
- 次に、こどもについてみると、貧困継続群ほど、将来のために今がんばりたいと思わないとする割合が高く、将来の進学希望も低い傾向がみられた。また、「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」と思わない割合も高くなっていた。
- これらの結果より、貧困状態が継続しているほど、保護者自身がつらい経験をしているにもかかわらず、困ったときに相談する相手がおらず、悩みを抱え込んでいる可能性があることがうかがえる。
- また、家庭の貧困状態が継続することは、保護者のみならずこどもの意欲や自己肯定感にも影響を及ぼすことが示唆され、積極的な支援が求められる。

3. 保護者の国籍別分析

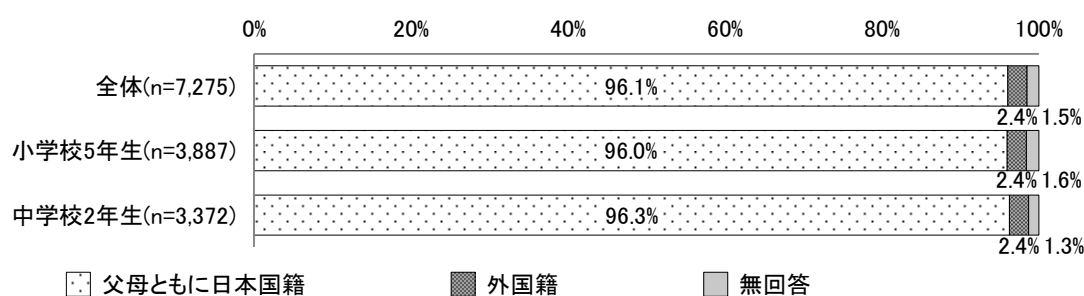
本節では、保護者の国籍によって、保護者や子どもたちがおかれた状況や課題が異なるかどうかを分析した。

分析にあたっては、保護者票問8「両親の国籍」をもとに、下記のとおり①父母ともに日本国籍／②外国籍（父母のいずれか、またはどちらも外国籍）に分類した。なお、ひとり親の場合は、同居している親の国籍が日本であれば「父母ともに日本国籍」、日本以外であれば「外国籍」に分類した。

		父親国籍	
		日本	日本以外
母親国籍	日本	①父母ともに日本国籍（ひとり親の場合は同居親が日本国籍）	②外国籍
	日本以外	②外国籍	②外国籍

学年別の保護者国籍の状況は下記のとおりである。

図表 426 保護者国籍：単数回答（学年別）



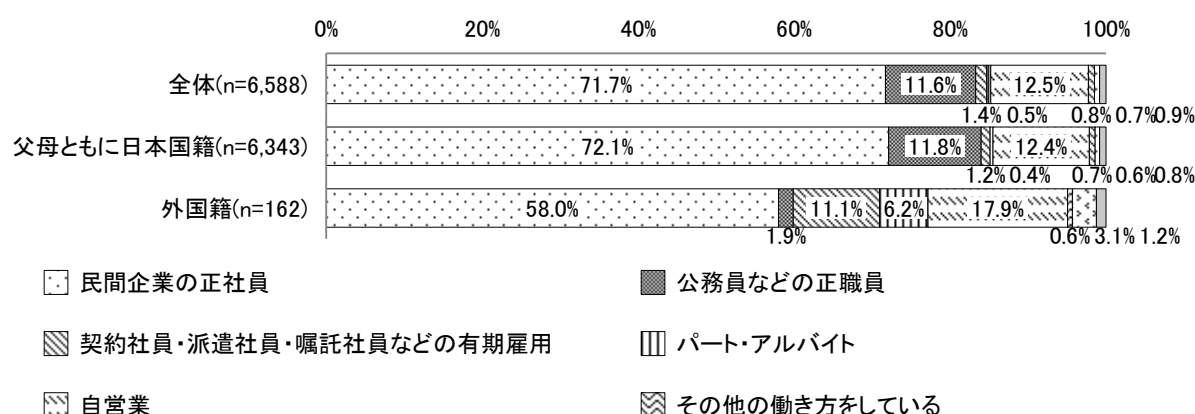
(1) 分析結果

1) 【保護者】父親の就業状況

保護者国籍別にみると、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、父親が「契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用」「パート・アルバイト」といった非正規雇用や「自営業」である割合が高くなっている。

図表 427 保護者国籍別 父親の就業状況：単数回答（保護者 Q10）

($p<.01$)

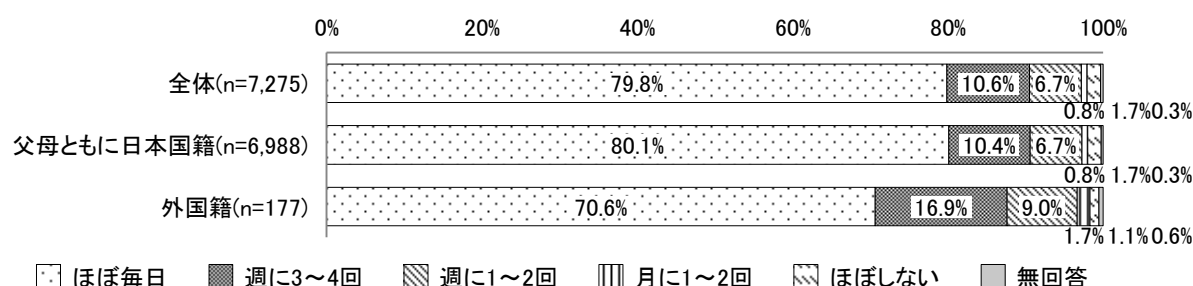


2) 【保護者】子どもとの関わり

保護者国籍別にみると、「一緒に夕食をたべる」「学校生活の話をする」「ニュースなどの社会のできごとについて話す」といった項目について、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「ほぼ毎日」の割合が低くなっている。一方で、「一緒に外出する」については「外国籍」の保護者の方が「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

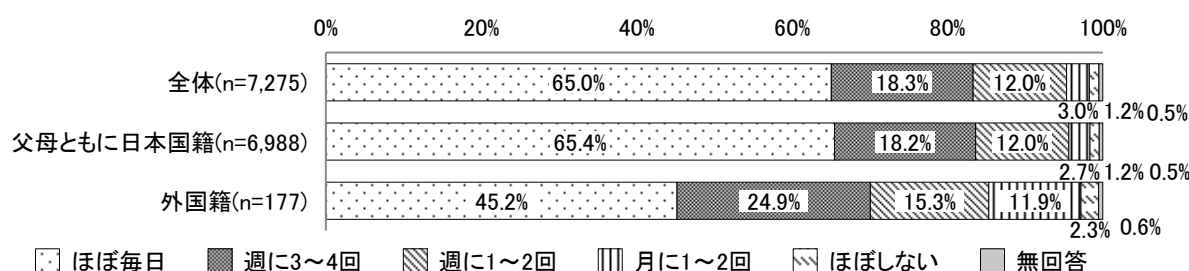
図表 428 保護者国籍別 一緒に夕食をたべる：単数回答（保護者 Q33B）

($p<.05$)



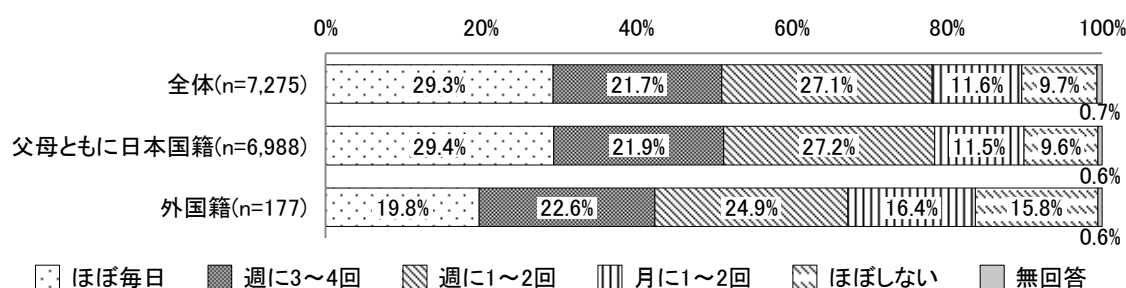
図表 429 保護者国籍別 学校生活の話をする：単数回答（保護者 Q33E）

($p<.01$)



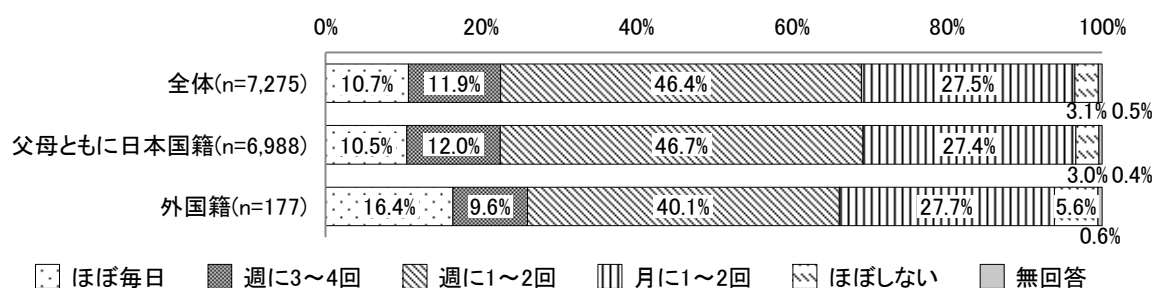
図表 430 保護者国籍別 ニュースなどの社会のできごとについて話す：単数回答（保護者 Q33F）

($p<.01$)



図表 431 保護者国籍別 一緒に外出する：単数回答（保護者 Q33H）

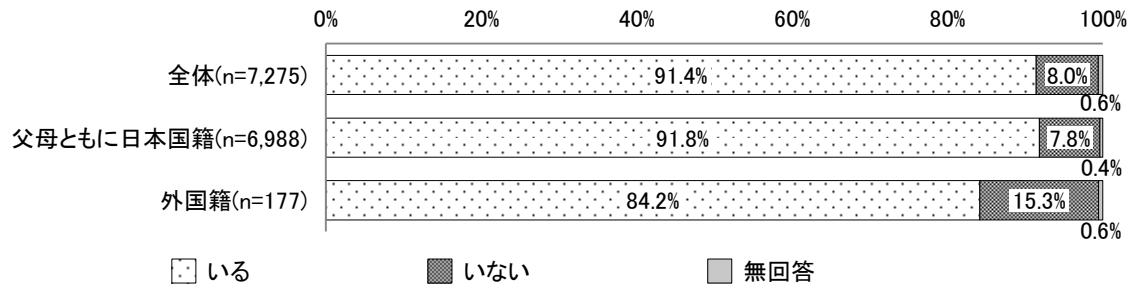
($p<.05$)



3) 【保護者】相談相手、知人等の有無

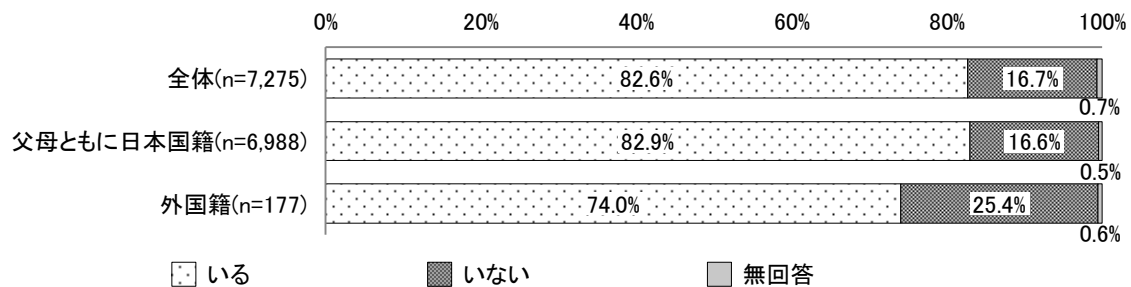
保護者国籍別にみると、「困ったとき等、相談できる人」「近隣で、挨拶や日常会話をする知人等」「近隣で、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等」のいずれも、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「いない」とする割合が高くなっている。

図表 432 保護者国籍別 困ったとき等、相談できる人の有無：単数回答（保護者 Q36）
($p<.01$)



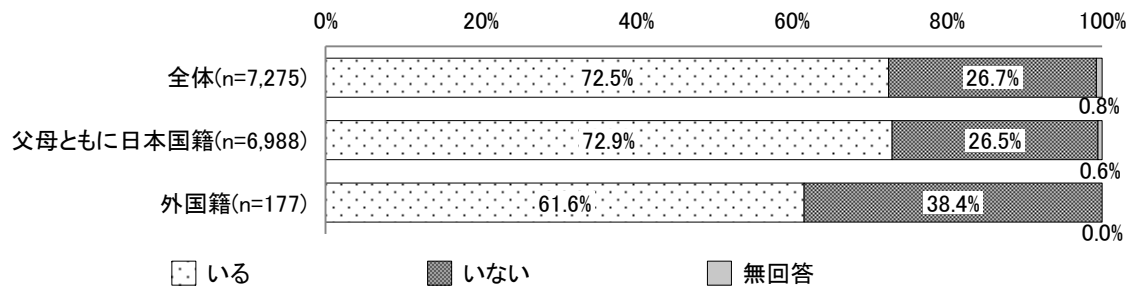
図表 433 保護者国籍別 近隣で、挨拶や日常会話をする知人等の有無：
単数回答（保護者 Q37）

($p<.01$)



図表 434 保護者国籍別 近隣で、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の
有無：単数回答（保護者 Q38）

($p<.01$)

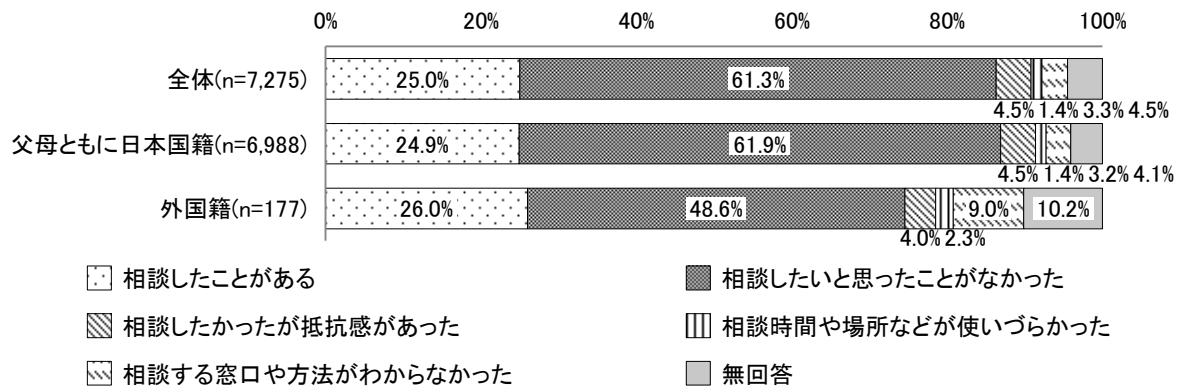


4) 【保護者】公的機関への相談状況

保護者国籍別にみると、いずれの項目についても、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「相談する窓口や方法がわからなかった」を選択している割合が高くなっている。

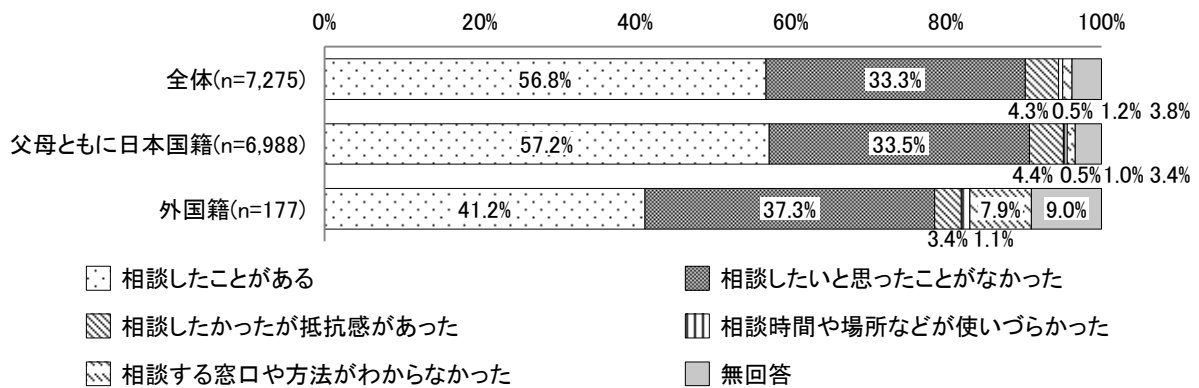
図表 435 保護者国籍別 公的機関への相談状況_市役所、町村役場の窓口：単数回答
(保護者 Q48A)

($p<.01$)



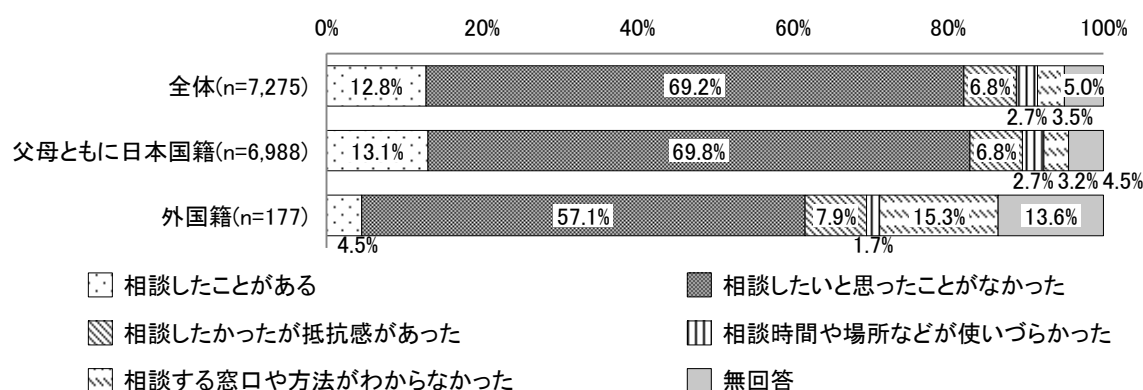
図表 436 保護者国籍別 公的機関への相談状況_学校・保育所・幼稚園の先生：単数回答
(保護者 Q48B)

($p<.01$)



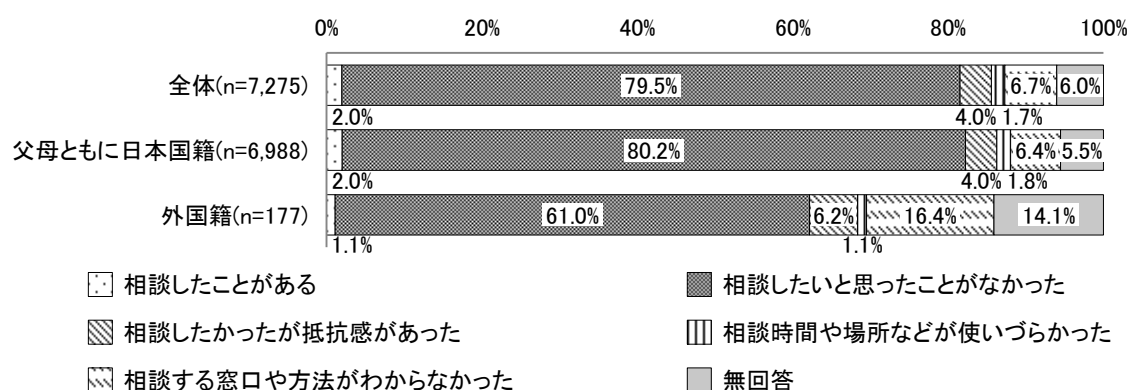
図表 437 保護者国籍別 公的機関への相談状況_スクールカウンセラー：単数回答
(保護者 Q48C)

($p<.01$)



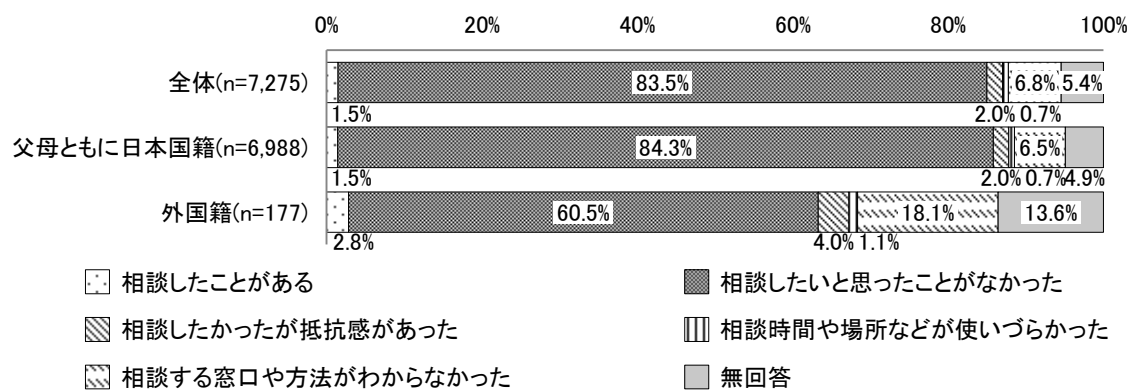
図表 438 保護者国籍別 公的機関への相談状況_スクールソーシャルワーカー：単数回答
(保護者 Q48D)

($p<.01$)

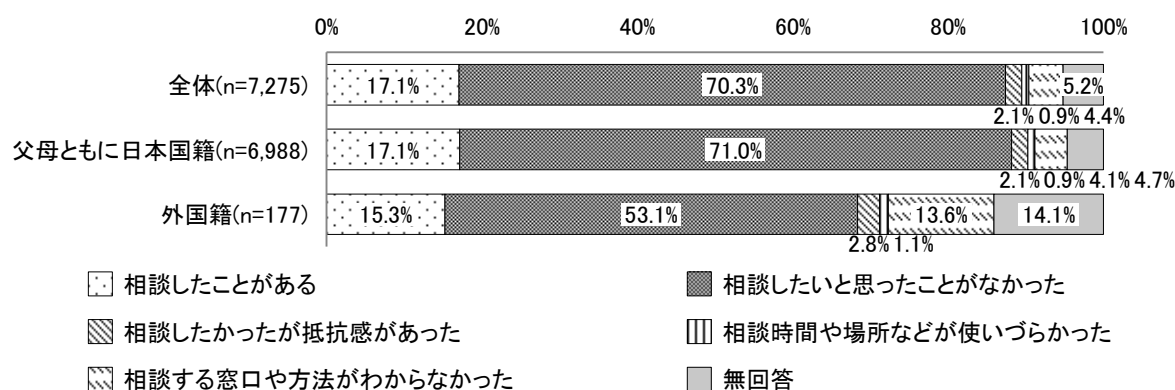


図表 439 保護者国籍別 公的機関への相談状況_民生委員・児童委員：単数回答
(保護者 Q48E)

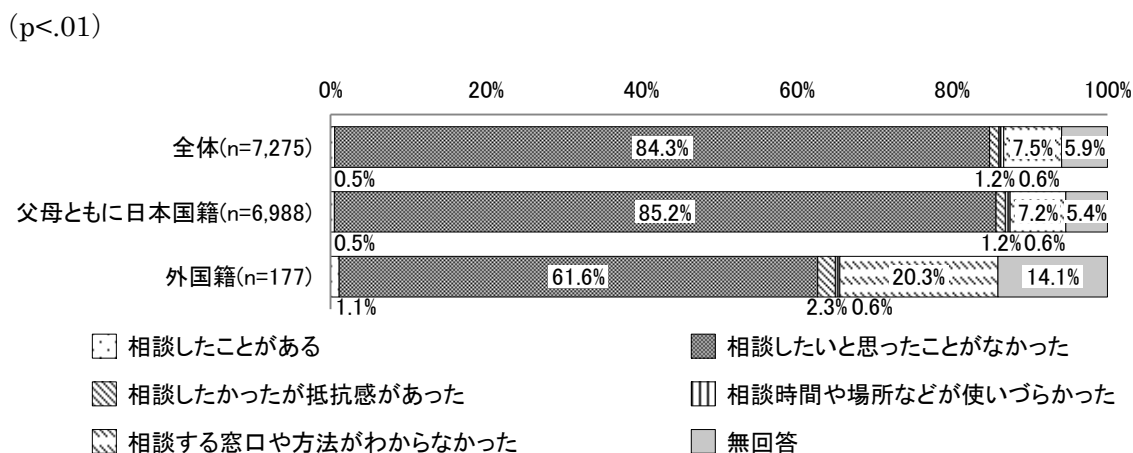
($p<.01$)



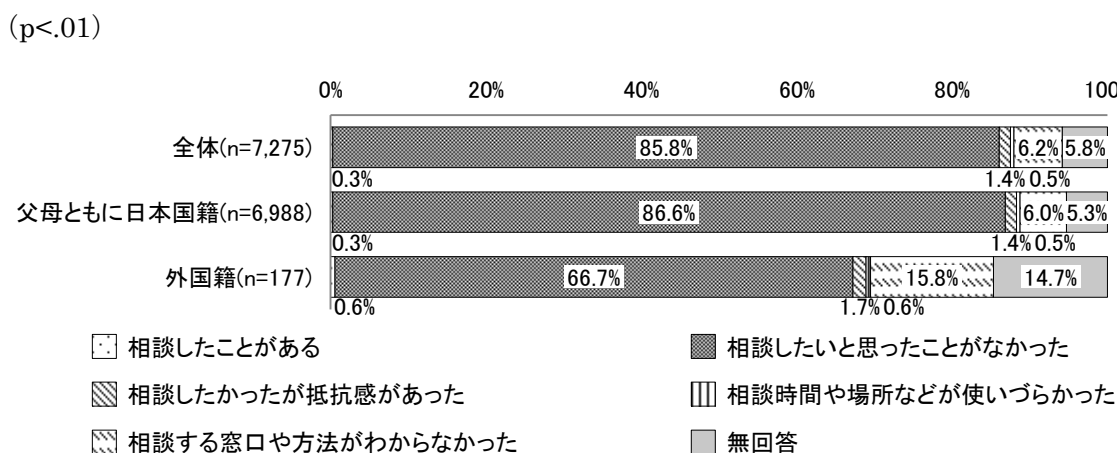
図表 440 保護者国籍別 公的機関への相談状況_保健所：単数回答（保護者 Q48F）
($p<.01$)



図表 441 保護者国籍別 公的機関への相談状況_中核地域生活支援センター：単数回答
(保護者 Q48G)

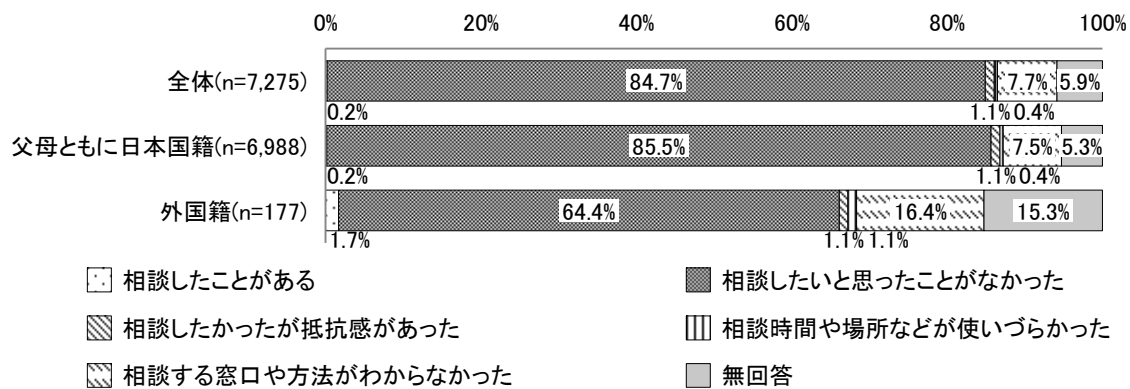


図表 442 保護者国籍別 公的機関への相談状況_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口：単数回答（保護者 Q48H）



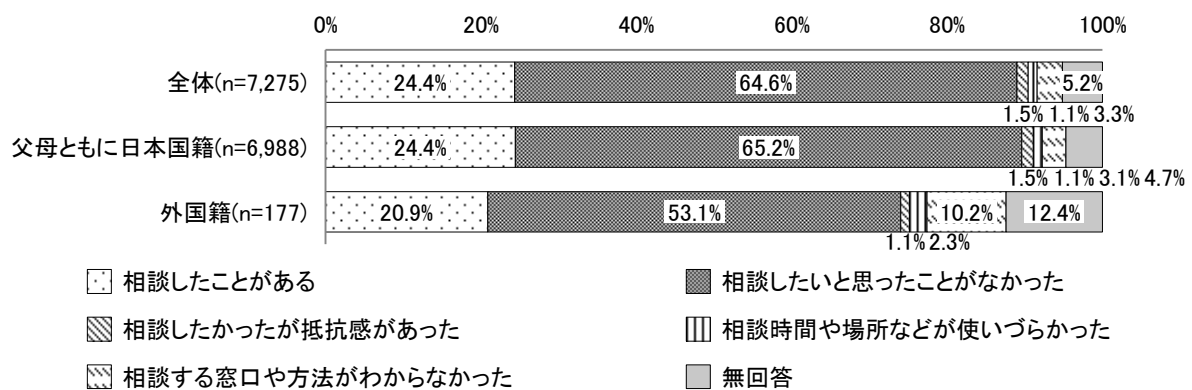
図表 443 保護者国籍別 公的機関への相談状況_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」：単数回答（保護者 Q48I）

($p<.01$)



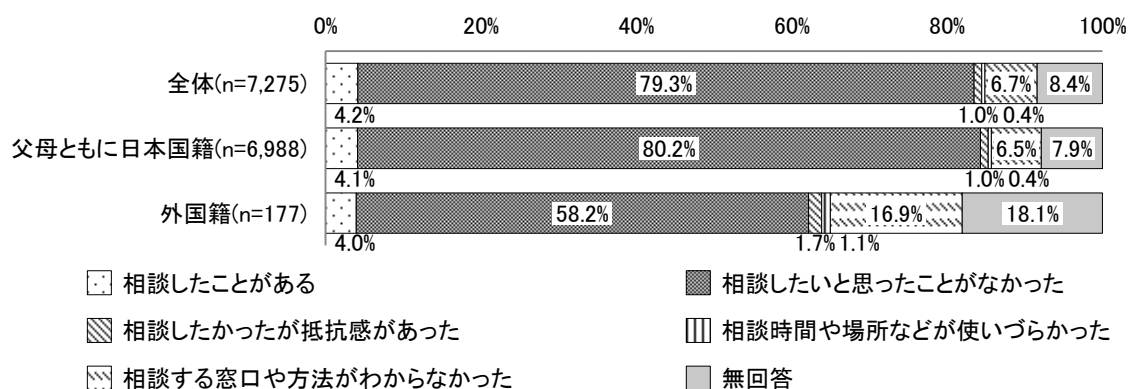
図表 444 保護者国籍別 公的機関への相談状況_ハローワーク：単数回答（保護者 Q48J）

($p<.01$)



図表 445 保護者国籍別 公的機関への相談状況_上記以外の公的機関：単数回答（保護者 Q48K）

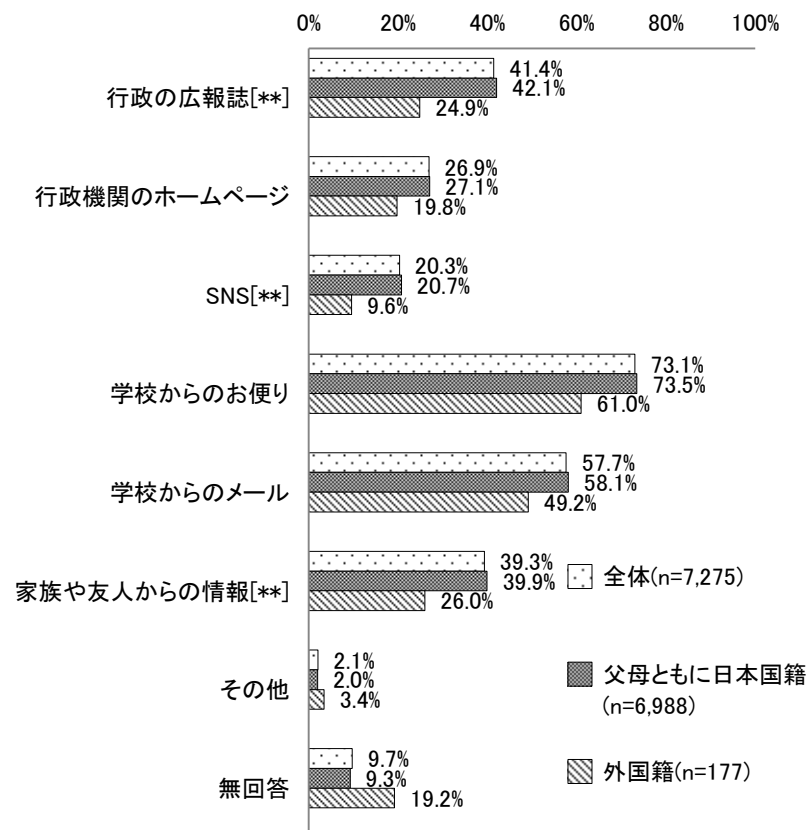
($p<.01$)



5) 【保護者】 こどもに関する支援制度等の情報_現在の受け取り方法

保護者国籍別にみると、いずれの項目も、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、選択している割合が 10 ポイント程度低くなっている。特に、「行政の広報誌」の差が大きい。

図表 446 保護者国籍別 こどもに関する支援制度等の情報_現在の受け取り方法：単数回答
(保護者 Q49_1)

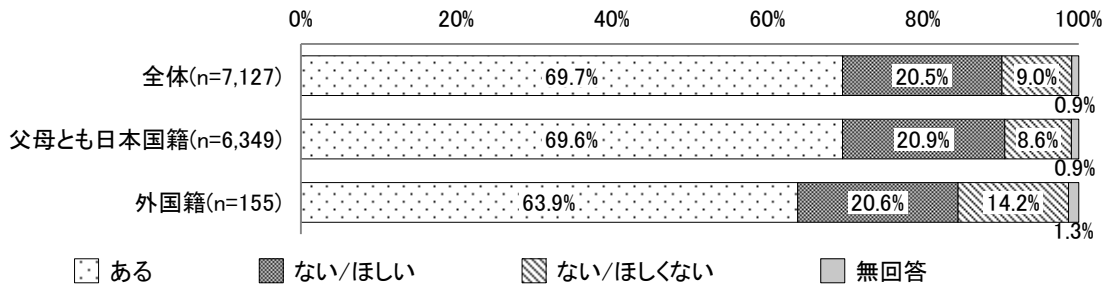


6) 【こども】所有しているもの

保護者国籍別にみると、「こども部屋」「ゲーム機」「自転車」「2 足以上のサイズのあった靴」について、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「ある」と回答する割合が低くなっている。

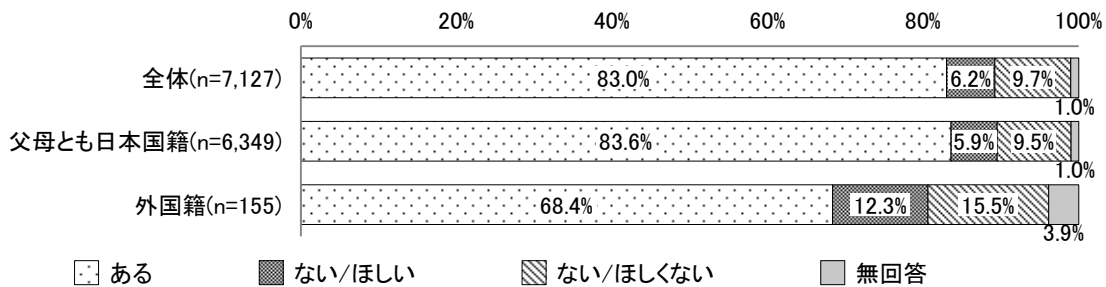
図表 447 保護者国籍別 こども部屋：単数回答（こども Q26B）

($p<.05$)



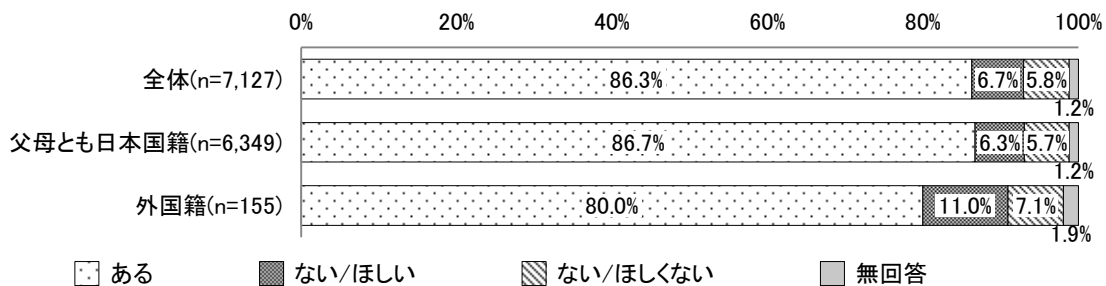
図表 448 保護者国籍別 ゲーム機：単数回答（こども Q26G）

($p<.01$)

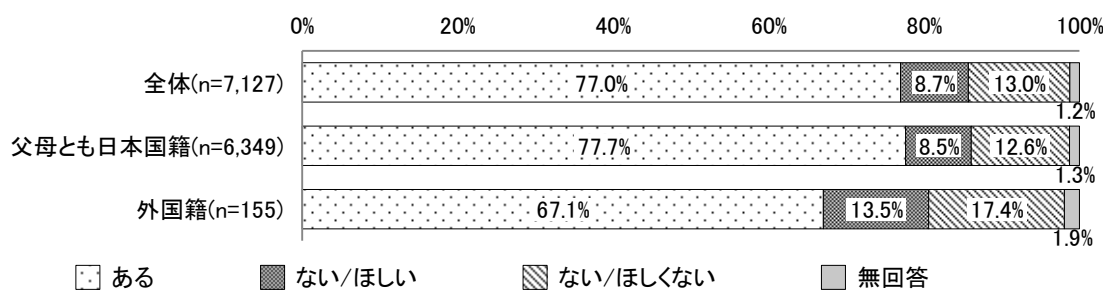


図表 449 保護者国籍別 自転車：単数回答（こども Q26I）

($p<.05$)



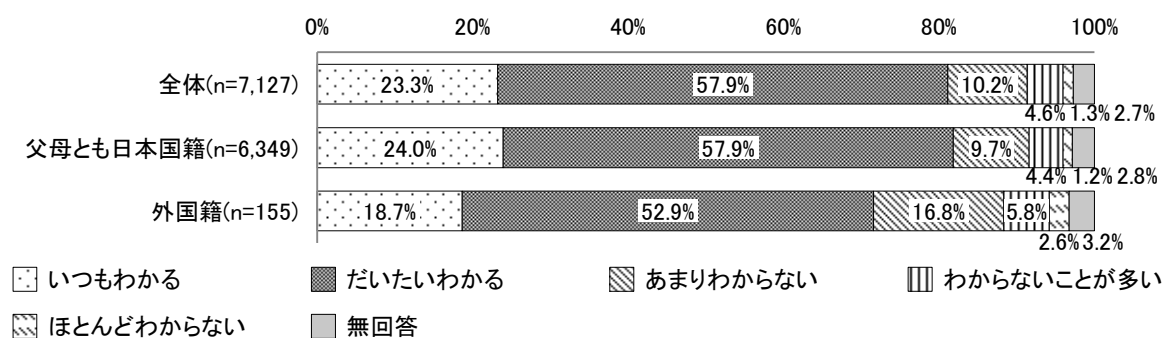
図表 450 保護者国籍別 2 足以上のサイズのあった靴：単数回答（こども Q26L）
($p<.01$)



7) 【こども】授業の理解度

保護者国籍別にみると、「父母とも日本国籍」に比べて、「外国籍」の場合、「あまりわからない」と回答する割合が高くなっている。

図表 451 保護者国籍別 授業の理解度：単数回答（こども Q4）
($p<.05$)

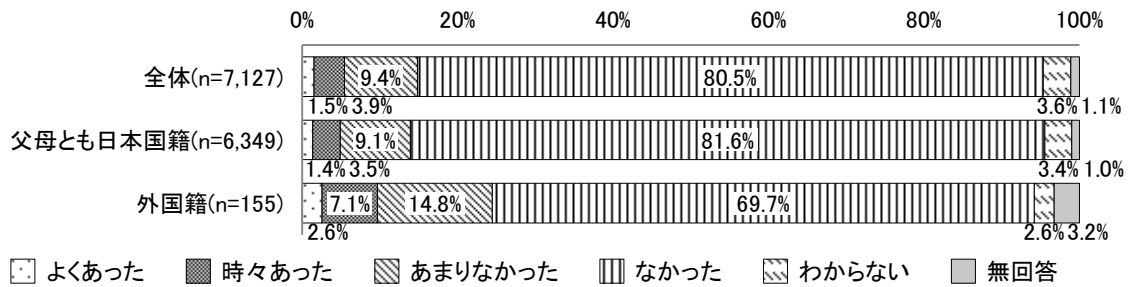


8) 【こども】家事や家族の世話の影響

保護者国籍別にみると、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった」「家事や家族の世話で遊ぶ時間がとれなかった」ことが「なかった」と回答する割合が低くなっている。

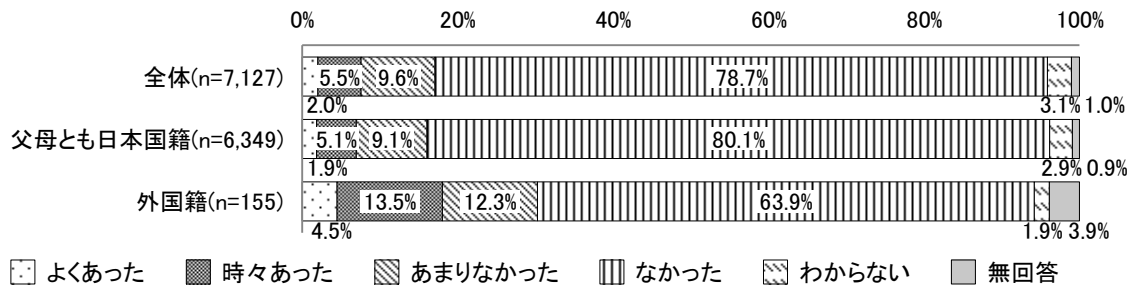
図表 452 保護者国籍別 家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった：単数回答
(こども Q29F)

($p<.01$)



図表 453 保護者国籍別 家事や家族の世話で遊ぶ時間がとれなかった：単数回答
(こども Q29G)

($p<.01$)



(2) 考察

- 以下では、保護者国籍別にみた保護者・こどもの状況について整理する。
- 保護者についてみると、保護者が外国籍の場合、父親が非正規雇用（契約社員、パート・アルバイト等）や自営業で働いている割合が高くなっていた。
- また、保護者からこどもへの関わり（学校生活の話をする、ニュースなどの社会のできごとについて話す等）についても、保護者が外国籍の場合、日常的に行っている割合が低い傾向がみられた。
- さらに、保護者が外国籍の場合、困ったときに相談できる人や近隣の知人等がいる割合が低く、公的機関への相談について「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合も高い。こどもに関する支援制度等の情報の受け取り状況についても、保護者が外国籍の場合、行政の広報誌やSNS、家族・友人から情報を得ているという割合が低かった。
- 次に、こどもについてみると、保護者が外国籍の場合、こども部屋やゲーム機、自転車、2足以上のサイズの合った靴などの所有率が低くなっていた。また、学校の授業が「あまりわからない」と回答する割合が高い傾向がみられた。
- また、保護者が外国籍の場合、こどもが「家事や家族の世話で勉強・遊ぶ時間がとれなかった」ことが「なかった」と回答する割合が低くなっていた。
- これらの結果より、保護者が外国籍の家庭では、父親が非正規雇用など不安定な就業状況におかれていることや、学校や社会のことについてこどもと話す機会が低調になっていること、言葉の壁から相談先や支援の情報が十分に届いていないことが示唆される。
- また、保護者に替わってこどもが家事や家族の世話を担うことで、勉強や遊びの時間を削らざるをえないというヤングケアラー的状況におかれている可能性もうかがえる。

4. 保護者との関わりとこどもの自己肯定感

本節では、保護者との関わりとこどもの自己肯定感にどのように影響するのかを分析した。分析にあたっては、こども問 23「保護者との関わり」の A～H において、「ほぼ毎日」「週に 3～4 回」のいずれかを選択した数より、以下の 4 区分を作成した。

<こども問 23>

あなたは、おうちの大人のひとと次のようなことをどれくらいしていますか。
(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	ほぼ 毎日	週に 3～4 回	週に 1～2 回	月に 1～2 回	ほぼ ない
A 一緒に朝食をたべる	1	2	3	4	5
B 一緒に夕食をたべる	1	2	3	4	5
C 勉強をみってもらう	1	2	3	4	5
D 一緒に遊んだり体を動かしたりする	1	2	3	4	5
E 学校生活の話をする	1	2	3	4	5
F ニュースなど社会のできごとについて話す	1	2	3	4	5
G 一緒に料理をする	1	2	3	4	5
H 一緒に外出する（散歩、買い物、外食等）	1	2	3	4	5

<こども問 23 より作成した保護者との関わりのカテゴリ>

※A～Hにおいて、「ほぼ毎日」「週に 3～4 回」のいずれかを選択した数

- ①全くない
- ②1～2つ
- ③3～4つ
- ④5つ以上

(1) 分析結果

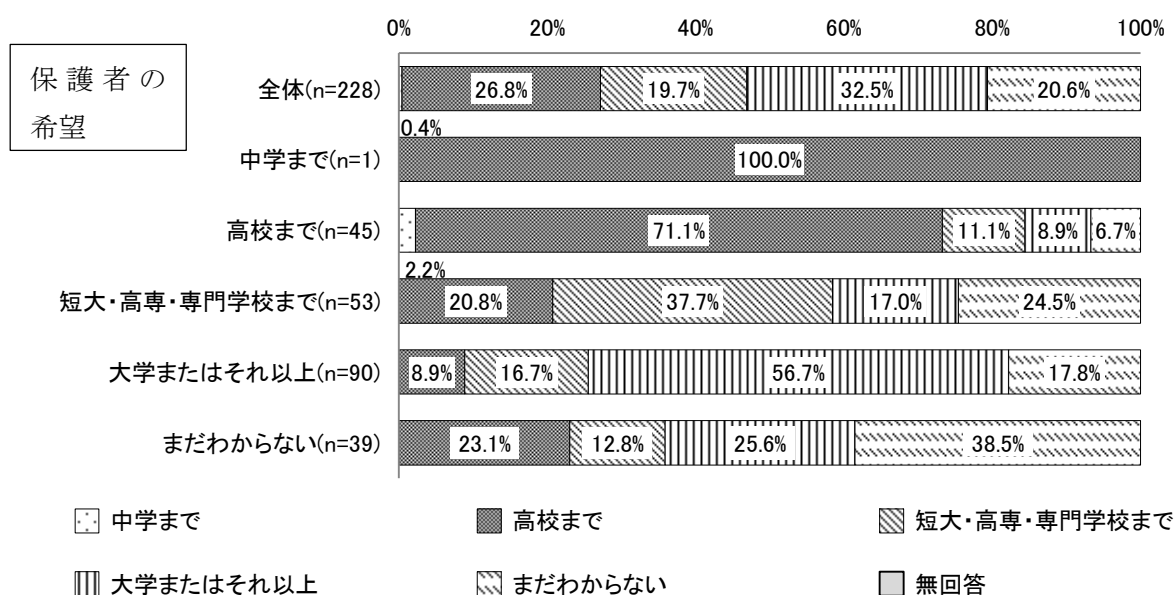
1) 【保護者×こども】保護者がこどもに受けさせたい教育段階と、こどもが進学したい段階

保護者がこどもに受けさせたい教育の段階別に、こどもがどの段階まで進学したいかをみると、生活困難度に関わらず、保護者がこどもに受けさせたい教育の段階とこどもが進学したいと思う段階は一致している割合が高い傾向にあった。一方で、保護者とこどもで不一致にある場合も一定数みられる。

困窮層は周辺層、一般層と比較して、「高校まで」で保護者とこどもで一致している割合が高く、周辺層が 52.2%、一般層が 54.5%であるのに対し、困窮層は 71.1%を占めている。

<困窮層> (p<.01)

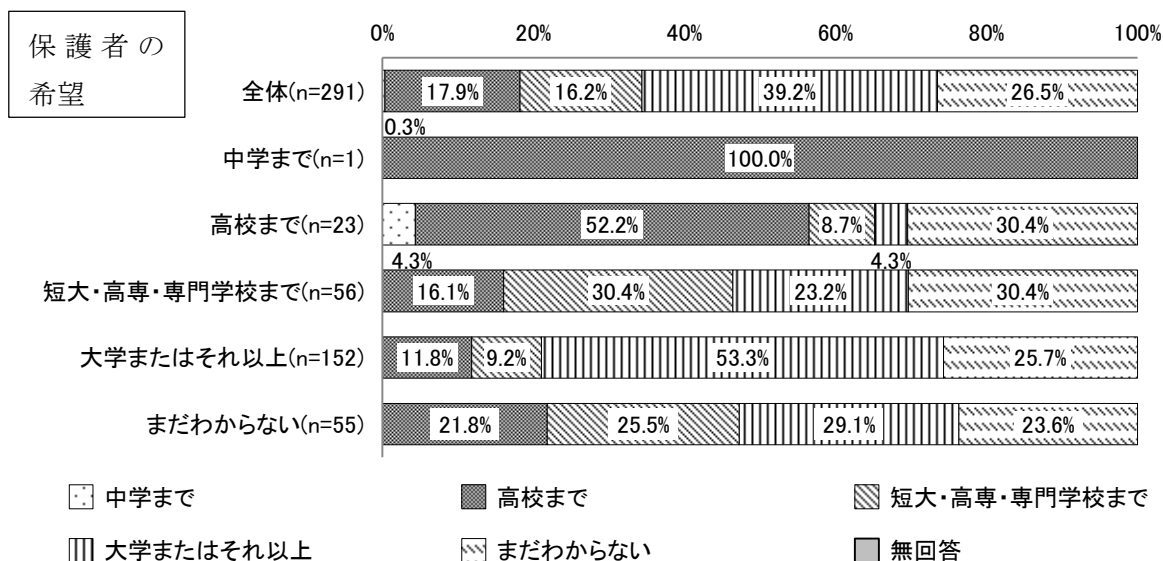
図表 454 保護者がこどもに受けさせたい教育の段階（保護者 Q29）別
こどもが進学したい段階：単数回答（こども Q10）



注)「中学まで」は n 数が 1 件のため参考値。

<周辺層> (p<.01)

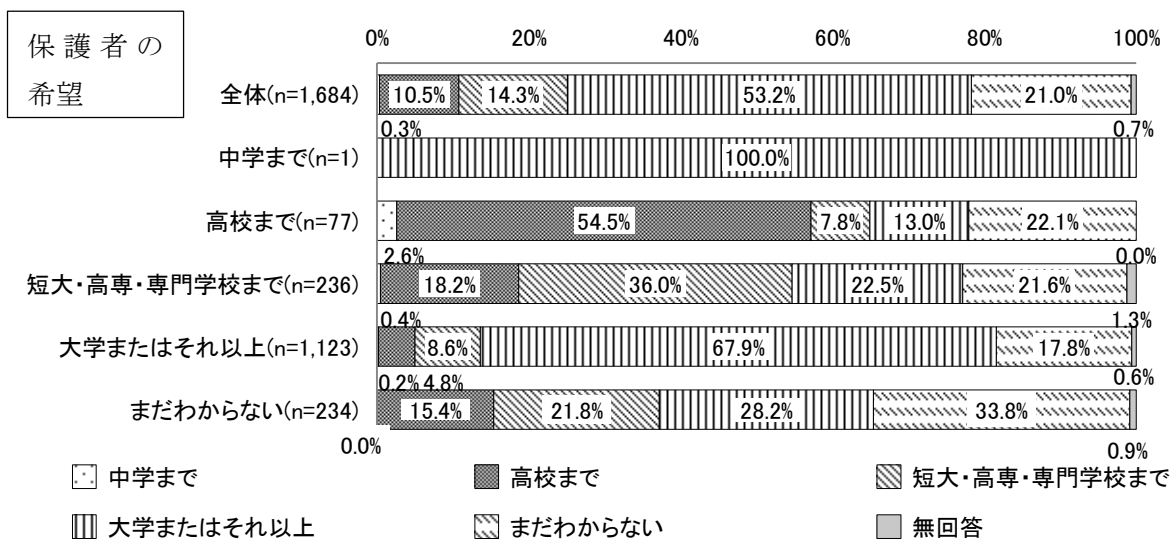
図表 455 保護者がこどもに受けさせたい教育の段階（保護者 Q29）別
こどもがこどもが進学したい段階：単数回答（こども Q10）



注)「中学まで」は n 数が 1 件のため参考値。

<一般層> (p<.01)

図表 456 保護者がこどもに受けさせたい教育の段階（保護者 Q29）別
こどもが進学したい段階：単数回答（こども Q10）



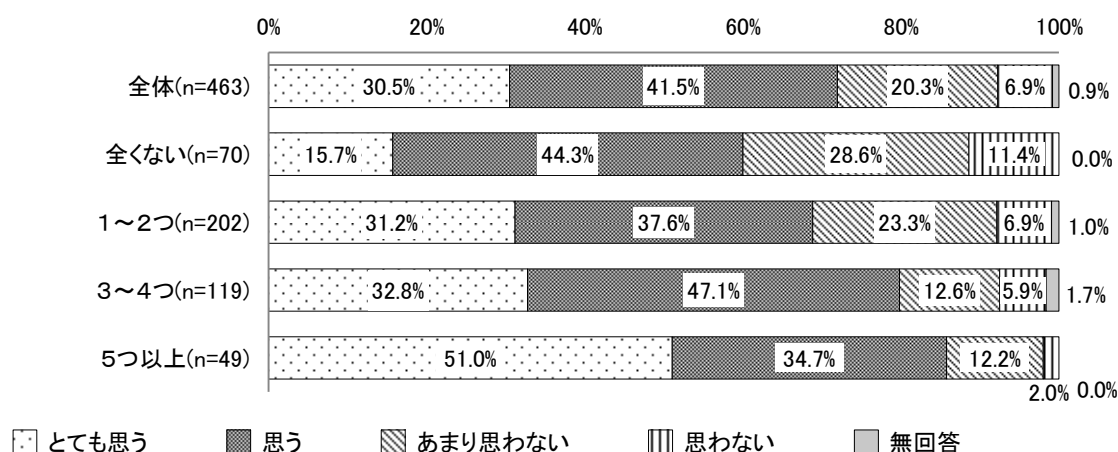
注)「中学まで」は n 数が 1 件のため参考値。

2) 【こども】思いや気持ち_がんばれば、むくわれる

保護者との関わりのカテゴリ別に、こどもの思いや気持ちとして『がんばれば、むくわれるか』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、保護者との関わりが多いほど、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合が高くなる傾向にある。

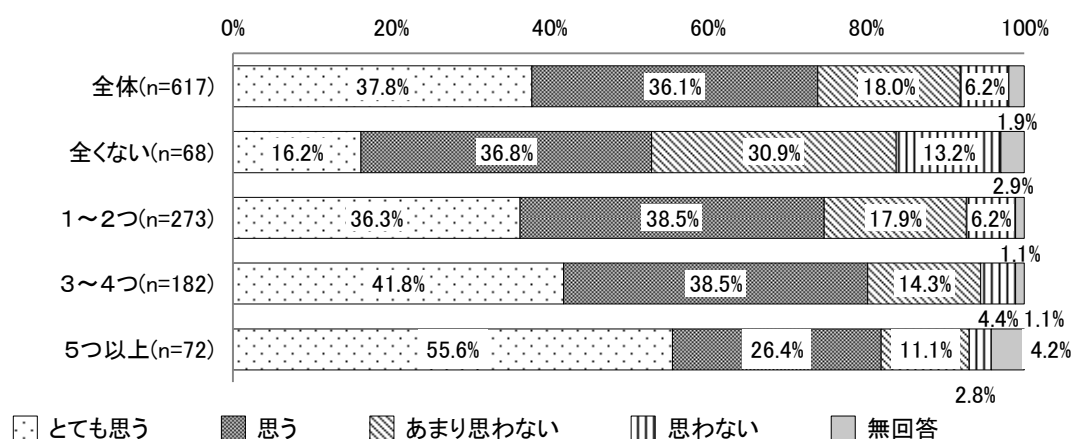
<困窮層> (p<.01)

図表 457 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



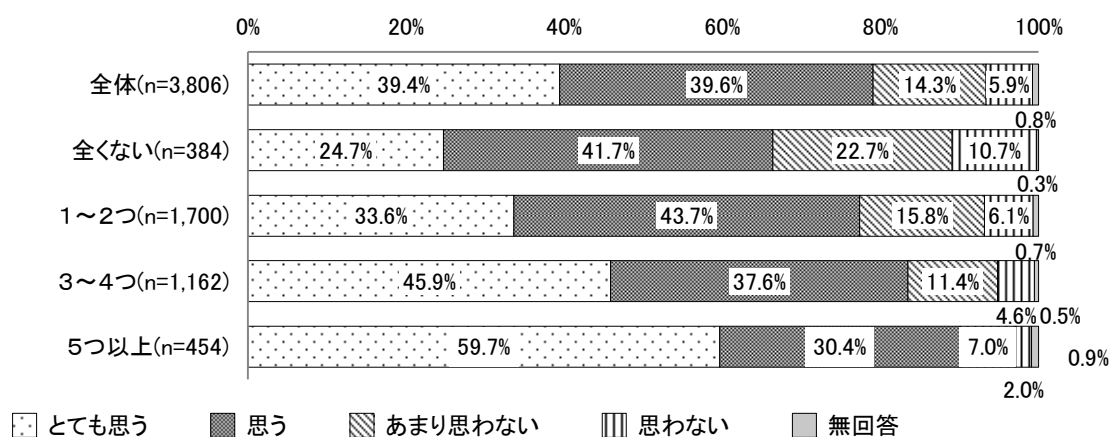
<周辺層> (p<.01)

図表 458 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



<一般層> (p<.01)

図表 459 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）

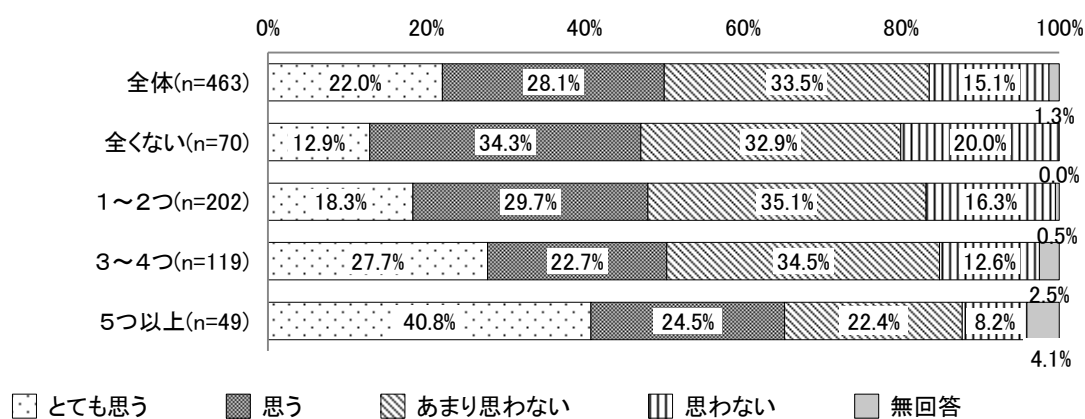


3) 【こども】思いや気持ち_自分は価値のある人間だ

保護者との関わり別に、こどもの思いや気持ちとして『自分は価値のある人間だ』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、保護者との関わりが多いほど、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合が高くなる傾向にある。

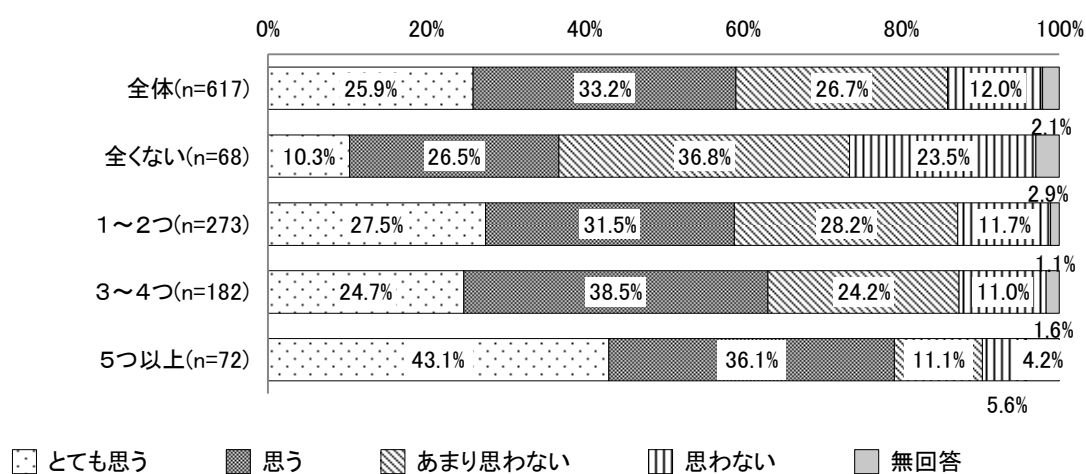
<困窮層> (p<.01)

図表 460 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



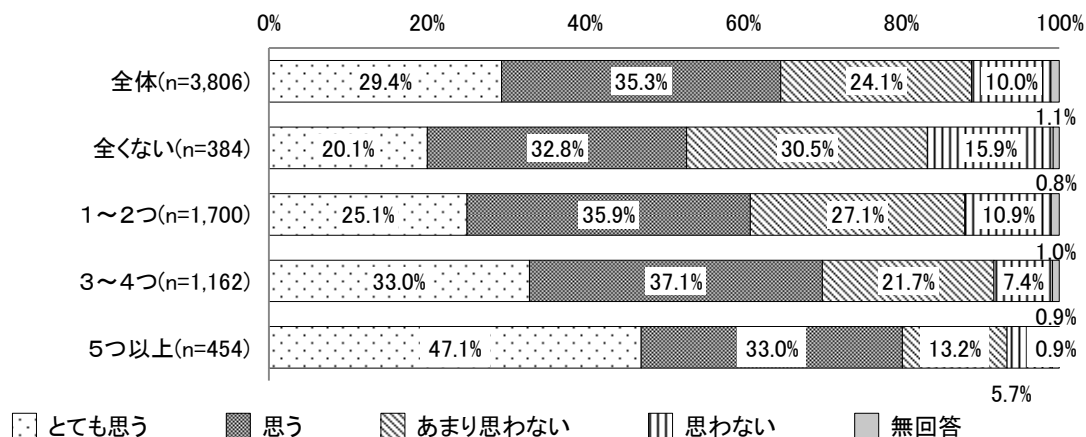
<周辺層> (p<.01)

図表 461 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



<一般層> (p<.01)

図表 462 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）

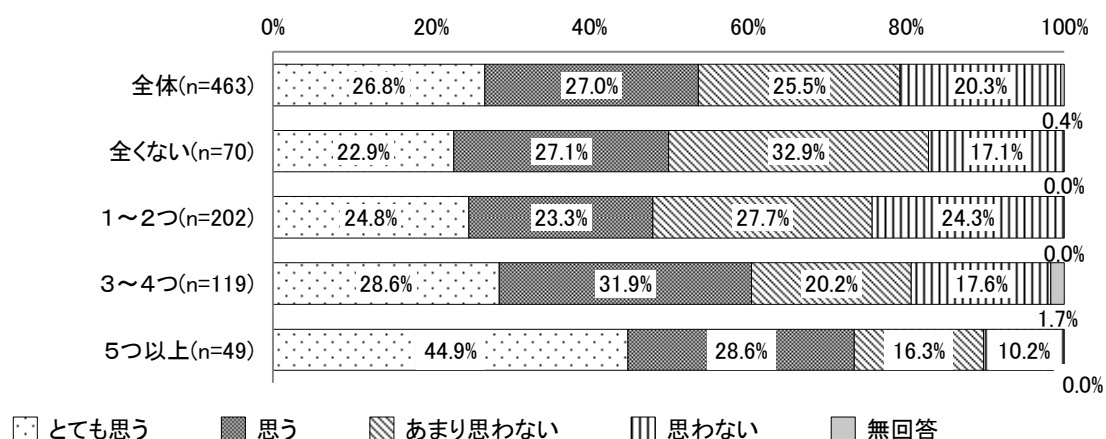


4) 【こども】思いや気持ち_自分のことが好きだ

保護者との関わり別に、こどもの思いや気持ちとして『自分のことが好きだ』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、保護者との関わりが多いほど、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合が高くなる傾向にある。

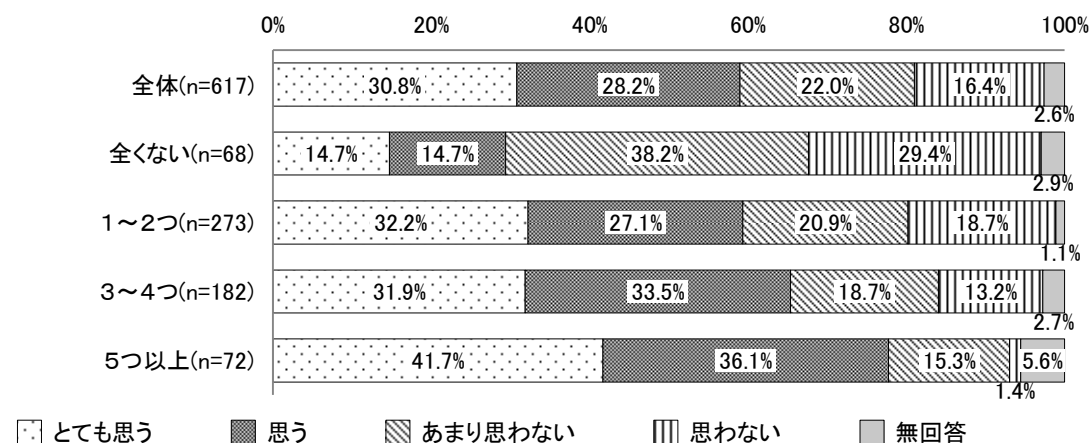
<困窮層> (p<.05)

図表 463 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



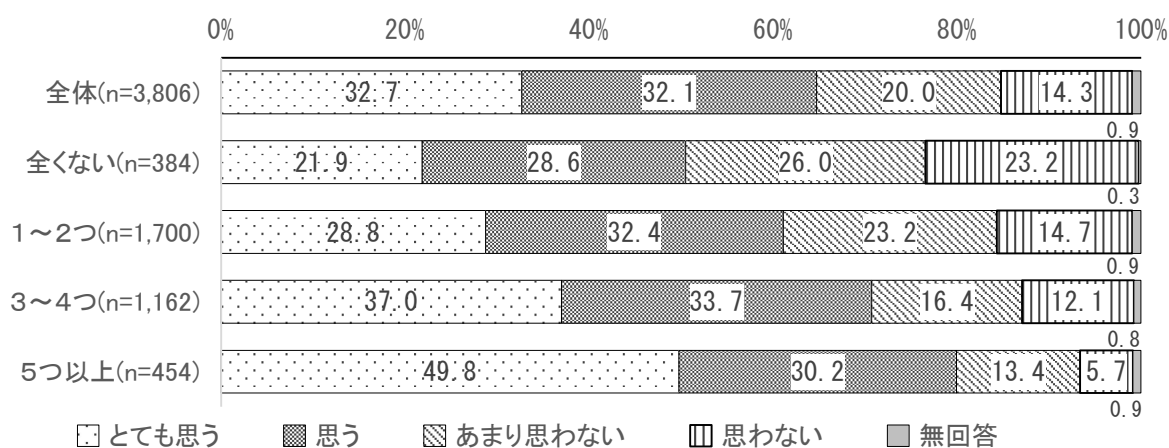
<周辺層> (p<.01)

図表 464 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



<一般層> (p<.01)

図表 465 保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



※令和7年7月14日 グラフの掲載誤りを修正

(2) 考察

- ここまで、保護者との関わり状況とこどもの自己肯定感の関係を生活困難度別にみてきた。以下ではその結果を考察する。
- 保護者がこどもに受けさせたい教育の段階別に、こどもがどの段階まで進学したいかをみると、生活困難度に関わらず、どの段階とも両者が一致している割合が高くなっていたが、不一致も一定数、存在していた。また、親が考えるどの教育段階とも、こどもは「まだわからない」と回答した割合が2～3割程度みられたり、親が「まだわからない」と回答していても、こどもは、どの段階まで進学したいかを考えている割合の方が高いなど、わからないと感じている状況にもギャップがみられた。
- 保護者の関わりとこどもの自己肯定感についてみると、生活困難度に関わらず、「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」といった自己肯定感は、保護者との関わりが多いほど高くなる傾向にあり、保護者との関わりとこどもの自己肯定感には高い相関関係がみられた。
- これらより、こどもの自己肯定感を高めるためには、保護者がこどもと一緒に食事をする、遊ぶ、話をするなど、日常生活の中で、様々な関わりを持つことが重要であると考えられる。

5. 習い事の有無とこどもの自己肯定感

本節では、習い事の有無がこどもの自己肯定感にどのように影響するのかを分析した。
分析にあたっては、保護者票問 31 の「C 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」より、
習い事を「している」「していない」別のクロス集計を行った。

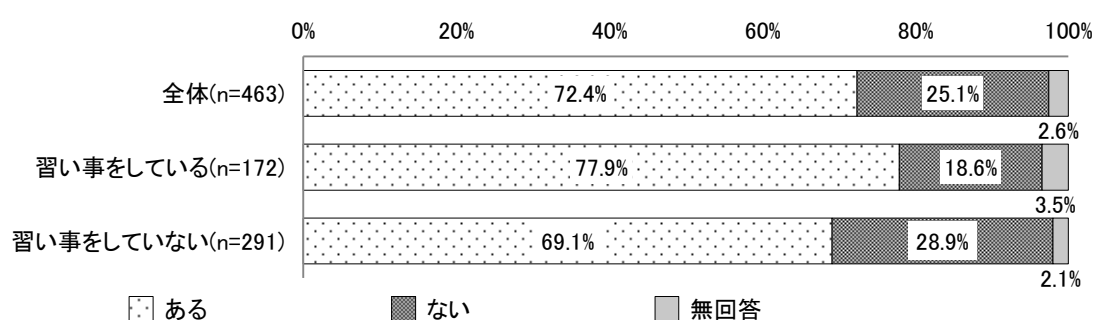
（1）分析結果

1) 【保護者×こども】将来の夢や目標

習い事の有無別に、将来の夢や目標があるかをみると、いずれの層とも、「習い事をしている」
方が、将来の夢や目標が「ある」と回答した割合が高い。

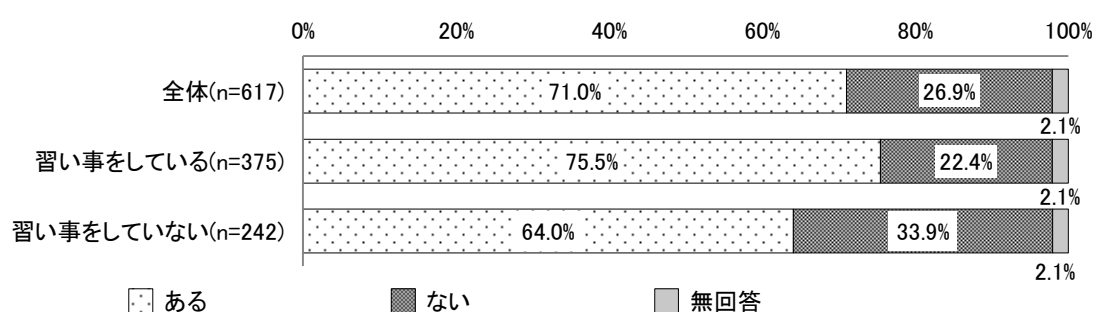
< 困窮層 > ($p<.05$)

図表 466 習い事の有無（保護者 Q31C）別 将来の夢や目標：単数回答（こども Q11）



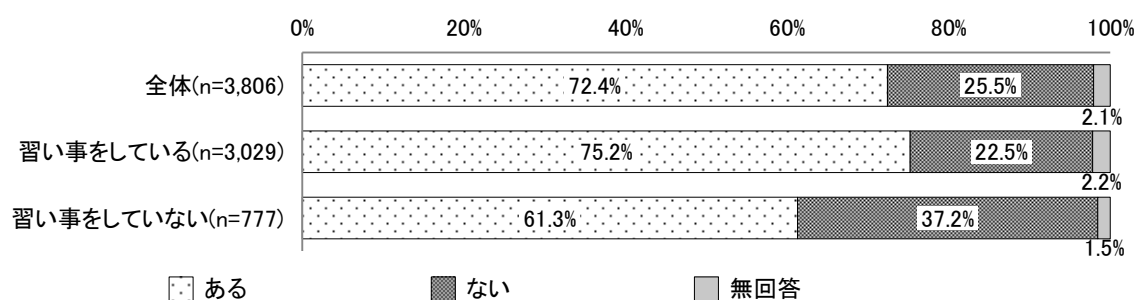
< 周辺層 > ($p<.01$)

図表 467 習い事の有無（保護者 Q31C）別 将来の夢や目標：単数回答（こども Q11）



< 一般層 > ($p<.01$)

図表 468 習い事の有無（保護者 Q31C）別 将来の夢や目標：単数回答（こども Q11）

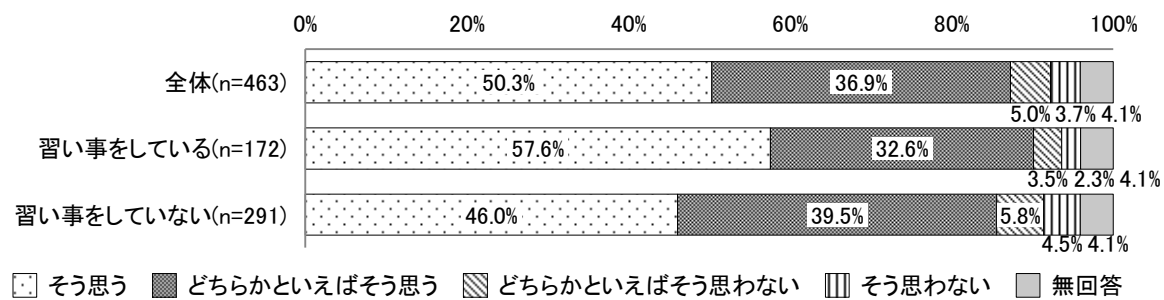


2) 【保護者×こども】将来のために、今頑張りたいと思うか

習い事の有無別に、将来のために、今頑張りたいと思うかをみると、一般層のみ、「習い事をしている」方が、「そう思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。

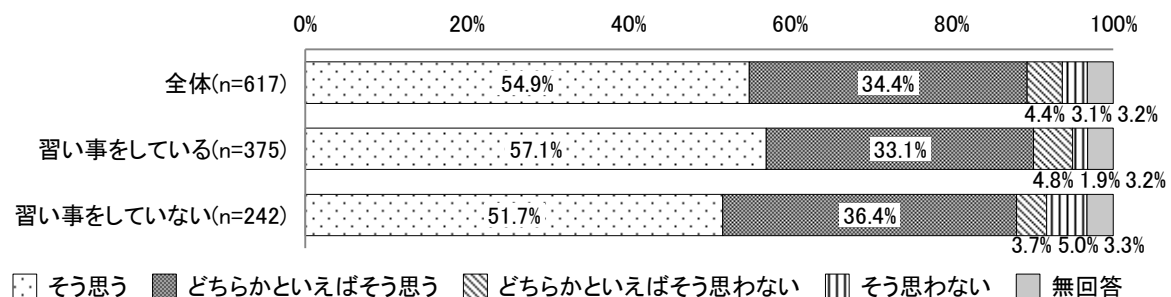
<困窮層> (有意差なし)

図表 469 習い事の有無（保護者 Q31C）別
将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）



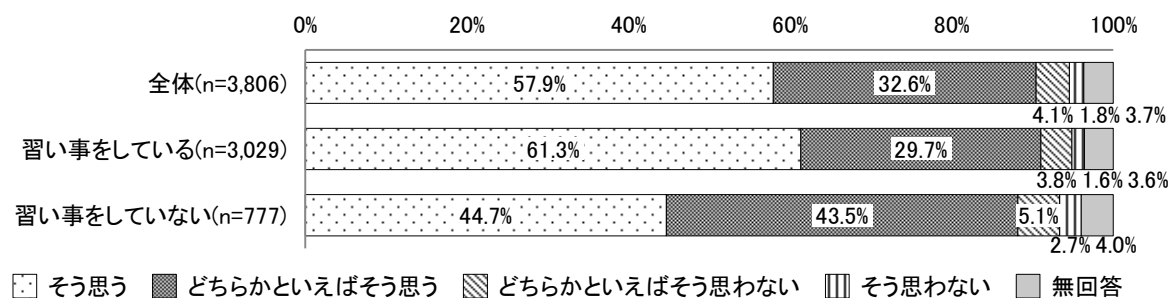
<周辺層> (有意差なし)

図表 470 習い事の有無（保護者 Q31C）別
将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）



<一般層> (p<.01)

図表 471 習い事の有無（保護者 Q31C）別
将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）

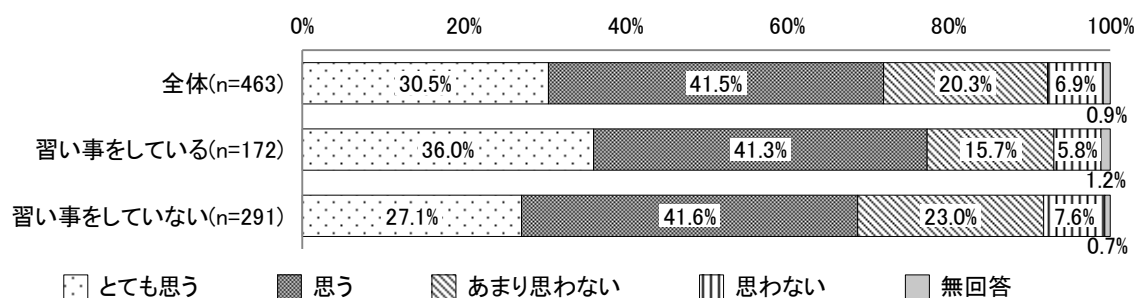


3) 【保護者×こども】思いや気持ち_がんばれば、むくわれる

習い事の有無別に、こどもの思いや気持ちとして『がんばれば、むくわれる』と思うかどうかをみると、一般層のみ、「習い事をしている」方が、「とても思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。

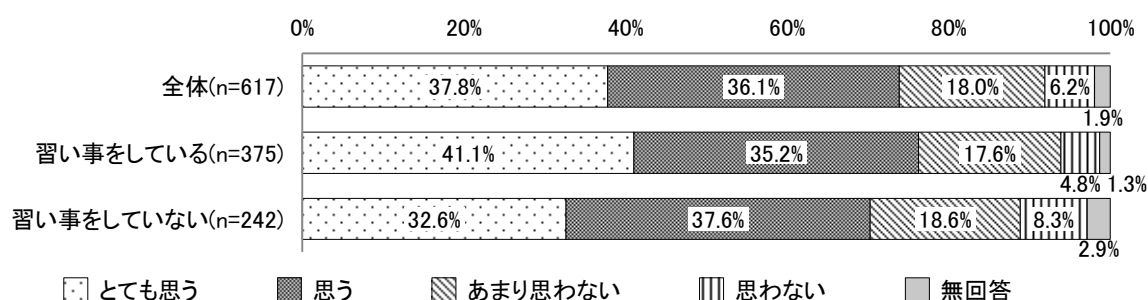
<困窮層> (有意差なし)

図表 472 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



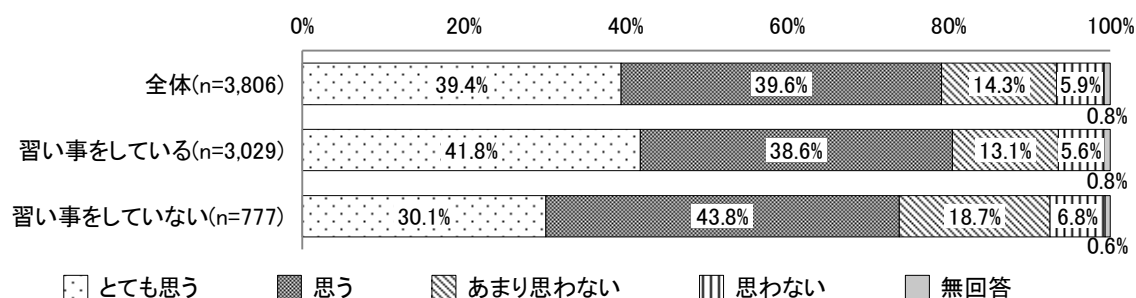
<周辺層> (有意差なし)

図表 473 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



<一般層> (p<.01)

図表 474 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）

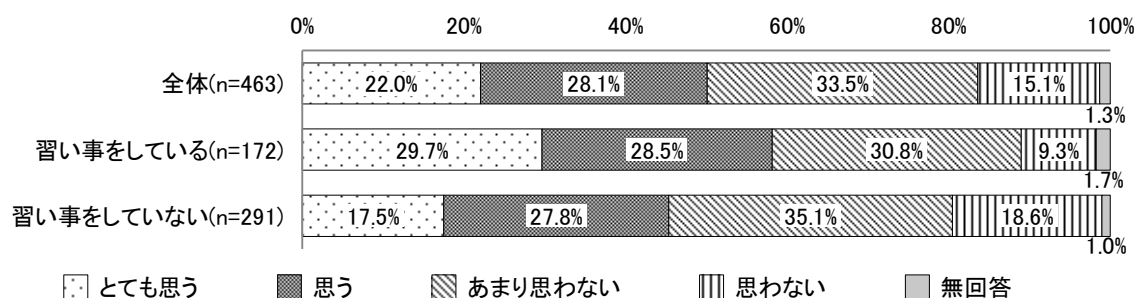


4) 【保護者×こども】思いや気持ち_自分は価値のある人間だ

習い事の有無別に、こどもの思いや気持ちとして『自分は価値のある人間だ』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、「習い事をしている」方が、「とても思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。

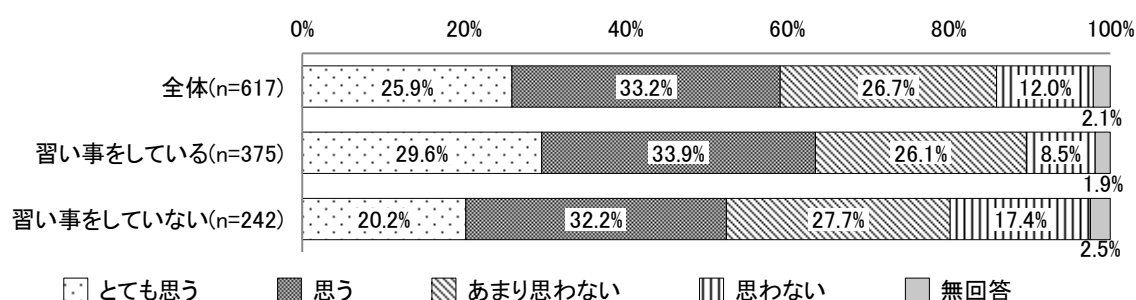
< 困窮層 > (p<.01)

図表 475 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



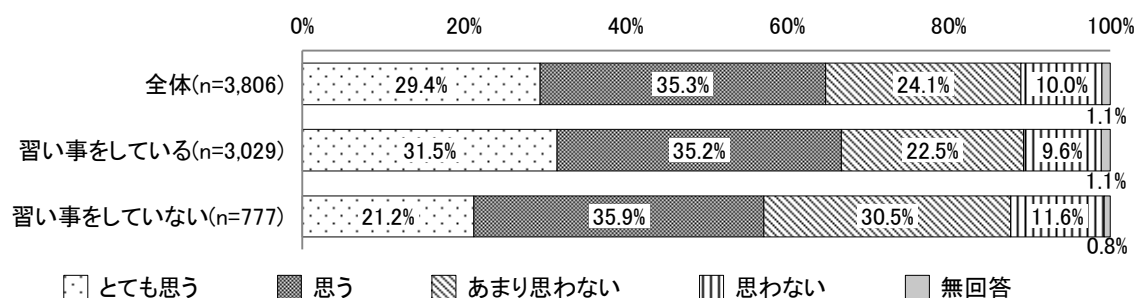
< 周辺層 > (p<.01)

図表 476 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



< 一般層 > (p<.01)

図表 477 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）

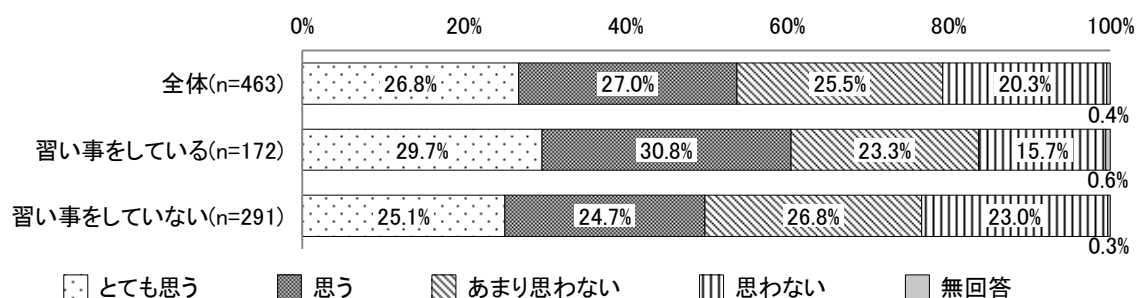


5) 【保護者×こども】思いや気持ち_自分のことが好きだ

習い事の有無別に、こどもの思いや気持ちとして『自分のことが好きだ』と思うかどうかをみると、周辺層、一般層では、「習い事をしている」方が、「とても思う」と回答した割合が高い傾向がみられたが、困窮層では差がみられなかった。

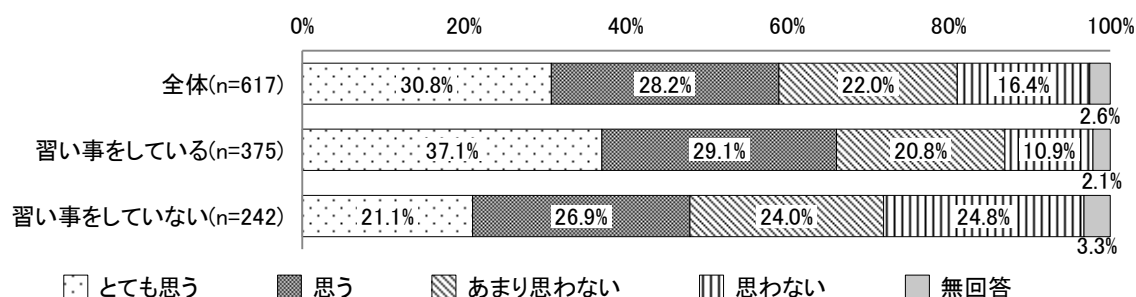
<困窮層> (有意差なし)

図表 478 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



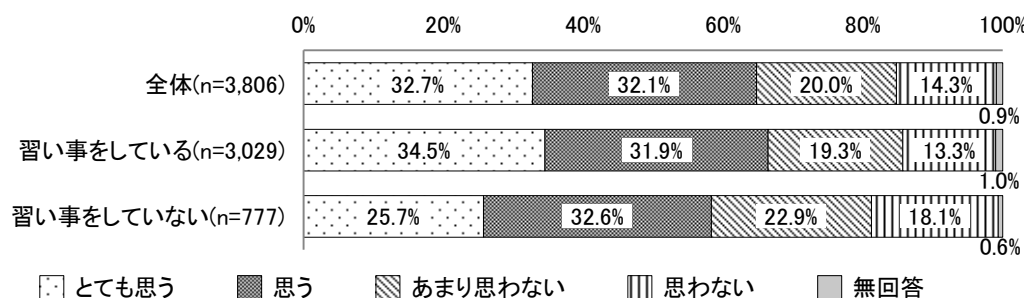
<周辺層> (p<.01)

図表 479 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



<一般層> (p<.01)

図表 480 習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



(2) 考察

- ここまで、習い事の有無と、こどもの将来の夢や自己肯定感との関係を生活困難度別にみてきた。以下ではその結果を考察する。
- 「将来の夢や目標があるか」は生活困難度に関わらずすべての層で有意差があり、習い事をしている方が、こどもは将来の夢や目標を持ちやすい状況がうかがえた。一方、「将来のために、今頑張りたいと思うか」は一般層のみ、習い事をしている方が「そう思う」と回答した割合が高かった。
- 習い事の有無と自己肯定感の関係をみると、「がんばれば、むくわれる」は一般層のみ、「自分のことが好きだ」は周辺層と一般層、「自分は価値のある人間だ」はいずれの層とも習い事をしている方が「とても思う」と回答した割合が高く、生活困難度によって有意差がみられるものが異なっていた。他の層と比較して、一般層は、習い事をしている方が、より自己肯定感が高い傾向にあった。
- 生活困難度によって自己肯定感にはやや違いがみられたものの、生活困難度に関わらず、習い事をするこどもは、こどもを前向きな気持ちにしたり、将来に対して希望をもったりすることにつながるとうかがえた。

6. こどもの生活習慣と健康

本節では、こどもの生活習慣と健康について分析した。

分析にあたっては、こども票問 14 の平日の就寝時間別に、こどもの心身の健康状態に関する設問とのクロス集計を行った。

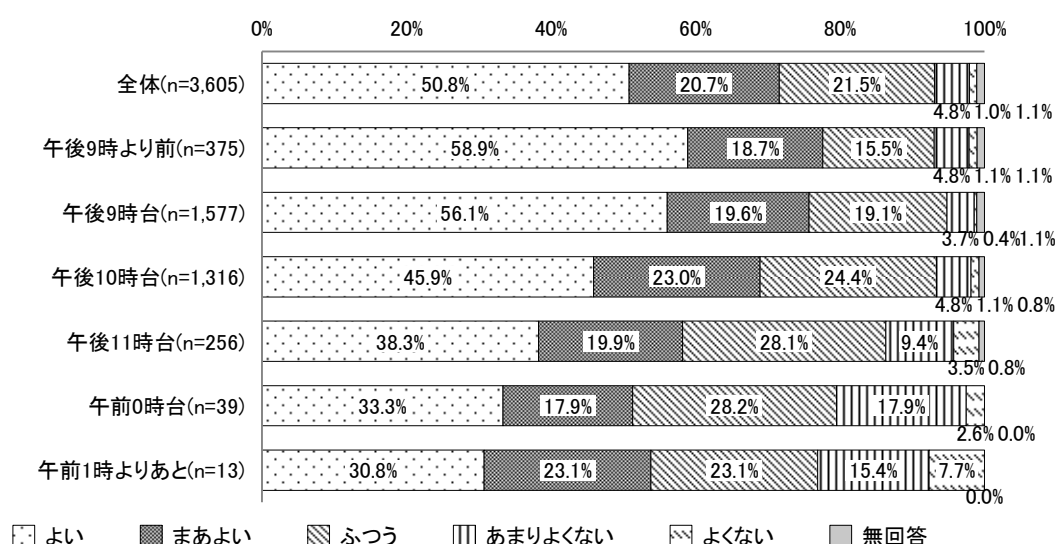
(1) 分析結果

1) 【こども】自分の健康状態

平日の就寝時間別に、自分の健康状態をみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「よい」と回答した割合が高い傾向にある。

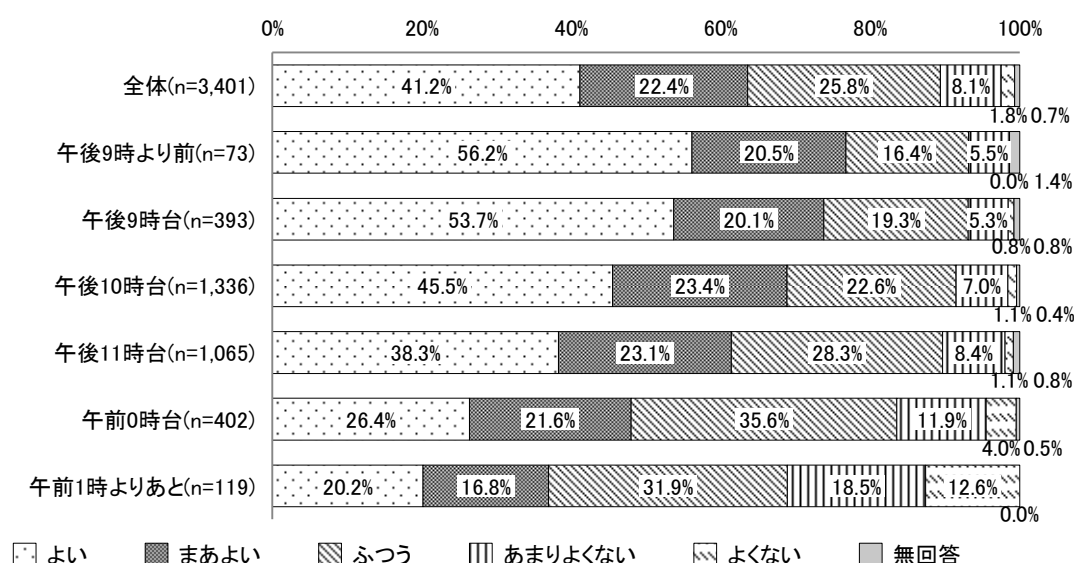
<小学生> (p<.01)

図表 481 平日の就寝時間（こども Q14）別 自分の健康状態：単数回答（こども Q30）



<中学生> (p<.01)

図表 482 平日の就寝時間（こども Q14）別 自分の健康状態：単数回答（こども Q30）

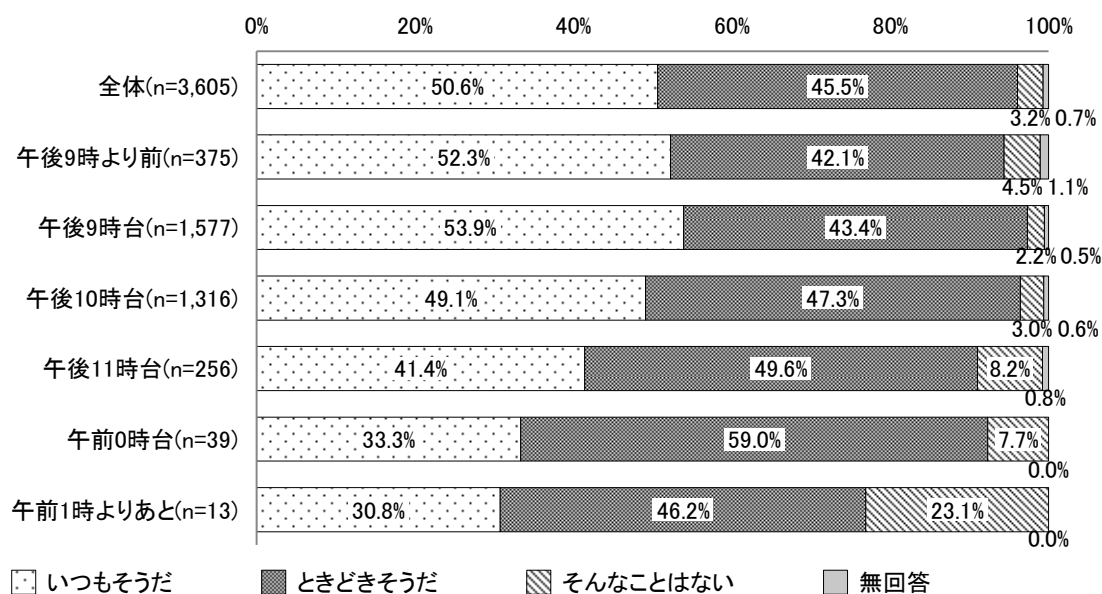


2) 【こども】心の状態_楽しみにしていることがたくさんある

平日の就寝時間別に、この1週間「楽しみにしていることがたくさんある」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

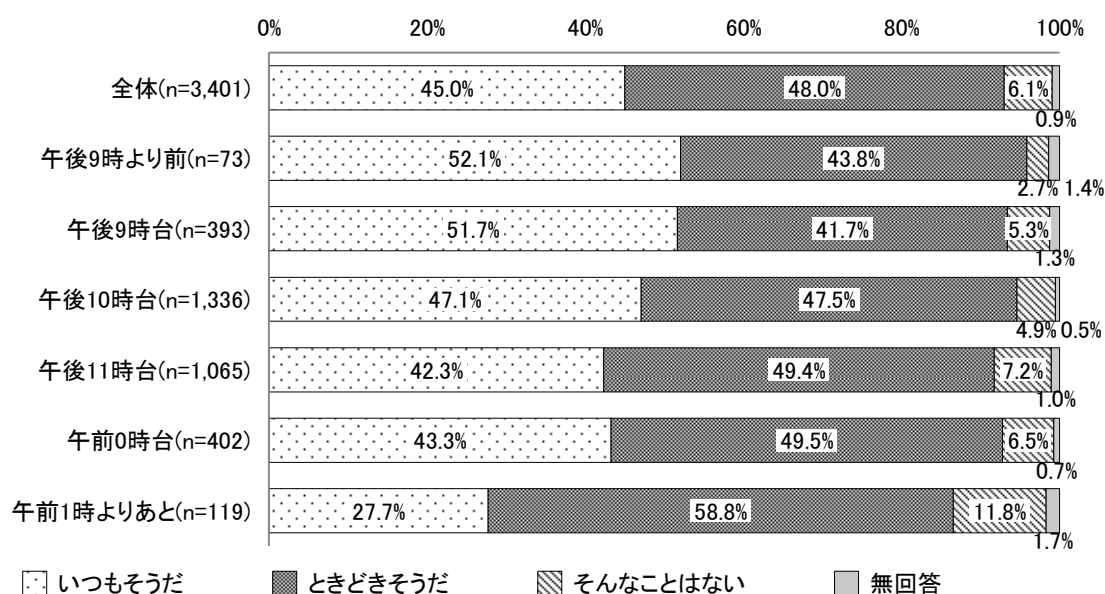
<小学生> (p<.01)

図表 483 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_楽しみにしていることがたくさんある：単数回答（こども Q32A）



<中学生> (p<.01)

図表 484 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_楽しみにしていることがたくさんある：単数回答（こども Q32A）

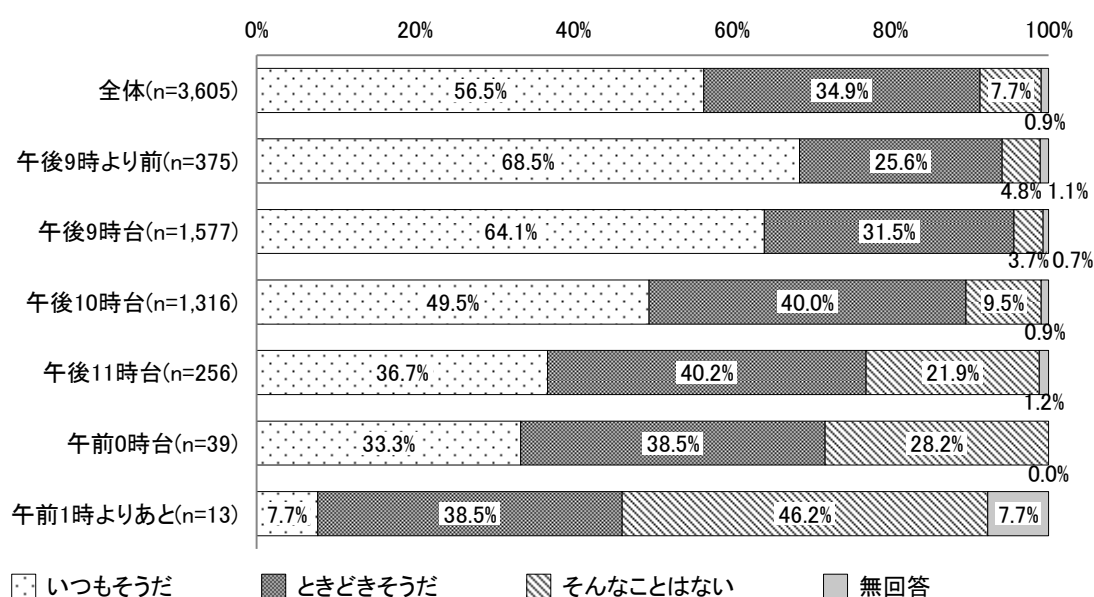


3) 【こども】心の状態_とてもよく眠れる

平日の就寝時間別に、この1週間「とてもよく眠れる」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

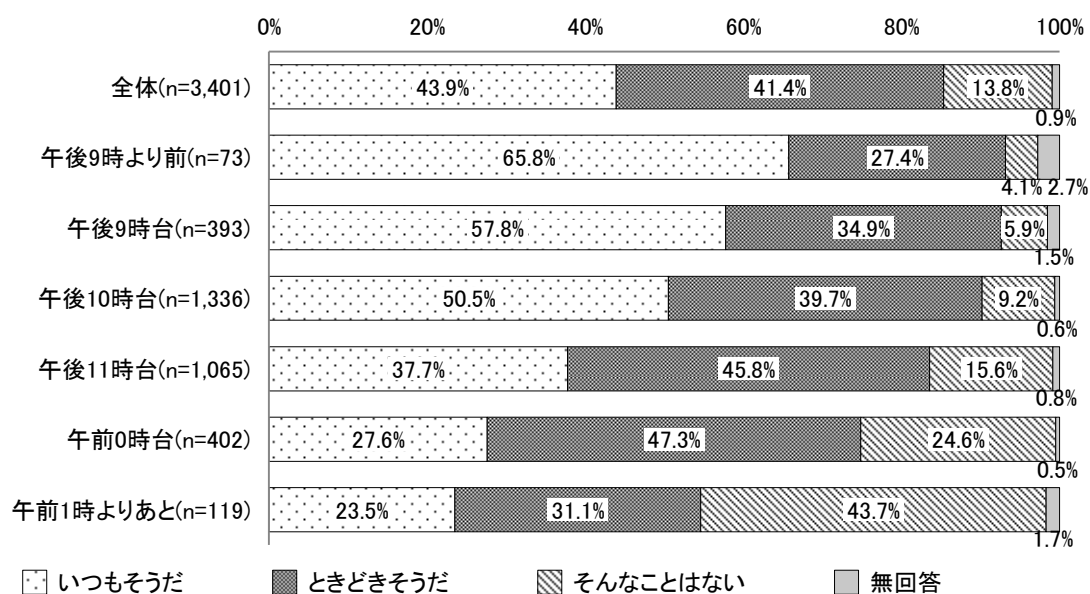
<小学生> (p<.01)

図表 485 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とてもよく眠れる：単数回答（こども Q32B）



<中学生> (p<.01)

図表 486 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とてもよく眠れる：単数回答（こども Q32B）

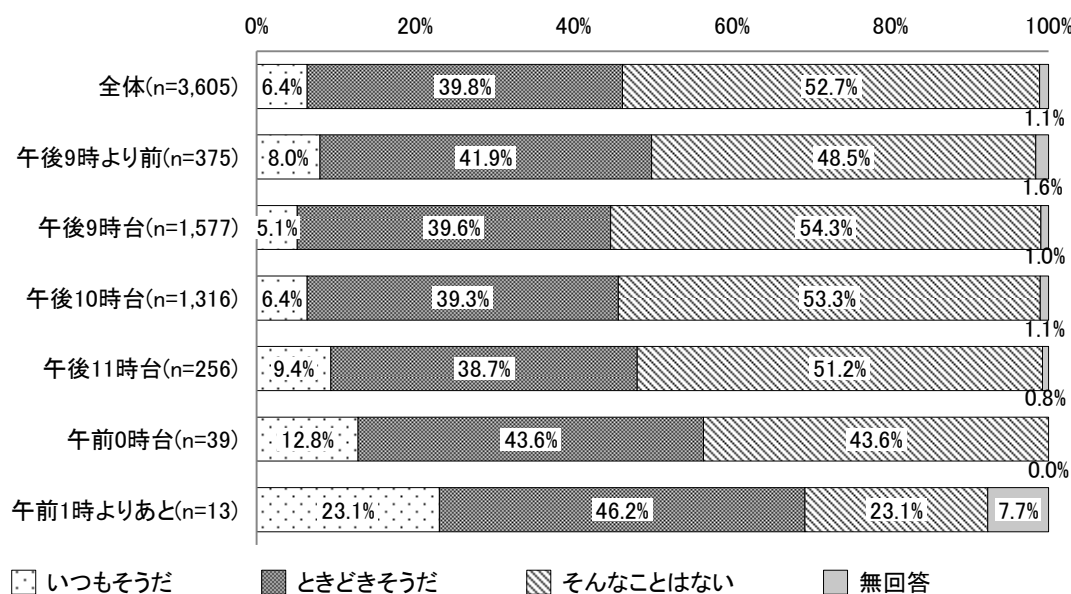


4) 【こども】心の状態_泣きたいような気がする

平日の就寝時間別に、この1週間「泣きたいような気がする」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が「午前0時台」以降であるほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

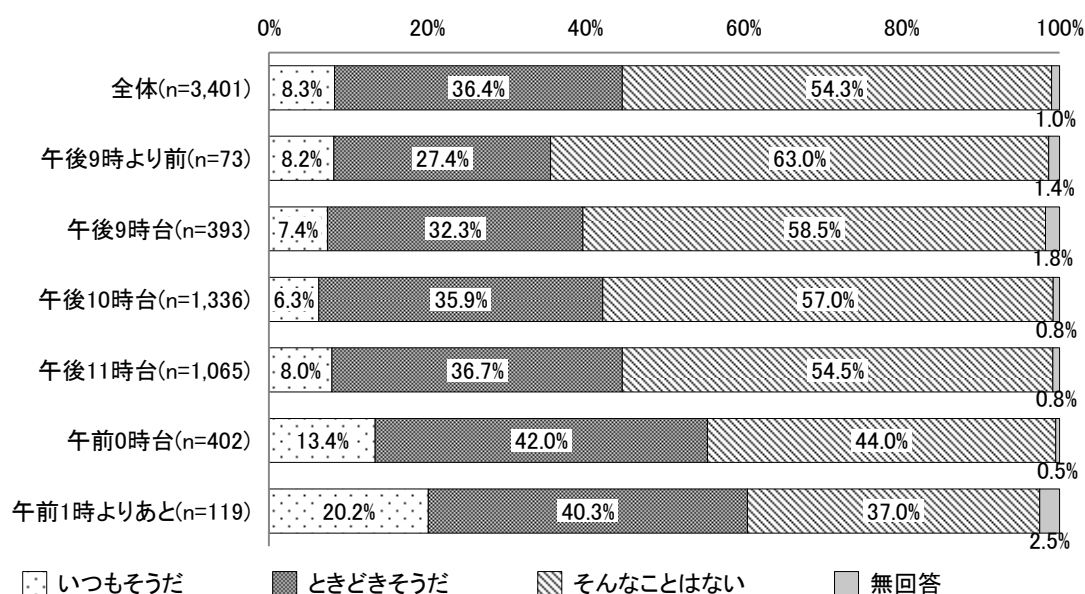
<小学生> (p<.01)

図表 487 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_泣きたいような気がする：単数回答（こども Q32C）



<中学生> (p<.01)

図表 488 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_泣きたいような気がする：単数回答（こども Q32C）

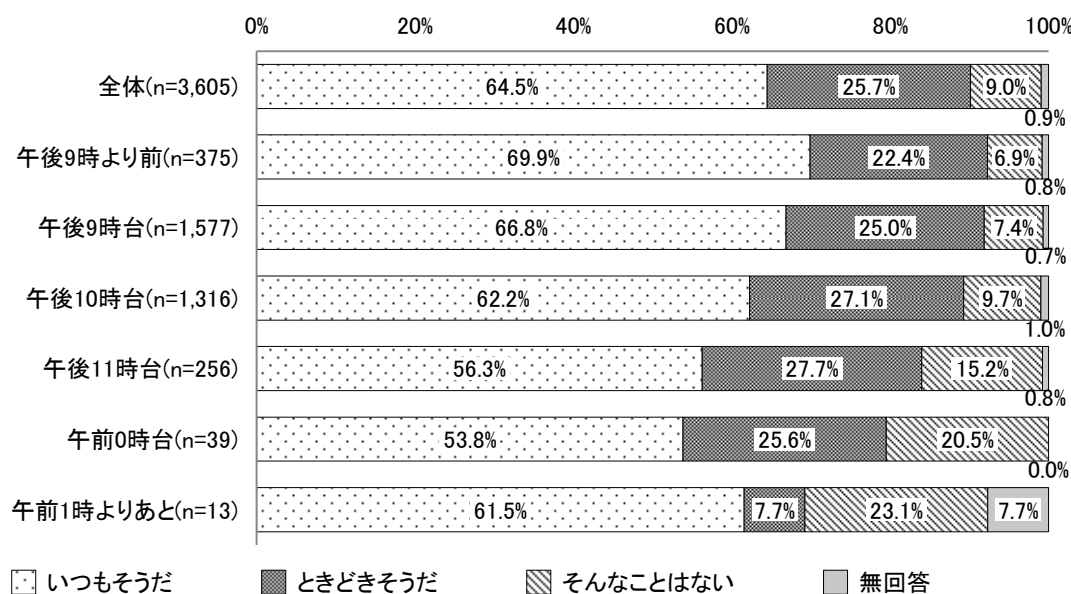


5) 【こども】心の状態_遊びに出かけるのが好きだ

平日の就寝時間別に、この1週間「遊びに出かけるのが好きだ」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が遅いほど、「そんなことはない」と回答した割合が高い傾向にある。

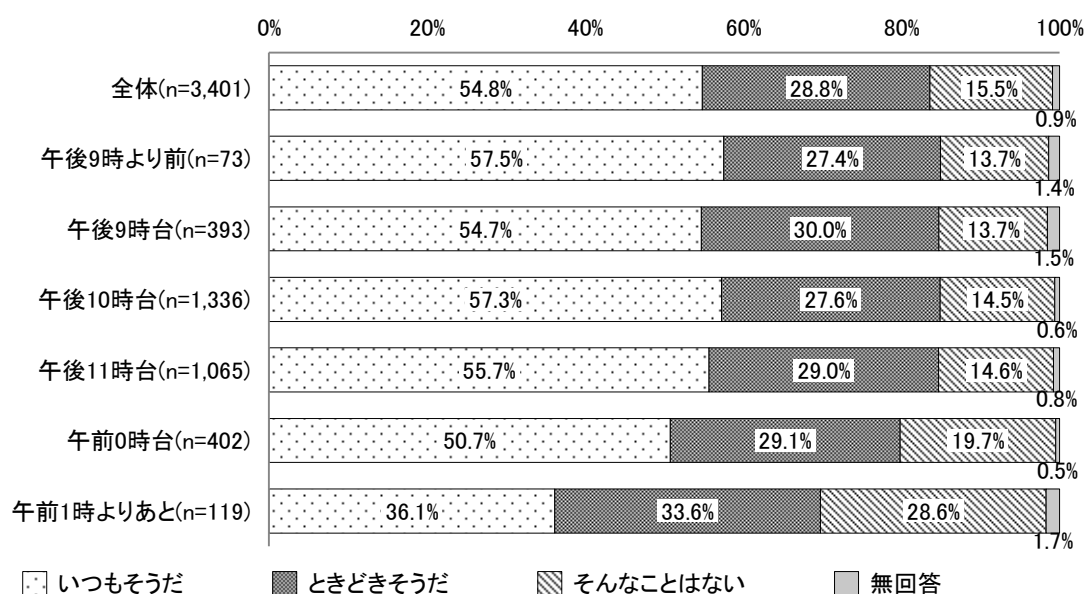
<小学生> (p<.01)

図表 489 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_遊びに出かけるのが好きだ：単数回答（こども Q32D）



<中学生> (p<.01)

図表 490 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_遊びに出かけるのが好きだ：単数回答（こども Q32D）

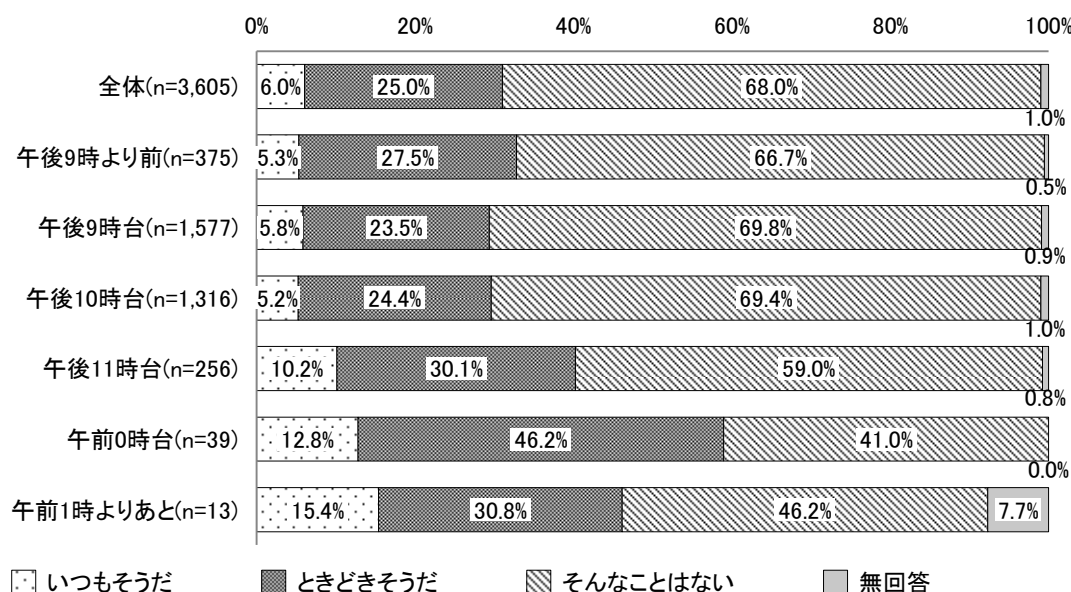


6) 【こども】心の状態_逃げ出したいような気がする

平日の就寝時間別に、この1週間「逃げ出したいような気がする」と感じたかどうかをみると、小学生では「午後11時台」以降、中学生では「午前0時台」以降であるほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

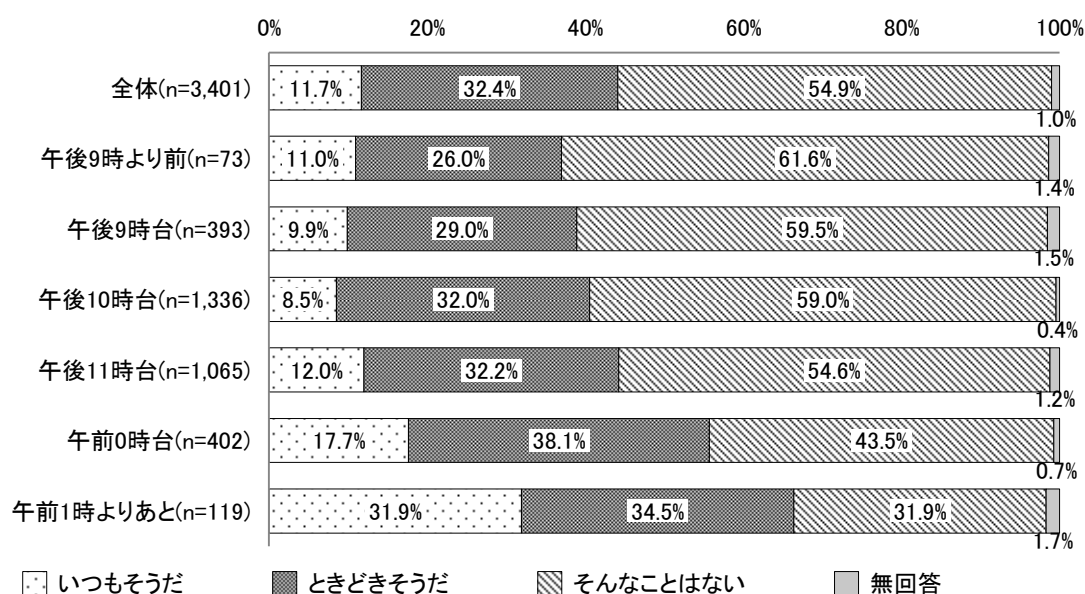
<小学生> (p<.01)

図表 491 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_逃げ出したいような気がする：単数回答（こども Q32E）



<中学生> (p<.01)

図表 492 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_逃げ出したいような気がする：単数回答（こども Q32E）

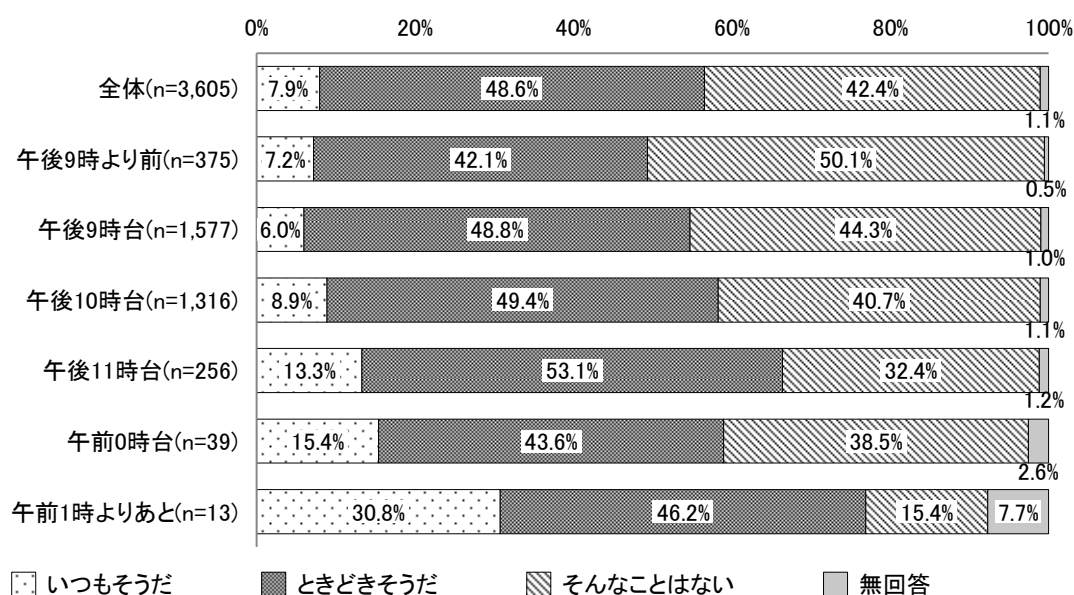


7) 【こども】心の状態_おなかが痛くなることがある

平日の就寝時間別に、この1週間「おなかが痛くなることがある」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が遅いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

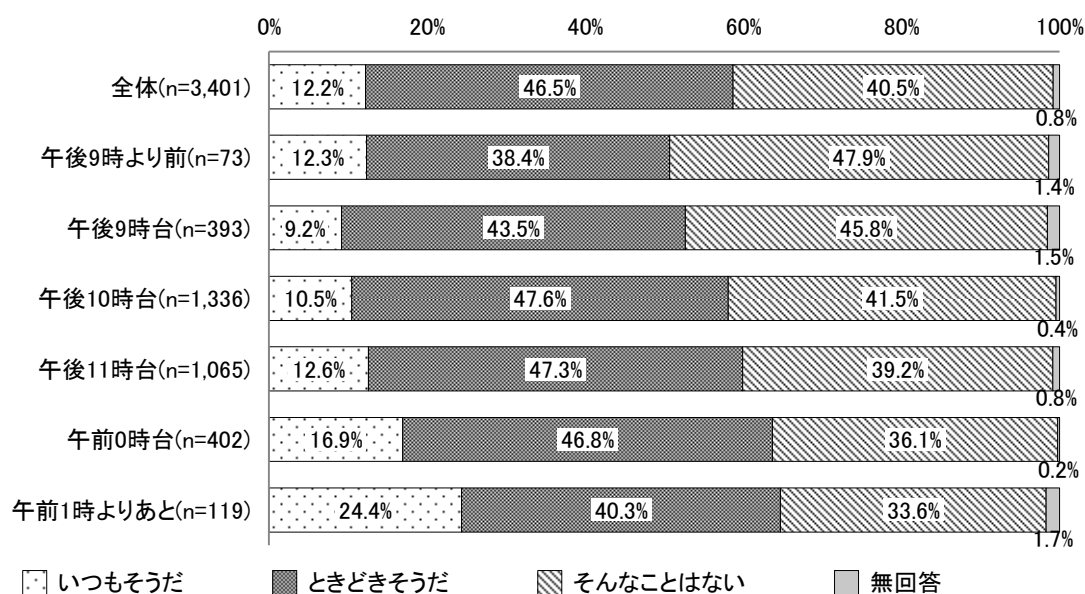
<小学生> (p<.01)

図表 493 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_おなかが痛くなることがある：単数回答（こども Q32F）



<中学生> (p<.01)

図表 494 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_おなかが痛くなることがある：単数回答（こども Q32F）

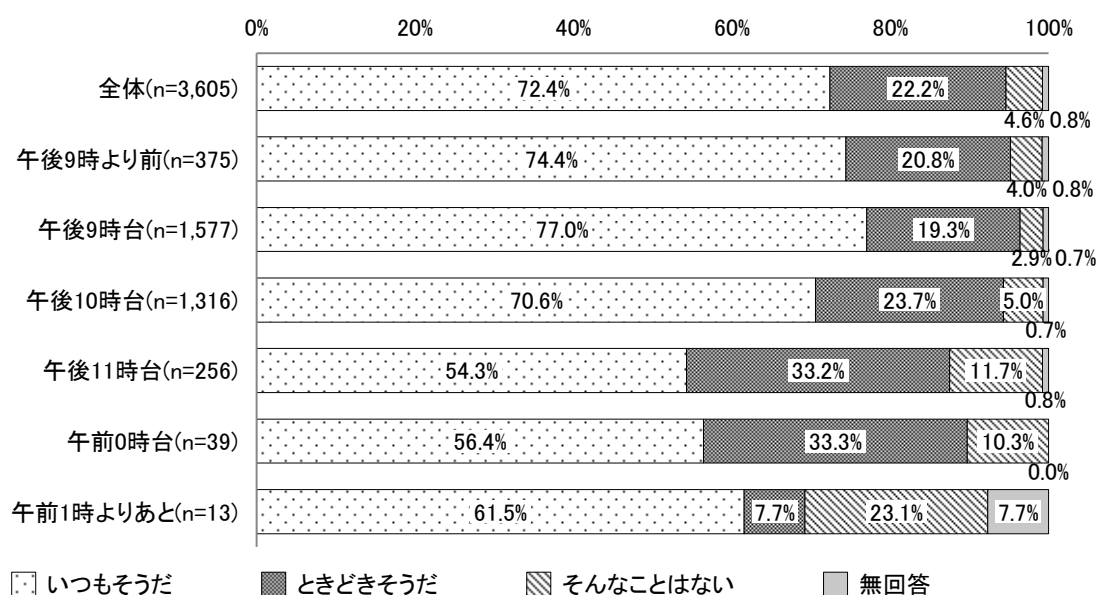


8) 【こども】心の状態_元気いっぱい

平日の就寝時間別に、この1週間「元気いっぱい」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、「午後10時台」以前では、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

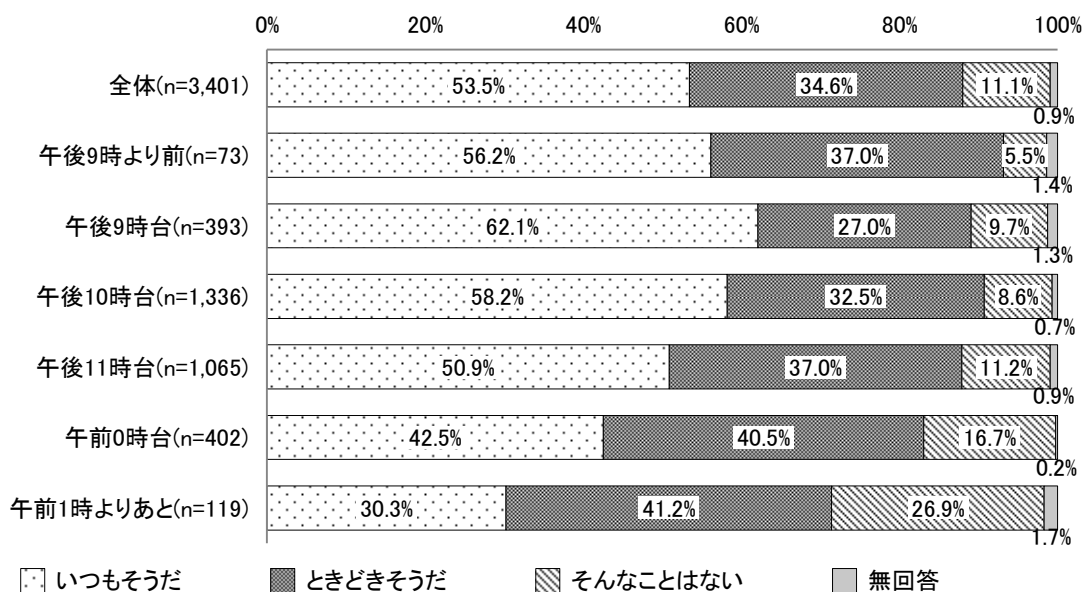
<小学生> (p<.01)

図表 495 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_元気いっぱい：単数回答（こども Q32G）



<中学生> (p<.01)

図表 496 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_元気いっぱい：単数回答（こども Q32G）

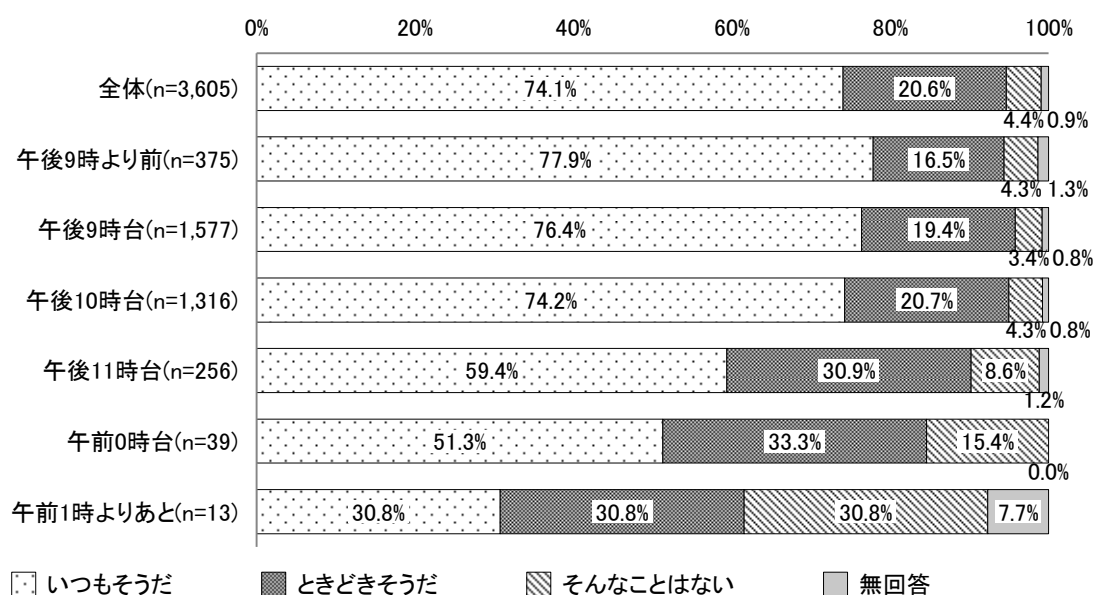


9) 【こども】心の状態_食事が楽しい

平日の就寝時間別に、この1週間「食事が楽しい」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

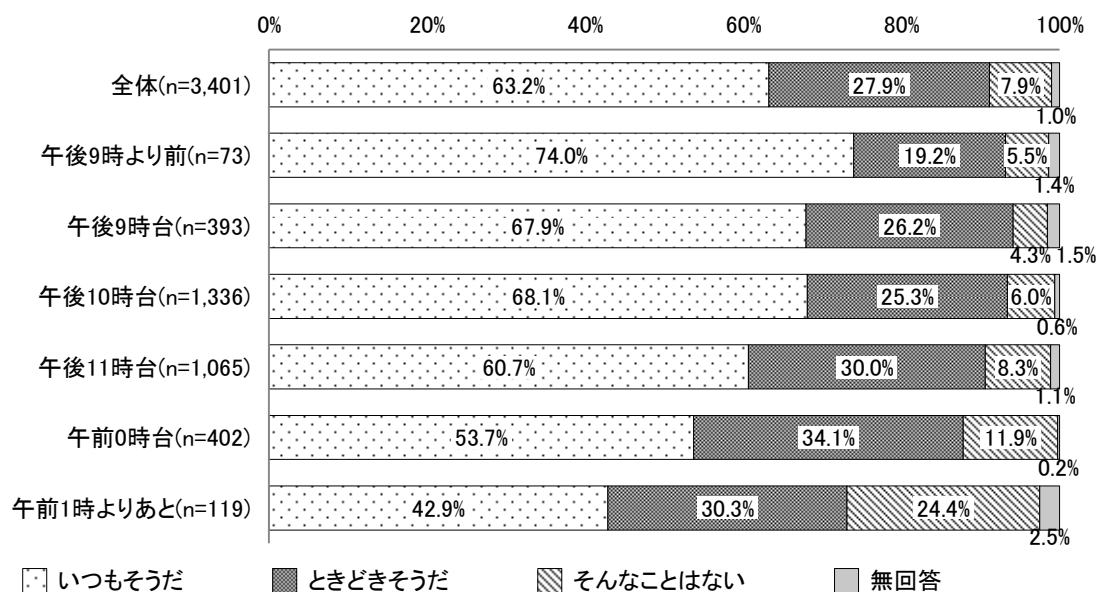
<小学生> (p<.01)

図表 497 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_食事が楽しい：単数回答（こども Q32H）



<中学生> (p<.01)

図表 498 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_食事が楽しい：単数回答（こども Q32H）

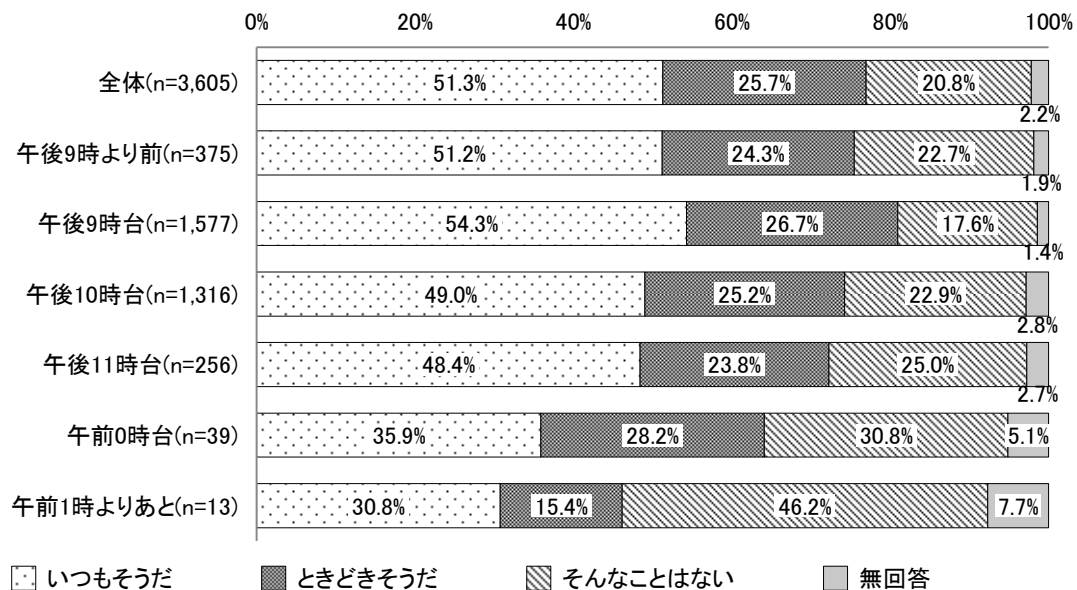


10) 【こども】心の状態_いじめられても自分で「やめて」と言える

平日の就寝時間別に、この1週間「いじめられても自分で「やめて」と言える」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

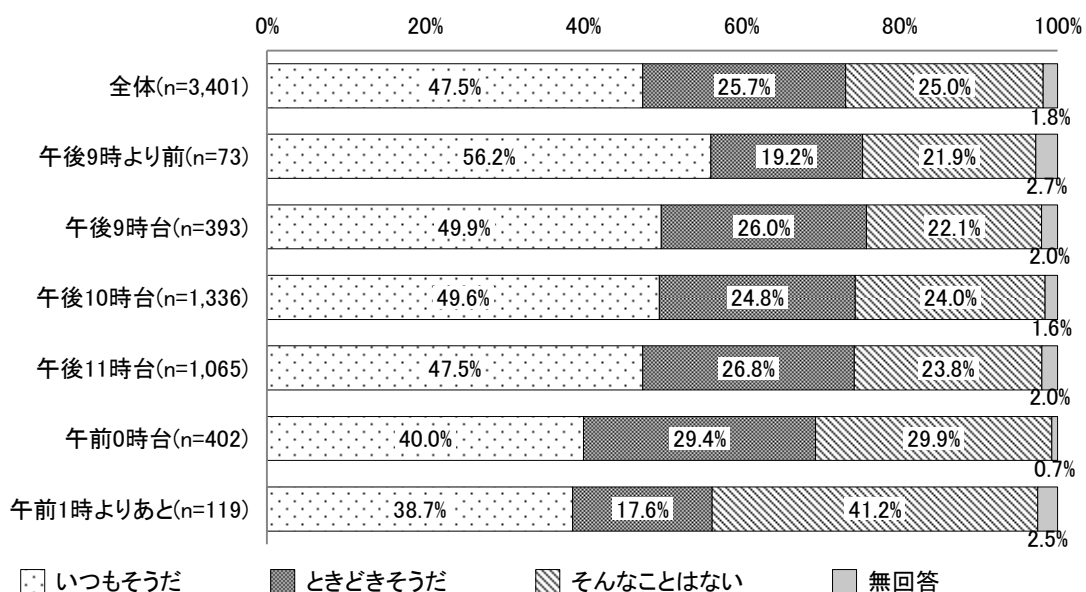
<小学生> (p<.01)

図表 499 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_いじめられても自分で「やめて」と言える：単数回答（こども Q32I）



<中学生> (p<.01)

図表 500 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_いじめられても自分で「やめて」と言える：単数回答（こども Q32I）

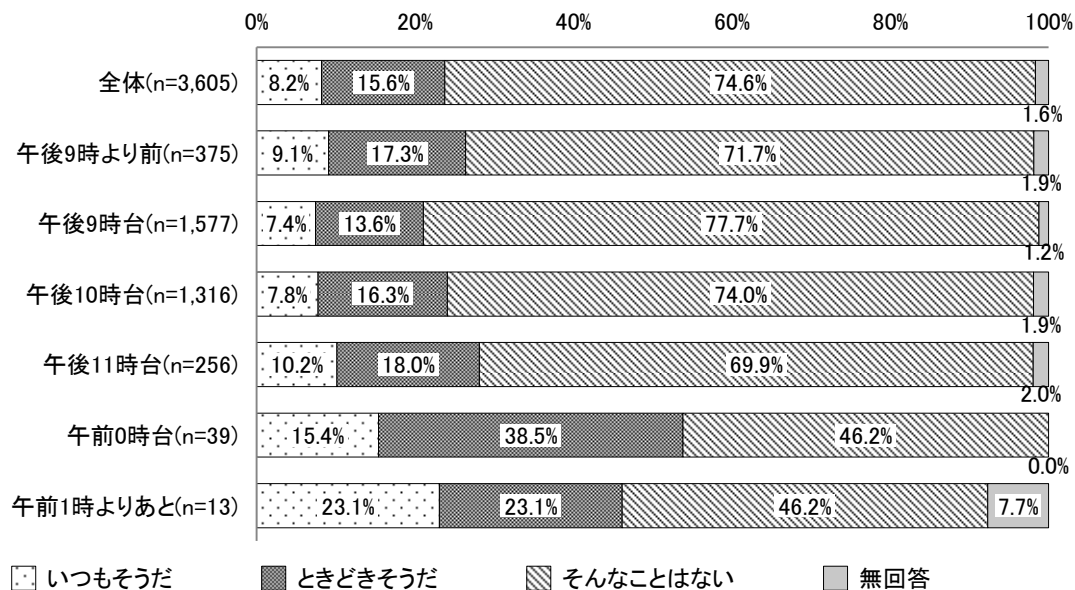


11) 【こども】心の状態_生きていても仕方がないと思う

平日の就寝時間別に、この1週間「生きていても仕方がないと思う」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が午前0時台以降になると、「いつもそうだ」「ときどきそうだ」を合わせた『そうだ』と感じる割合が高くなっている。

<小学生> (p<.01)

図表 501 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_生きていても仕方がないと思う：単数回答（こども Q32J）



<中学生> (p<.01)

図表 502 平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_生きていても仕方がないと思う：単数回答（こども Q32J）

